

付ニ應ズルモノ
 二 第二種 法第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ノ祕密程度前號ニ次グモノノ開示又ハ交付ニ應ズルモノ
 三 第三種 法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニシテ前各號以外ノモノノ開示又ハ交付ニ應ズルモノ

第二十六條 第二十四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外軍用資源祕密ノ開示、交付又ハ公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第二様式ノ許可願書(三通)ヲ其ノ最寄憲兵隊長(憲兵分隊長又ハ憲兵分遣隊長ヲ含ム以下之ニ同シ)又ハ警察署長(臺灣ニ在リテハ郡守又ハ支廳長ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ
 第二十八條 指定官憲第十四條又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受理シタルトキハ第三十條第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外之ニ意見ヲ附シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ指定官憲ニ提出スベシ
 前項ノ場合ニ於テ指定官憲必要アルトキハ憲兵隊長又ハ警察署長ノ意見ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 憲兵隊長又ハ警察署長第二十六條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受理シタルトキハ内一通ハ之ヲ保管シ他ノ二通ハ意見ヲ附シ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ
 第三十一條 陸軍大臣又ハ海軍大臣第十五條又ハ第二十七條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付ス
 第三十三條 許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ指定官憲ニ遲滞ナク届出デ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下付ヲ受ケザルトキト雖モ指定官憲又ハ最寄憲兵隊長若ハ警察署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

○昭和十四年司法省令第二十

六號(軍用資源祕密保護法

施行令第十二條ノ適用ニ關

スル件)

昭和十四年六月二十四日
司法省令第二十六號

軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件左ノ
 通定ム

第一條 司法大臣登記簿ニ付軍用資源祕密保護法施行令第十三條第一項ノ制限ヲ爲サントスルトキハ管轄登記所ニ對シ其ノ旨ヲ通知ス
 第二條 前條ノ登記簿ヲ閱覽シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ司法大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
 前項ノ許可ノ申請ハ管轄登記所ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ
 第三條 申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ明記シ且申請ノ事由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス
 第四條 申請書ノ提出アリタルトキハ登記官吏ハ遲滞ナク調査シタル上意見ヲ具シ地方裁判所長ヲ經由シテ之

ヲ進達スベシ

第五條 司法大臣ノ許可ヲ得テ第一條ノ登記簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ其ノ許可書ヲ添附スベシ

附 則

本令ハ軍用資源祕密保護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○文部大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル件

昭和十四年十二月二十九日
文部省令第五十九號

文部大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル件左ノ通定ム

文部大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル件

第一條 本令ハ軍用資源祕密保護法(以下法ト稱ス)第二條ノ規定ニ依ル文部大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條 法第二條本文ノ規定ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ軍用資源祕密トシテ指定ス

- 一 氣象管制ニ關スル暗號書類
- 二 氣象管制實施中(暴風雨等ニ際シ氣象通報ニ暗號ヲ使用セザル場合ヲ除ク)ニ限リ其ノ期間ニ於ケル左ノ氣象ニ關スル事項

風 氣 壓 向

- 風 速
- 天 氣
- 雲 量
- 雲 形
- 雲 高
- 視 程
- 地表百米以上ノ氣溫又ハ濕度
- 天氣概況
- 天氣豫報
- 暴風警報

第三條 文部大臣法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ該設備ノ場所ニ附圖第一ニ定ムル標識ヲ設置ス

前項ノ標識ヲ設置シタル設備ノ場所ニ付テハ法第六條ノ規定ニ依リ之ニ付立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第一號様式ノ許可願書(三通)ヲ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ヲ經テ文部大臣ニ提出スベシ

第四條 軍用資源祕密保護法施行令(以下令ト稱ス)第十

二條ノ規定ニ依リ文部大臣所管ノ官廳以外ノ官廳ニ於テ第三條第二項ニ規定スル行爲ノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第一號様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(二通)ヲ文部大臣ニ提出スベシ

第五條 法第二條第十三號若ハ第十四號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ外國、外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニシ又ハ法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第二號様式ノ許可願書(二通)ヲ文部大臣ニ提出スベシ

第六條 令第十八條第一項ノ規定ニ依リ文部大臣所管ノ官廳以外ノ官廳ニ於テ軍用資源祕密ヲ開示シ、交付シ又ハ公ニスルコトノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第二號様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(二通)ヲ文部大臣ニ提出スベシ

第七條 文部大臣第三條第三項又ハ第四條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ爲シタルトキハ附圖第二ノ許可證又ハ之ニ準ズル承認證ヲ交付ス

第八條 文部大臣第五條又ハ第六條ノ規定ニ依ル許可又

第四 軍用資源祕密保護法關係 文部大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル件 一七九

ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可證又ハ承認證ヲ交付ス

第九條 許可證又ハ承認證ハ第三條第二項ニ規定スル行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ當該設備ノ看守者、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十條 第三條第二項ニ規定スル行爲ノ許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該設備ノ等理者又ハ之ニ準ズベキ者ヲ經テ文部大臣ニ遲滞ナク届出テ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ

第十一條 第三條第一項ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
別記

第一號様式

立入(測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)願
本籍(外國人ニ在リテハ國籍)
住所
職業

氏名 年 齡

昭和 年 月 日

文部大臣 殿

左記ノ通立入(測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)致度ニ付許可相成度候也

左記

- 一 目的
- 二 設備ノ名稱及所在地
- 三 區域(圖書物件名)
- 四 日時(期間)
- 五 方法
- 六 使用器具類ノ名稱
- 七 作業者ノ住所、氏名及年齢
- 八 作業ノ場所
- 九 成果物ノ員數及其ノ用途
- 十 其ノ他參考トナルベキ事項

注意

一 用紙 日本標準規格B列四番

- 二 行為ノ種別 必要ナル行為ノミチ記載スルモノトス
- 三 目的 機械ノ製作ノ爲等ト記載スルモノトス
- 四 設備ノ名稱及所在地 何大學何研究所 何縣何郡何村何番地等ト記載スルモノトス
- 五 區域(圖書物件) 區域ハ何大學ノ何設備ノ全部又ハ何部分等、圖書物件ハ撮影、模寫、複寫等ヲ爲スベキ圖書物件ノ名稱ヲ記載スルモノトス
- 六 日時(期間) 何年何月何日午前何時又ハ何年何月何日ヨリ何月何日迄等ト記載スルモノトス
- 七 方法 平面測量、油繪等ト記載スルモノトス
- 八 使用器具類ノ名稱 何測量器、何寫眞機等ト記載スルモノトス
- 九 作業者ノ住所、氏名及年齢 現ニ作業ニ從事セシムル者ノ住所、氏名及年齢ヲ記載スルモノトス
- 十 作業ノ場所 何縣何郡何村何番地等ト測量圖書ノ作成、現像、燒付等ノ作業ヲ行フ場所ヲ記載スルモノトス
- 十一 成果物ノ員數及其ノ用途 測量ノ成果、寫眞原畫、複寫圖書等何部、何枚等及機械器具ノ製作ノ爲

等ト記載スルモノトス

第二號様式

軍用資源祕密ノ開示(交付、公ニスルコトノ)許可願

本籍 住所 職業

氏名 年 齡

昭和 年 月 日

文部大臣 殿

左記ノ通軍用資源祕密ヲ開示(交付、公ニ)致度ニ付許可相成度候也

左記

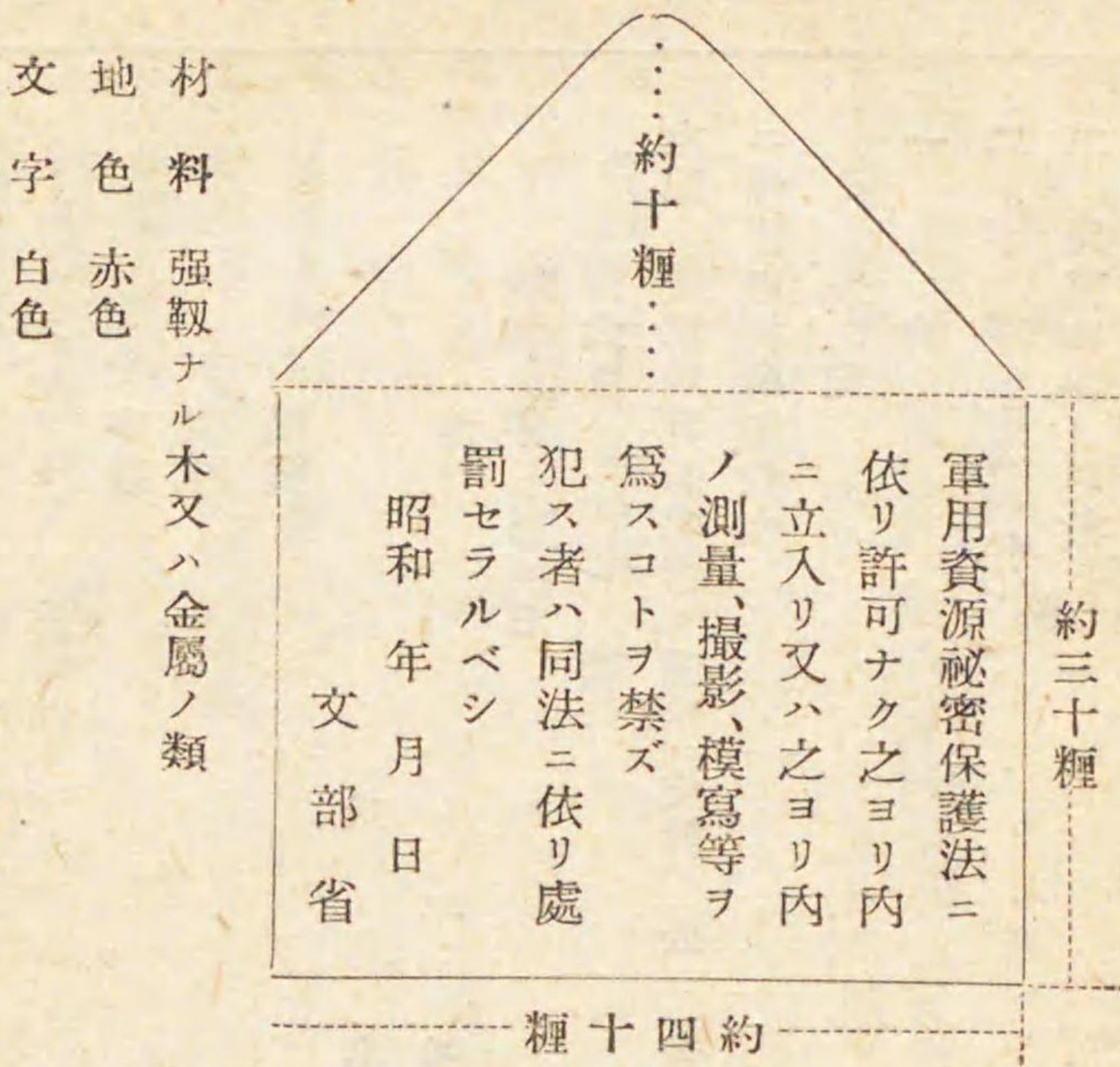
- 一 目的
- 二 事項(圖書物件)
- 三 圖書物件ノ員數
- 四 日時
- 五 方法

第四 軍用資源祕密保護法關係 文部大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル件 一八一

注意

- 一 用紙 日本標準規格B列四番
- 二 目的 學術會ニ於ケル講演等ト記載スルモノトス
- 三 方法 閱覽ニ供ス、郵便ニテ送付ス等ト記載スルモノトス
- 四 相手方ノ住所、職業及氏名 開示シ又ハ交付スル相手方ノ住所(外國人ニ在リテハ國籍共)職業及氏名(法人其ノ他ノ團體ニ在リテハ代表者ノ住所、氏名及其ノ員數、團體中ニ外國人アルトキハ其ノ國籍、住所、職業及氏名)ヲ記載スルモノトス
- 六 相手方ノ住所、職業及氏名
- 七 其ノ他參考トナルベキ事項

附圖第一



附圖第二

(日本標準規格B列七番)

第 號	昭和 年 月 日	文 部 省 印
軍用資源秘密保護法ノ立入(測量、模寫、模造、錄取、複寫、複製)許可證		
一	職業、氏名、年齢	
二	設備名	
三	日時(期間)	

備考 裏面ニハ許可條件其ノ他必要ナル事項ヲ記入スルモノトス

○遞信大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル件

昭和十四年十一月十五日 遞信省令第五十四號

遞信大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル件左ノ通定ム

遞信大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル件

第一條 本令ハ軍用資源秘密保護法(以下法ト稱ス)第二條ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ軍用資源秘密トシテ指定ス

- 一 昭和十三年一月以降ニ於ケル道府縣廳、防衛司令部、師團司令部、要塞司令部、鎮守府、要港部所在地相互間ヲ連絡スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話各別ノ回線總數及同上各區間ニ於ケル電氣通信ノ疏通能力竝ニ此等ヲ表示スル記錄圖表
- 二 昭和十三年一月以降ニ於ケル内地ト朝鮮、臺灣、

第四 軍用資源秘密保護法關係 遞信大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル件 一八三

樺太、關東州、滿洲國又ハ中華民國トテ連絡スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話各別ノ回線總數及同上各區間ニ於ケル電氣通信ノ疏通能力竝ニ此等ヲ表示スル記錄圖表

第三條 遞信大臣法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ秘匿スル爲必要アリト認ムルトキハ當該設備ノ場所ニ附圖ニ定ムル標識ヲ設置シ又ハ當該設備ノ管理者若ハ之ニ準ズベキ者ニ遮蔽其ノ他ノ措置ヲ命ズルコトアルベシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ附圖ニ定ムル標識ヲ設置シタル設備ノ場所ニ付テハ立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ附錄第一様式ノ願書三通ヲ所轄遞信局長ヲ經テ遞信大臣ニ提出スベシ

第五條 遞信官署以外ノ官廳ニ於テ軍用資源秘密保護法施行令(以下施行令ト稱ス)第十二條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスルトキハ前條ノ願書ニ準ズル申請書三通ヲ所轄遞信局長ヲ經テ遞信大臣ニ提出スベシ

第六條 法第二條第十二號及第十三號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ外國、外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ施行令第五條ノ規定ニ依ル場合ノ外公ニシ又ハ法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ施行令第五條ノ規定ニ依ル場合ノ外公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスル者ハ附錄第二様式ノ願書三通ヲ所轄遞信局長ヲ經テ遞信大臣ニ提出スベシ

第七條 遞信官署以外ノ官廳ニ於テ施行令第十八條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスルトキハ前條ノ願書ニ準ズル申請書三通ヲ所轄遞信局長ヲ經テ遞信大臣ニ提出スベシ

第八條 遞信大臣第四條若ハ第六條ノ規定ニ依リ許可シ又ハ第五條若ハ第七條ノ規定ニ依リ承認シタルトキハ許可證又ハ承認證ヲ交付ス

前項ノ許可證又ハ承認證ヲ滅失シタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル届書三通ヲ遲滞ナク所轄遞信局長ヲ經テ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ許可證又ハ承認證ノ再下付ヲ受ケントスル者ハ第四條第二項又ハ第五條ノ規定ニ準シ申請

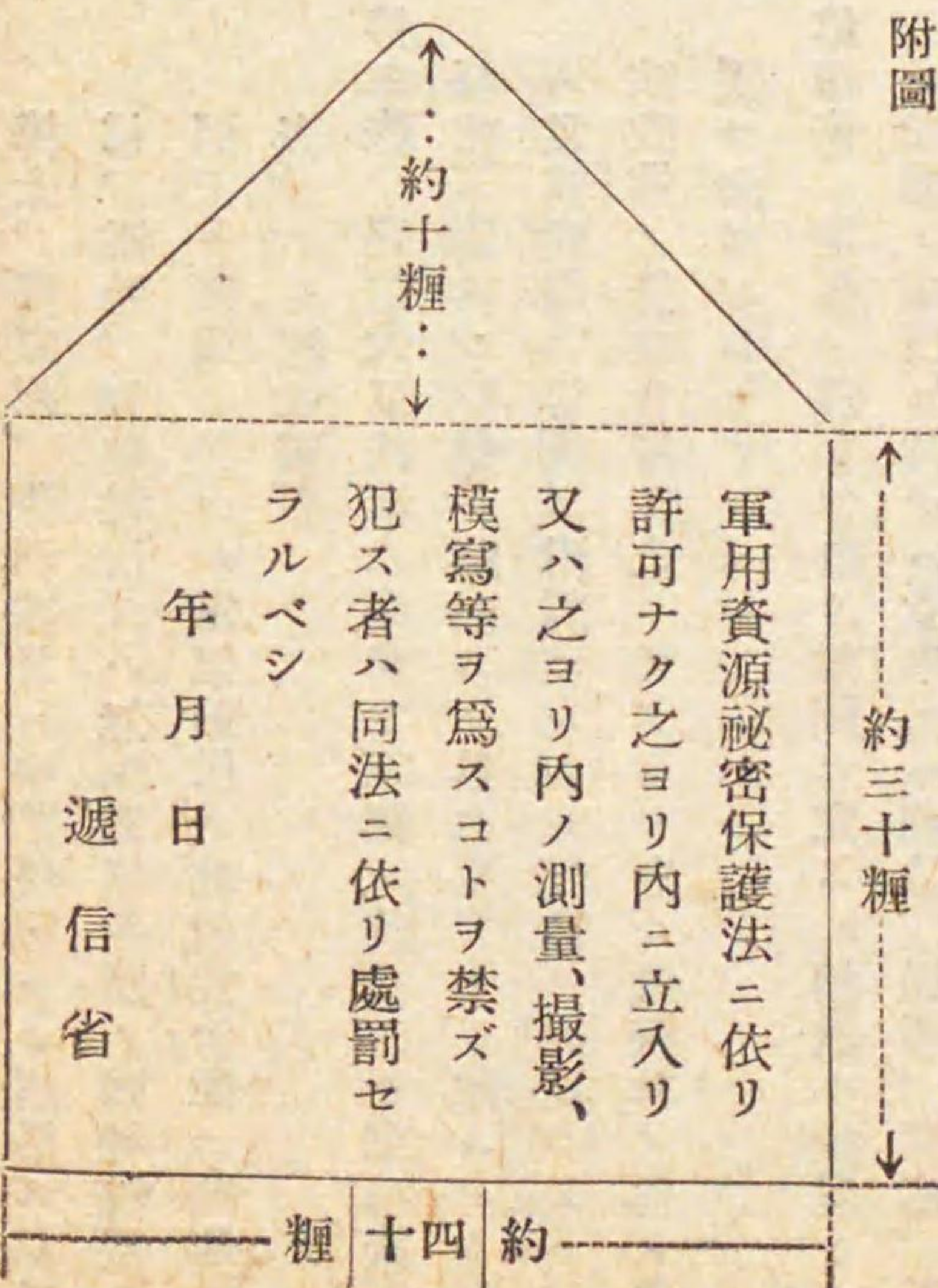
第九條 許可證又ハ承認證ハ第四條第一項ニ規定スル行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ當該設備ノ看守者、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十條 第三條ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附圖



材料 強靱ナル木又ハ金屬ノ類
地色 赤色
文字 白色

附錄第一様式

立入(測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)許可願書
本籍(外國人ニ在リテハ國籍)
住所
職業

氏名
年 齡

年月日
遞信大臣 殿

左記ノ通立入(測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)致度ニ付許可相成度候也

左記

- 一 目的
- 二 設備ノ所在地及名稱
- 三 區域(圖書物件名)

第四 軍用資源秘密保護法關係 遞信大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル件 一八五

- 四 日時(期間)
- 五 方法
- 六 使用器具類ノ名稱
- 七 作業者ノ住所、氏名及年齡
- 八 作業ノ場所
- 九 成果物ノ員數及其ノ用途
- 十 其ノ他參考トナルベキ事項

注意

- 一、用紙 日本標準規格B列四番(大體半紙判大)
- 二、目的 建造物ノ新增築等許可ヲ受クベキ事由ヲ記載スルモノトス
- 三、建造物其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱 何縣何郡何村何番地何電信局何送信所等ト記載スルモノトス
- 四、區域(圖書物件名) 區域ハ何局内ノ何設備ノ全部又ハ何部分等ヲ圖書物件ナルトキハ撮影、模寫、複寫等ヲ爲スベキ圖書物件ノ名稱ヲ記載スルモノトス
- 五、日時(期間) 何年何月何日午前何時又ハ何年何月何日ヨリ何月何日迄等ト記載スルモノトス
- 六、方法 平面測量、油繪等ト記載スルモノトス

- 七、使用器具類ノ名稱 何測量器、何寫真機等ト記載スルモノトス
- 八、作業者ノ住所、氏名及年齡 現ニ作業ニ從事セシムル者ノ住所、氏名及年齡ヲ記載スルモノトス
- 九、作業ノ場所 何縣何郡何村何番地等ト測量圖ノ作成、寫真ノ現像又ハ燒付等ヲ行フ場所ヲ記載スルモノトス
- 十、成果物ノ員數及其ノ用途 測量ノ成果、寫真原畫、複寫圖書等何部又ハ何枚等及建造物新增築ノ爲使用等ト記載スルモノトス
- 十一、立入ノミノ許可ヲ受ケントスル者ハ左記第五號乃至第十號ノ事項ハ記載ヲ要セザルモノトス

附錄第二様式

軍用資源祕密ノ開示(交付、公ニスルコト)

許可願書

本籍	氏名
住所	名
職業	◎

年 齡

年 月 日

遞信大臣 殿

左記ノ通軍用資源祕密ヲ開示(交付、公ニ)致度ニ付許可相成度候也

左記

- 一 目的
- 二 事項、圖書物件
- 三 圖書物件ノ員數
- 四 日時
- 五 方法
- 六 開示、交付ノ相手方ノ住所、職業及氏名
- 七 其ノ他參考トナルベキ事項

注意

- 一、用紙 日本標準規格B列四番(大體半紙判大)
- 二、目的 商業取引、營業廣告等ト記載スルモノトス
- 三、方法 何某ノ閱覽ニ供ス、何某ニ對シ郵便ニテ送付、何雜誌何月號ニ掲載等ト記載スルモノトス
- 四、開示、交付ノ相手方ノ住所、職業及氏名 開示シ

又ハ交付スル相手方ノ住所(外國人ニ在リテハ國籍共)職業及氏名(法人其ノ他ノ團體ニ在リテハ代表者ノ住所、氏名及其ノ成員數、團體中ニ外國人アルトキハ其ノ國籍、住所、職業及氏名)ヲ記載スルモノトス

○國有鐵道軍用資源祕密保護

規則 昭和十四年九月二十八日 鐵道省令第十七號

國有鐵道軍用資源祕密保護規則左ノ通定ム

國有鐵道軍用資源祕密保護規則

- 第一條 本令ハ軍用資源祕密保護法(以下法ト稱ス)第二條ノ規定ニ依リ鐵道大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス
- 第二條 法第二條本文ノ規定ニ依リ軍用資源祕密ヲ別表ノ如ク指定ス
- 第三條 鐵道大臣法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ當該設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ祕匿スルニ必要ナル措置ヲ爲シ又ハ當該設備ヲ所管スル鐵道局長ヲシテ之ヲ爲サシム
- 第四條 前條ノ規定ニ依リ祕匿ノ措置ヲ爲ス當該設備ノ

第四 軍用資源祕密保護法關係 國有鐵道軍用資源祕密保護規則

場所ニハ附圖第一又ハ第二ニ定ムル標識ヲ設置ス

- 第五條 附圖第一ニ定ムル標識ヲ設置シタル設備ノ場所ニ付テハ法第六條ノ規定ニ依リ之ニ付立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ、附圖第二ニ定ムル標識ヲ設置シタル設備ノ場所ニ付テハ法第六條ノ規定ニ依リ之ニ付測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條 前條ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第一様式ノ許可願書(三通)ヲ當該設備ヲ所管スル鐵道局長ヲ經テ鐵道大臣ニ提出スベシ
- 第七條 軍用資源祕密保護法施行令(以下令ト稱ス)第十條ノ規定ニ依リ鐵道大臣所管ノ官廳以外ノ官廳ニ於テ第五條ニ規定スル行爲ノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第一様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(二通)ヲ鐵道大臣ニ提出スベシ
- 第八條 法第二條第九號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ外國、外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニシ又ハ法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニスルコトノ許

可ヲ受ケントスル者ハ別記第二様式ノ許可願書(二通)ヲ鐵道大臣ニ提出スベシ

第九條 令第十八條第一項ノ規定ニ依リ鐵道大臣所管ノ官廳以外ノ官廳ニ於テ軍用資源祕密ヲ開示シ、交付シ又ハ公ニスルコトノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第二様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(二通)ヲ鐵道大臣ニ提出スベシ

第十條 鐵道大臣第六條又ハ第七條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ附圖第三ノ許可證又ハ之ニ準ズル承認證ヲ交付ス

第十一條 鐵道大臣第八條又ハ第九條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可證又ハ承認證ヲ交付ス

第十二條 許可證又ハ承認證ハ第五條ニ規定スル行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帯シ何時ニテモ當該設備ノ看守者、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十三條 第五條ニ規定スル行爲ノ許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該設備ヲ所管スル鐵道局長ヲ經テ鐵道大臣ニ遲滞ナク届出テ必要ニ應ジ再下

付テ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下付ヲ受ケザルトキト雖モ當該設備ヲ所管スル鐵道局長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第十四條 許可證ヲ所持スベキ者第十二條ノ規定ニ依ル閱覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十五條 第五條ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則 本令ハ昭和十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表 法第二條第九號ニ關スルモノ
一 左ニ掲グル鐵道線路ニ於ケル昭和十三年一月以降ニ於ケル輸送能力(最大列車回數、一列車最大連結車數及一列車最大牽引換算輛數ヲ謂フ以下之ニ同シ)及輸送能力判定資料タル列車料又ハ車輛料ニ關スル輸送統計並ニ此等ヲ表示スル圖書物件
東海道本線 橫須賀線 北陸本線 中央本線
山陽本線 吳線 宇品線 山口線
山陰本線 舞鶴線 關西本線 東北本線

- 山手線 常磐線 大湊線 奥羽本線
- 羽越本線 信越本線 總武本線 鹿兒島本線
- 筑肥線 長崎本線 佐賀線 唐津線
- 佐世保線 伊萬里線 日豐本線 函館本線
- 室蘭本線 宗谷本線 北見線
- 二 鐵道省所有ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル蒸氣機關車ノ總數又ハ其ノ形式別數、貨車ノ總數又ハ其ノ種類別數及客車ノ總數並ニ此等ノ各鐵道局別數及此等ニ關スル記錄圖表
- 三 關門隧道ノ構造ニ關スル設計圖(線路ノ勾配又ハ海底下隧道上部トノ間ノ地盤ノ厚サヲ表示セルモノ)及其ノ内容並ニ其ノ線路區間ノ輸送能力及之ヲ表示スル圖書物件

別記 第一様式

立入(測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)許可願

本籍(外國人ニ在リテハ國籍)

住所

職業

第四 軍用資源祕密保護法關係 國有鐵道軍用資源祕密保護規則

昭和 年 月 日 氏 名 印

鐵道大臣 殿 年 齡

左記ノ通立入(測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)致度ニ付許可相成度候也

- 左記
- 一 目的
 - 二 工場、事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱
 - 三 區域(圖書物件)
 - 四 日時(期間)
 - 五 方法
 - 六 使用器具類ノ名稱
 - 七 作業者ノ住所、氏名及年齢
 - 八 作業ノ場所
 - 九 成果物ノ員數及其ノ用途
 - 十 其ノ他參考トナルベキ事項

注意 一 用紙 日本標準規格B列四番

國人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニシ又ハ法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスル者ハ第二號様式ノ許可願書(四通)ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第九條 令第十八條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮總督所管以外ノ官廳ニ於テ前條ニ規定スル行為ノ承認ヲ受ケントスルトキハ第二號様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(四通)ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第十條 朝鮮總督登記簿ニ付令第十三條第一項ノ制限ヲ爲サントスルトキハ管轄登記所ニ對シ其ノ旨ヲ通知ス

第十一條 前條ノ登記簿ヲ閱覽シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケベシ

前項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ第三號様式ノ許可願書(五通)ヲ管轄登記所ニ提出シ且其ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

願書ノ提出アリタルトキハ登記官吏ハ遲滞ナク調査シタル上意見ヲ具シ地方法院長ヲ經由シテ之ヲ進達スベシ

第十二條 令第十四條ノ規定ニ依リ朝鮮總督所管以外ノ官廳ニ於テ前條ニ規定スル行為ノ承認ヲ受ケントスル

供スベシ

第十八條 第十四條ノ許可證又ハ承認證ヲ滅失シタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該設備ヲ所管スル官署ノ長ヲ經テ朝鮮總督ニ遲滞ナク届出テ必要ニ應ジ再下附ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下附ヲ受ケザルトキト雖モ當該設備ヲ所管スル官署ノ長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行為ヲ繼續スルコトヲ得

第十九條 許可證ヲ所持スベキ者第十七條ノ閱覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第二十條 第四條ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ本令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ直接朝鮮總督府ニ差出スベシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表省略)

第四 軍用資源祕密保護法關係

官廳ノ管理ニ屬スル軍用資源祕密ノ指定及保護ニ關スル件(臺灣)

トキハ第三號様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(四通)ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第十三條 朝鮮總督ノ許可又ハ承認ヲ得テ第十條ノ登記簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ許可證若ハ承認證ヲ添附スベシ

第十四條 朝鮮總督第六條又ハ第七條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ附圖第二ノ許可證又ハ之ニ準ズル承認證ヲ交付ス

第十五條 朝鮮總督第八條又ハ第九條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ申請書ノ一通ニ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ交付ス

第十六條 朝鮮總督第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ申請書ノ一通ニ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ交付ス

第十七條 第十四條ノ許可證又ハ承認證ハ第五條ニ規定スル行為ヲ實施スル者必ズ之ヲ携帯シ何時ニテモ當該設備ノ看守者、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ

○昭和十五年臺灣總督府令第百二十五號(官廳ノ管理ニ屬スル軍用資源祕密ノ指定及保護ニ關スル件)

昭和十五年九月二十七日 臺灣總督府令第百二十五號

官廳ノ管理ニ屬スル軍用資源祕密ノ指定及保護ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 本令ハ軍用資源祕密保護法(以下法ト稱ス)第二條ノ規定ニ依ル官廳ノ管理ニ屬スル軍用資源祕密ノ指定及其ノ保護ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條 法第二條本文ノ規定ニ依リ軍用資源祕密ヲ別表ノ通指定ス

第三條 臺灣總督法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アリト認ムルトキハ當該設備ノ場所ニ別記雛形ノ標識ヲ設置シ又ハ當該設備ノ管理者若ハ之ニ準ズベキ者ニ遮蔽其ノ他ノ措置ヲ命ズルコトアルベシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ別記雛形ノ標識ヲ設置シタル設備ノ場所ニ付テハ立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ別記第一號様式ノ願書三通ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

第五條 臺灣總督ノ管理ニ屬セザル官廳ニ於テ軍用資源祕密保護法施行令(以下令ト稱ス)第十二條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスルトキハ前條第二項ノ願書ニ準ズル申請書三通ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

第六條 法第二條第九號若ハ第十二號乃至第十四號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ外國、外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニシ又ハ法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニスルトキハ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第二號様式ノ願書三通ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

第七條 臺灣總督ノ管理ニ屬セザル官廳ニ於テ令第十八條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスルトキハ前條ノ願書ニ準ズル申請書三通ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

第八條 臺灣總督第四條若ハ第六條ノ許可又ハ第五條若

ハ前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ許可證又ハ承認證ヲ交付ス

前項ノ許可證又ハ承認證ヲ滅失シタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル届書三通ヲ遲滯ナク臺灣總督ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ許可證又ハ承認證ノ再下附ヲ受ケントスル者ハ各第四條第二項、第五條、第六條又ハ前條ノ規定ニ準ジ申請スベシ

第九條 許可證又ハ承認證ハ第四條第一項ニ規定スル行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ當該設備ノ看守者、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十條 本令ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ願書、申請書又ハ届書ハ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ヲ經由スベシ

第十一條 第三條ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(別表等省略)

○昭和十四年臺灣總督府令第三百三十四號 (軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件)

昭和十四年十一月二十八日
臺灣總督府令第三百三十四號

軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 臺灣總督登記簿ニ付軍用資源祕密保護法施行令第十三條第一項ノ制限ヲ爲サントスルトキハ管轄登記所ニ對シ其ノ旨ヲ通知ス

第二條 前條ノ登記簿ヲ閱覽シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

前項ノ許可ノ申請ハ管轄登記所ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第三條 申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ明記シ且申請ノ事由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス

第四條 申請書ノ提出アリタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク調査シタル上意見ヲ具シ地方法院長ヲ經由シテ之ヲ進達スベシ

第五條 臺灣總督ノ許可ヲ得テ第一條ノ登記簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ其ノ許可書ヲ添附スベシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四 軍用資源祕密保護法關係

軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件(臺灣)

第五

要塞地帶法及軍港要港規則關係

◎要塞地帶法

明治三十二年七月十五日
法律第百五號

改正 大正四年第一七號、昭和一五年第九〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル要塞地帶法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍、海軍大臣副署)
要塞地帶法

第一章 總則

第一條 要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帶ハ陸地下海面トフ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶カ海軍防禦營造物ノ地帶ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ

地帶ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ千メートル以內及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ五千メートル以內

第三區 基線ヨリ測リ一萬五千メートル以內

第四條 要塞司令官鎮守府司令長官要港部司令官及陸軍築城部本部長ハ要塞地帶ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地內ニ出入セシメントスルトキハ五ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帶ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナント雖之ヲ

設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條及第三條ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以內ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀又ハ施設物ノ狀況ニ付撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ス但シ軍機保護法ニ特別ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯内ニ於テ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

陸軍大臣又ハ要塞司令官ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命セラレタル者ニ對シ要塞地帯内ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區内ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當

又ハ増築

- 二 土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積
- 三 公園、運動場、競馬場、飛行場、耕作地、果樹園、桑畑、貯水池、養魚池又ハ鹽田ノ新設又ハ變更

四 水深ノ變更ヲ生スヘキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

五 火入

六 高周波電流ヲ發スル設備ノ新設又ハ變更

第十二條 第一區及第二區内ニ在リテハ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 堤塘、棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、隧道、鐵道又ハ軌道ノ新設又ハ變更

二 水面ノ埋立又ハ干拓

第十三條 第七條又ハ第九條乃至前條ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ國防上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係 要塞地帯法

スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 爆發物ノ使用若ハ貯藏又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ貯藏

三 用水路、惡水路又ハ溜池ノ新設又ハ變更

四 竹木林ノ造成又ハ伐採

五 墓地ノ新設又ハ變更

六 山林又ハ原野ニ於ケル焚火

七 漁撈、採藻又ハ船舶ノ繫泊

八 狩獵

第十條 第二區内ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ水準標高四十メートル以上ノ高地ニ於ケル家屋、工場又ハ倉庫ノ新築、改築又ハ増築ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 第一區及第二區内ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 不燃質物ヲ材料トスル工作物ノ新築、改築

第十四條 要塞司令官ハ第九條乃至第十一條ノ規定又ハ第九條乃至第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ

附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ、陸軍大臣ハ第十二條ノ規定又ハ同條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ付テハ告示又ハ通達ヲ受ケタル日より三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十六條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限り特ニ本章制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルコトキ亦同シ

第十七條 本章ノ制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯ニシテ海軍防禦營造物ノ地帯ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯ト

相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ掲クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ前條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第十八條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條及第九條乃至第十一條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十二條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 罰則

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條第二號ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第一號又ハ第五號ノ規定ニ違反シタル者

三 第十二條ノ規定ニ違反シタル者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

四 第十條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

五 第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

六 第十二條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

第二十二條 各區ノ區域ヲ標示スル爲設ケタル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十三條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條第三號、第五號若ハ第六號又ハ第二十一條第二號若ハ第四號乃至第六號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十四條 第十九條、第二十條第三號、第五號及第六號並ニ第二十一條第二號及第四號乃至第

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 要塞地帶法

一 第七條ノ規定ニ違反シタル者
二 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

三 第九條第一號又ハ第三號乃至第五號ノ規定ニ違反シタル者

四 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ違反シタル者

五 第十條ノ規定ニ違反シタル者

六 第十一條第二號乃至第四號又ハ第六號ノ規定ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

二 第九條第一號乃至第五號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

三 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

六號ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第二十五條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四章 雜則

第二十六條 要塞地帶創設又ハ變更ノ告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築等ノ作業中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ制限ヲ適用セス
第二十七條 各區ノ區域ヲ標示スル標識ヲ設置スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ陸地測量標條例ヲ準用ス

第二十八條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十九條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨クルコトナシ

附則 (昭和十五年法律第九十號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十五年勅令第八百二十二號ヲ以テ昭和十五年十二月一日ヨリ施行)

本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

大正二年九月二十五日
勅令第二百八十四號

改正 昭和十五年第八二三號

朕要塞地帯法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、海軍、內務、陸軍大臣副署)

要塞地帯法ハ第十五條及第二十七條ヲ除キ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年八月二十日
勅令第四百五號

改正 昭和十五年第八二四號

朕要塞地帯法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、海軍、陸軍大臣副署)

要塞地帯法ハ第十五條及第二十七條ヲ除キ臺灣ニ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○要塞地帯法施行規則

昭和十五年十一月三十日
陸軍省令第四十六號

要塞地帯法施行規則ヲ左ノ通改正ス

要塞地帯法施行規則

第一條 本令ハ陸軍防禦營造物ノ地帯ニ關聯セザル海軍防禦營造物ノ地帯ヲ除キ總テノ要塞地帯ニ之ヲ適用スルモノトス

第二條 要塞地帯法ニ於テ爆發物、容易ニ燃燒スベキ物件及不燃質物竝ニ高周波電流ヲ發スル設備ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 爆發物

火藥(有煙火藥、無煙火藥ノ類)

雷酸鹽(雷汞ノ類)

起爆ノ用途ニ供スル窒化物(窒化鉛ノ類)其ノ他ノ起

爆劑

ニトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥(各種ダイ

ナマイト類)、綿藥

鹽素酸鹽類(鹽素酸ソーダ、鹽素酸カリノ類)及之ヲ

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係 要塞地帯法施行規則(陸軍)

主トスル混和物

過鹽素酸鹽類(過鹽素酸カリ、過鹽素酸アンモンノ類)及之ヲ主トスル混和物

硝酸鹽類(硝石、智利硝石、硝酸アンモンノ類)及之ヲ主トスル混和物

芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ(ニトロベンゾール、ピクリン酸ノ類)

實包、空包、藥筒ノ類

火藥又ハ爆發藥ヲ裝填シタル彈丸、信管、雷管ノ類

煙火其ノ他火藥又ハ爆發藥ヲ使用シタル火工品(玩具用普通火工品ヲ除ク)

壓縮ガス、液化ガスノ類

二 容易ニ燃燒スベキ物件

原油、揮發油、燈油、輕油、重油其ノ他ノ石油類

黃磷、赤磷、硫化磷

金屬カリウム、金屬ナトリウム、マグネシウム、過酸化ソーダ、過酸化カリ、過酸化バリウム、エーテル、二硫化炭素、コロチオン、メタノール、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフタ、アルコール、アセトン、キシロール、テレピン油

- 醋酸エステルノ類
- セルロイド
- 濃硫酸、濃硝酸
- 生石灰、カーバイド、石炭ガスノ類、燐化カルシウム
- 其ノ他「アーベル、ベンスキー」閉塞發焰試験器ヲ用ヒ七六〇ミリメートルノ氣壓ニ於テ攝氏三五度以下ノ溫度ニテ發焰スルモノ
- 三 不燃質物
- 金屬、煉瓦、石、土、コンクリート及之ニ準ズベキモノ
- 四 高周波電流ヲ發スル設備
- イ 高周波加熱器
- 高周波炉
- ホンバータ
- 等
- ロ 高周波熔接機
- ハ 機械的整流器ヲ使用スル「エックス」線裝置
- ニ 高周波ヲ發生スル電氣醫療裝置
- 高周波電氣醫療機

- チアテルミ
- ラヂオテルミ
- ダルトンワール裝置(ラヂオレーヤ等)
- 電氣メス
- 等
- オゾン發生器
- 感傷電氣醫療機
- 平流電氣醫療機
- 等
- ホ 左ニ掲グル裝置ニシテ整流子附電動機ヲ使用スルモノ
- 齒科エンジン
- 電氣錐
- 毛髮乾燥器
- 電氣バリカン
- 眞空掃除器
- 電氣揚水ポンプ
- 電氣冷蔵庫
- 電氣洗濯器
- 電氣サイレン

扇風機
エレベーター
特殊同期電動機
等

ハ 左ニ掲グル裝置ニシテ斷續器ヲ使用スルモノ
徐動式恆溫器ヲ使用スル裝置

電氣炬燵
電氣孵卵器
點滅式電氣サイン
振動充電式裝置
等

ト 電氣收塵裝置(コットレル式)
チ 電氣漂白裝置
リ 水銀整流器
ヌ タンカー充電機
ル 架空送電線路、架空配電線路及架空饋電線路
ナ 發電所、變電所及之ニ準ズル場所
ロ 電氣鐵道

以上ノ中固定シタルモノノミトス
第三條 左ニ掲グル行爲ニ付テハ陸軍大臣又ハ要塞司令

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 要塞地帶法施行規則(陸軍)

官ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ陸軍用地ノ周圍ニ
〇メートル以内ノ區域ニ於ケル行爲ニ付テハ此ノ限ニ
在ラズ

- 一 一家屋ニ附屬スル建築面積五平方メートル以下ノ物
置ノ新築、改築又ハ増築
- 二 不燃質物ヲ材料トセザル建築面積二〇平方メー
トル以下ノ納屋、炭燒小屋、伐木小屋、造林小屋、畜
舍等ノ新築、改築又ハ増築
- 三 爆發物ノ一〇〇グラム以下ノ使用又ハ貯藏總量五
キログラム以下ノ貯藏
- 四 揮發油、燈油、輕油、重油其ノ他ノ石油類ノ總貯
藏量二〇〇リットル以下ノ貯藏
- 五 前號ニ規定セザル容易ニ燃燒スベキ物件ノ總貯藏
量五キログラム以下又ハ二〇〇リットル以下ノ貯
藏
- 六 開港港則第九條ニ規定スル船舶常用ノ爆發物又ハ
容易ニ燃燒スベキ物件ノ貯藏
- 七 宅地内ニ於ケル用水路、悪水路又ハ溜池ノ新設又
ハ變更
- 八 面積五〇〇平方メートル以下ニシテ周圍ノ土地ノ

- 竹木林ノ樹種ト同一又ハ同類樹種ニ依ル竹木林ノ造成
- 九 枯損木竹又ハ危險木竹ノ伐採
- 十 送電、配電線路又ハ電信、電話線路ノ建設若ハ保守ニ支障アル竹木ノ伐採
- 十一 森林保育ノ爲ニスル刈、蔓切又ハ間伐
- 十二 牧野改良ノ爲ニスル荆棘、灌木等ノ除去
- 十三 宅地内又ハ不燃質物ヨリ成ル圍壁内ノ焚火
- 十四 地上高サ一メートル以下ニシテ總面積一〇〇平方メートル以下ノ不燃質物ヲ材料トスル地上工作物ノ新築、改築又ハ増築
- 十五 地上高サ六メートル以下ノ不燃質物ヨリ成ル支柱物ヲ使用セル架空電信、電話線路ノ新築、改築又ハ増築
- 十六 宅地又ハ社寺ニ附屬スル高サ二メートル以下ニシテ一邊長五〇メートル以下ノ不燃質物ヲ以テスル圍壁又ハ高サ三・五メートル以下ノ門柱ノ新築、改築又ハ増築
- 十七 社寺境内地又ハ墓地ニ於ケル高サ三・五メートル以下ノ燈籠、墓碑ノ新築、改築又ハ増築

- 十八 工場敷地内ニ於ケル軌條ノ敷設又ハ變更
- 十九 高低一メートル以下ニシテ面積五〇〇平方メートル以下ノ土石ノ採掘又ハ堆積
- 二十 埋線或ハ埋管ノ深サ二・五メートル以下ノ地下送電、配電、電信、電話線路、ガス及水道線路ノ新築、改築又ハ増築
- 二十一 宅地内ニ於ケル土石ノ採掘若ハ堆積又ハ井戸ノ掘鑿
- 二十二 非常災害防止ノ爲必要ナル應急處置トシテノ土石ノ採掘又ハ堆積
- 二十三 不可抗力ニ因リ形狀ヲ變更シタル土地又ハ物件ヲ原狀ニ復スル作業
- 二十四 鑛業法令又ハ砂鑛法ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル場合ニ於ケル鑛鑽、坑口ノ開穿、鑛物ノ採掘又ハ砂鑛ノ採取、鑛物又ハ土石ノ堆積其ノ他鑛業ノ作業
- 二十五 第二區内ニ於ケル面積五〇〇平方メートル以下ノ公園又ハ運動場ノ新設
- 二十六 面積一五〇〇平方メートル以下ノ耕作地、果樹園、桑畑又ハ鹽田ノ新設又ハ變更

- 二十七 長サ三〇メートル以下ニシテ容易ニ撤去シ得ベキ棧橋又ハ最大満潮時ニ於テ最大水深三メートルニ達セザル位置ニ於ケル埠頭ノ新設又ハ變更
- 二十八 有效幅員二・七三メートル以下ノ道路及此等ノ道路ニ接續スル橋梁ノ新設又ハ變更
- 二十九 長サ二〇〇メートル以下ノ軌道及長サ五〇〇メートル以下ノ鐵道ノ新設又ハ變更
- 三十 私有水面ノ埋立又ハ干拓
- 第四條 要塞地帶法第七條、第九條乃至第十一條ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可願書(三通)ニ左ニ掲グル事項ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長(分遣隊長ヲ含ム以下之ニ同シ)又ハ警察署長(臺灣ニ在リテハ郡守又ハ支廳長ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ經テ之ヲ當該要塞司令官ニ提出スベシ
- 一 要塞地帶法第七條ニ規定スル行爲中撮影、模寫、模造又ハ錄取ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、使用器具ノ種類、日時及行爲ノ場所、複寫又ハ複製ニ付テハ其ノ目的、方法、行爲ノ場所、複寫又ハ複製スベキモノノ種類及數量
- 二 同法第九條第一號、第三號、第五號、第十條並ニ

- 第十一條第一號、第三號及第六號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、場所(區域)、設計及竣功時期
- 三 同法第九條第二號ニ規定スル行爲中使使用ニ付テハ其ノ目的、場所、方法、時期、爆發物ノ種類及數量、貯藏ニ付テハ其ノ目的、場所、期間、貯藏ノ設備、貯藏スベキ物件ノ種類及數量
- 四 同法第九條第四號及第十一條第四號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、時期、種類、數量及作業ノ要領
- 五 同法第九條第六號及第十一條第五號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、場所(區域)、時期及作業ノ要領
- 六 同法第九條第七號ニ規定スル行爲中漁撈又ハ採藻ニ付テハ區域、方法及日時、漁業權又ハ入漁權ニ基ク行爲ナルトキハ其ノ權利ヲ證スル事項
- 七 同法第九條第七號ニ規定スル行爲中船舶ノ繫泊ニ付テハ其ノ目的、位置、時期、船舶ノ長ノ住所、氏名、船舶ノ種類、名稱、總噸數、信號符字及所有者ノ住所、氏名又ハ名稱
- 八 同法第九條第八號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目

的、場所(區域)、方法及獵具ノ名稱

九 同法第十一條第二號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法及期間

左ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經ルコトヲ要セズ

一 漁撈又ハ採藻ニ關シ水産會會員又ハ漁業組合若ハ水産組合ノ組合員タル者當該水産會又ハ組合ヲ經テ許可ヲ出願スルトキ

二 漁撈又ハ採藻ノ爲ノ船舶ノ繫泊ヲ出願スルトキ

三 當該要塞司令官ニ於テ已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第五條 要塞地帶法第十二條ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可願書(四通)ニ工事ノ種類、其ノ目的、場所(區域)、設計及竣功時期ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ之ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ

第六條 縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體及法人ノ願、届書ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第七條 前三條ノ規定ニ依リ陸軍大臣又ハ要塞司令官ニ許可願書ヲ提出スル場合ニ於テ他ノ法令ノ定ムル所ニ

要塞司令官前項ノ規定ニ依リ第五條ノ規定又ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依ル許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ許可願書二通ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ第八條第一項但書ノ規定ニ依リ承認申請書ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十一條 陸軍大臣又ハ要塞司令官許可又ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可願書一通ヲ添附シタル許可證又ハ承認申請書一通ヲ添附シタル承認證ヲ交付ス

第十二條 前條ノ許可證又ハ承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帯シ何時ニテモ當該要塞司令官部職員、憲兵、衛戍服務ノ軍人又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十三條 許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該要塞司令官ニ遲滞ナク届出テ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下付ヲ受ケザルトキト雖モ最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第十四條 許可ヲ受ケタル行爲者ハ行爲ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲グベシ但シ要塞地帶法第七條又ハ第九條第七號及第八號ニ規定スル行爲(同法

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 要塞地帶法施行規則(陸軍)

依リ陸軍以外ノ主務官廳ノ許可ヲ要スル行爲ニ付テハ先ヅ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類若ハ許可書ノ寫又ハ其ノ出願シタルコトヲ證スル書類ヲ許可願書ニ添附スベシ

第八條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ要塞地帶法第七條及第九條乃至第十二條ニ規定スル行爲ノ承認ヲ受ケントスルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ準ジ承認申請書(三通)ヲ當該要塞司令官又ハ陸軍大臣ニ提出スベシ但シ陸軍大臣ニ提出スルモノニ在リテハ主務大臣ノ提出スルモノヲ除クノ外當該要塞司令官ヲ經由スベシ前項ノ場合ニ於テハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經由スルヲ要セズ

第九條 第四條乃至前條ノ規定ハ許可又ハ承認ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 憲兵分隊長又ハ警察署長第四條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定又ハ第五條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ當該要塞司令官ニ提出スベシ但シ行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ハ許可願書一通ハ之ヲ保管スベシ

第九條第七號中船舶ノ繫泊ヲ除ク)ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 許可ヲ受ケタル行爲完了シタルトキ又ハ之ニ着手セズ若ハ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ許可願書ヲ提出シタル憲兵分隊長又ハ警察署長ニ届出ヅベシ憲兵分隊長又ハ警察署長ハ之ヲ取纏メ毎月末日ヲ以テ當該要塞司令官又ハ陸軍大臣ニ報告スベシ

第十六條 許可證ヲ所持スベキ者第十二條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第一條 本令ハ昭和十五年法律第九十號要塞地帶法中改正法律(以下改正法律ト稱ス)施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ臺灣ニ於テハ第三條第二十四號ノ規定ニ就キ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ム

第二條 改正法律中ノ改正規定ニ依リ新ニ許可ヲ受ケルコトヲ要スルコトト爲リタル左ニ掲グル行爲ニシテ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズト定ムル以外ノモノト雖モ要塞司令官又ハ陸軍大臣ノ許可ヲ要セズ

一 要塞司令官ノ許可ヲ受ケ撮影、模寫、橫造又ハ錄取シタル物件ノ複寫又ハ複製但シ本令施行後三十日

- 以內ニ完了スルモノニ限ル
- 二 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第九條第一號ニ規定スル不燃質物ヲ材料トセザル家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築
- 三 本令施行ノ際改正法律第九條第二號ニ規定スル爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ貯藏但シ改正法律施行前ヨリ貯藏スル爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ貯藏ニ限ル
- 四 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第九條第三號ニ規定スル溜池ノ新設又ハ變更
- 五 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第九條第五號ニ規定スル墓地ノ新設又ハ變更
- 六 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第十條ニ規定スル家屋、工場又ハ倉庫ノ新築
- 七 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第十一條第一號ニ規定スル不燃質物ヲ材料トスル高サ三尺ヲ超エザル工作物ノ新築、改築又ハ増築
- 八 本令施行ノ際現ニ作業中ノ地表ノ高低ヲ永久ニ變更セザル改正法律第十一條第二號ニ規定スル土石ノ採掘又ハ堆積但シ本令施行後三月以內ニ完了スルモノニ限ル

- ノニ限ル
- 九 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第十一條第三號ニ規定スル運動場、競馬場、飛行場、貯水池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更
- 十 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第十一條第四號ニ規定スル水底ニ於ケル土石ノ採取但シ本令施行後三月以內ニ完了スルモノニ限ル
- 十一 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第十一條第六號ニ規定スル高周波電流ヲ發スル設備ノ新設又ハ變更
- 十二 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第十二條第二號ニ規定スル水面ノ埋立又ハ干拓
- 十三 本令施行ノ日ヨリ二十日以內ニ本令ノ規定ニ準シ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ當該要塞司令官ニ届出ヅベシ
- 第十四 本令附則第二條ニ該當セザル行爲及新ニ第一區又ハ第二區トシテ告示セラレタル區域ニ於ケル左ニ掲グル行爲ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ限り許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

- 一 第一區内ニ屬スル水面ニ於ケル漁撈、採藻及船舶ノ繫泊、土砂ノ掘鑿
- 二 第一區内ニ於ケル高サ五尺、第二區内ニ於ケル高サ八尺以上ノ不燃質物及石炭類ノ堆積

○要塞地帯法施行規則

昭和十五年十一月三十日
海軍省令第三十號

要塞地帯法施行規則左ノ通改ム

要塞地帯法施行規則

第一條 本令ハ海軍防禦營造物ノ地帯ニ之ヲ適用スルモノトス

第二條 要塞地帯法ニ於テ爆發物、容易ニ燃燒スベキ物件及不燃質物竝ニ高周波電流ヲ發スル設備ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 爆發物
 - 火藥(有煙火藥、無煙火藥ノ類)
 - 雷酸鹽(雷汞ノ類)
 - 起爆ノ用途ニ供スル窒化物(窒化鉛ノ類)其ノ他ノ起爆劑
 - ニトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥(各種ダイ)

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係 要塞地帯法施行規則(海軍)

ナマイト類)

綿藥

鹽素酸鹽類(鹽素酸ソーダ、鹽素酸カリノ類)及之ヲ主トスル混和物

過鹽素酸類(過鹽素酸カリ、過鹽素酸アンモンノ類)及之ヲ主トスル混和物

硝酸鹽類(硝石、智利硝石、硝酸アンモンノ類)及之ヲ主トスル混和物

芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ(ニトロペンゾール、ピクリン酸ノ類)

實包、空包、藥筒ノ類

火藥又ハ爆發藥ヲ裝填シタル彈丸、信管、雷管ノ類
煙火其ノ他火藥又ハ爆發藥ヲ使用シタル火工品(玩具用普通火工品ヲ除ク)

壓縮ガス、液體ガスノ類

二 容易ニ燃燒スベキ物件
原油、揮發油、燈油、輕油、重油其ノ他ノ石油類
黃磷、赤磷、硫化磷

金屬カリウム、金屬ナトリウム、マグネシウム、過酸化ソーダ、過酸化カリ、過酸化バリウム、エーテ

- ル、二硫化炭素、コロチオン、メタノール、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフタ、アルコール、アセトン、キシロール、テレピン油
- 醋酸エステルノ類
- セルロイド
- 濃硫酸、濃硝酸
- 生石灰、カーバイド、石炭ガスノ類、燐化カルシウム
- 其ノ他「アーベル、ペンスキー」閉塞發焰試驗器ヲ用ヒ七六〇ミリメートルノ氣壓ニ於テ攝氏三五度以下ノ溫度ニテ發焰スルモノ
- 三 不燃質物
- 金屬、煉瓦、石、土、コンクリート及之ニ準ズベキモノ
- 四 高周波電流ヲ發スル設備
- イ 高周波加熱器
- 高周波炉
- ホンバータ
- 等
- ロ 高周波熔接機

- ハ 機械的整流器ヲ使用スル「エツクス」線裝置
- ニ 高周波ヲ發生スル電氣醫療裝置
- 高周波電氣醫療機
- ザアテルミ
- ラヂオテルミ
- ダルソソワール裝置(ラヂオレーヤ等)
- 電氣メス
- 等
- オゾン發生器
- 感傳電氣醫療機
- 平流電氣醫療機
- 等
- ホ 左ニ掲グル裝置ニシテ整流子附電動機ヲ使用スルモノ
- 齒科エンジン
- 電氣錐
- 毛髮乾燥器
- 電氣バリカン
- 眞空掃除器
- 電氣揚水ポンプ

- 電氣冷蔵庫
- 電氣洗濯機
- 電氣サイレン
- 扇風機
- エレベーター
- 特殊同期電動機
- 等
- ヘ 左ニ掲グル裝置ニシテ繼續器ヲ使用スルモノ
- 徐動式恒溫器ヲ使用スル裝置
- 電氣炬燵
- 電氣孵卵器
- 等
- 點滅式電氣サイン
- 振動式充電裝置
- 等
- ト 電氣收塵裝置(コットレル式)
- チ 電氣漂白裝置
- リ 水銀整流器
- ヌ タンカー充電機
- ル 架空送電線路、架空配電線路及架空饋電線路

- ナ 發電所、變電所及之ニ準ズル場所
- ロ 電氣鐵道
- 以上ノ中固定シタルモノノミトス
- 第三條 左ニ掲グル行爲ニ付テハ要塞地帯法ニ依ル許可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ海軍用地ノ周圍二〇メートル以内ノ區域ニ於ケル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 家屋ニ附屬スル建築面積五平方メートル以下ノ物置ノ新築、改築又ハ増築
- 二 不燃質物ヲ材料トセザル建築面積二〇平方メートル以下ノ納屋、炭燒小屋、伐木小屋、造林小屋、畜舎等ノ新築、改築又ハ増築
- 三 爆發物ノ一〇〇グラム以下ノ使用又ハ貯藏總量五キログラム以下ノ貯藏
- 四 揮發油、燈油、輕油、重油其ノ他ノ石油類ノ總貯藏量二〇リットル以下ノ貯藏
- 五 前號ニ規定セザル容易ニ燃燒スベキ物件ノ總貯藏量五キログラム以下又ハ二〇〇リットル以下ノ貯藏
- 六 開港港則第九條ニ規定スル船舶常用ノ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ貯藏

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係

要塞地帯法施行規則(海軍)

- 七 宅地内ニ於ケル水路、惡水路又ハ溜池ノ新設又ハ變更
- 八 面積五〇〇平方メートル以下ニシテ周圍ノ土地ノ竹木林ノ樹種ト同一又ハ同類樹種ニ依ル竹木林ノ造成
- 九 枯損木竹又ハ危險木竹ノ伐採
- 十 送電、配電線路又ハ電信、電話線路ノ建設若ハ保守ニ支障アル竹木ノ伐採
- 十一 森林保育ノ爲ニスル刈、蔓切又ハ間伐
- 十二 牧野改良ノ爲ニスル荆棘、灌木等ノ除去
- 十三 宅地内又ハ不燃質物ヨリ成ル圍壁内ノ焚火
- 十四 地上高サ一メートル以下ニシテ總面積一〇〇平方メートル以下ノ不燃質物ヲ材料トスル地上工作物ノ新築、改築又ハ増築
- 十五 地上高サ六メートル以下ノ不燃質物ヨリ成ル支持物ヲ使用セル架空電信、電話線路ノ新築、改築又ハ増築
- 十六 宅地又ハ社寺ニ附屬スル高サ二メートル以下ニシテ一邊長五〇メートル以下ノ不燃質物ヲ以テスル圍壁又ハ高サ三・五メートル以下ノ門柱ノ新築、改

- 築又ハ増築
- 十七 社寺境内地又ハ墓地ニ於ケル高サ三・五メートル以下ノ燈籠、墓碑ノ新築、改築又ハ増築
- 十八 工場敷地内ニ於ケル軌條ノ敷設又ハ變更
- 十九 高低一メートル以下ニシテ面積五〇〇平方メートル以下ノ土石ノ採掘又ハ堆積
- 二十 埋線或ハ埋管ノ深サ二・五メートル以下ノ地下送電、配電、電信、電話線路、ガス及水道線路ノ新築、改築又ハ増築
- 二十一 宅地内ニ於ケル土石ノ採掘若ハ堆積又ハ井戸ノ掘鑿
- 二十二 非常災害防止ノ爲必要ナル應急處置トシテノ土石ノ採掘又ハ堆積
- 二十三 不可抗力ニ因リ形狀ヲ變更シタル土地又ハ物件ヲ原狀ニ復スル作業
- 二十四 鑛業法令又ハ砂鑛法令ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル場合ニ於ケル錐鑛、坑口ノ開穿、鑛物ノ採掘又ハ砂鑛ノ採取、鑛物又ハ土石ノ堆積其ノ他鑛業ノ作業
- 二十五 第二區内ニ於ケル面積五〇〇平方メートル以

- 下ノ公園又ハ運動場ノ新設
 - 二十六 面積一五〇〇平方メートル以下ノ耕作地、果樹園、桑畑又ハ鹽田ノ新設又ハ變更
 - 二十七 長サ三〇メートル以下ニシテ容易ニ撤去シ得ベキ棧橋又ハ最大満潮時ニ於テ最大水深三メートルニ達セザル位置ニ於ケル埠頭ノ新設又ハ變更
 - 二十八 有效幅員二・七三メートル以下ノ道路及此等ノ道路ニ接續スル橋梁ノ新設又ハ變更
 - 二十九 長サ二〇〇メートル以下ノ軌道及長サ五〇〇メートル以下ノ鐵道ノ新設又ハ變更
 - 三十 私有水面ノ埋立又ハ干拓
- 第四條 要塞地帯法第七條、第九條乃至第十一條ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書(三通)ニ左ニ掲グル事項ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長(分遣隊長ヲ含ム以下之ニ同シ)又ハ警察署長(臺灣ニ在リテハ郡守又ハ支廳長ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ經テ之ヲ當該鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ提出スベシ
- 一 要塞地帯法第七條ニ規定スル行爲中撮影、模寫、模造又ハ錄取ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、使用

- 器具ノ種類、日時及行爲ノ場所、複寫又ハ複製ニ付テハ其ノ目的、方法、行爲ノ場所、複寫又ハ複製スベキモノノ種類及數量
- 二 同法第九條第一號、第三號、第五號、第十條並ニ第十一條第一號、第三號及第六號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、場所(區域)、設計及竣功時期
- 三 同法第九條第二號ニ規定スル行爲中使テハ其ノ目的、場所、方法、時期、爆發物ノ種類及數量、貯藏ニ付テハ其ノ目的、場所、期間、貯藏ノ設備、貯藏スベキ物件ノ種類及數量
- 四 同法第九條第四號及第十一條第四號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、時期、種類、數量及作業ノ要領
- 五 同法第九條第六號及第十一條第五號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、場所(區域)、時期及作業ノ要領
- 六 同法第九條第七號ニ規定スル行爲中漁撈又ハ採藻ニ付テハ區域、方法及日時、漁業權又ハ入漁權ニ基ク行爲ナルトキハ其ノ權利ヲ證スル事項
- 七 同法第九條第七號ニ規定スル行爲中船舶ノ繫泊ニ

付テハ其ノ目的、位置、時期、船舶ノ長ノ住所、氏名、船舶ノ種類、名稱、總噸數、信號符字及所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

八 同法第九條第八號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、場所(區域)、方法及獵具ノ名稱

九 同法第十一條第二號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法及期間

左ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經ルコトヲ要セズ

一 漁撈又ハ採藻ニ關シ水産會會員又ハ漁業組合若ハ水産組合ノ組合員タル者當該水産會又ハ組合ヲ經テ許可ヲ出願スルトキ

二 漁撈又ハ採藻ノ爲ノ船舶ノ繫泊ヲ出願スルトキ

三 當該鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ於テ已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第五條 要塞地帶法第十二條ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書(四通)ニ工事ノ種類、其ノ目的、場所(區域)、設計及竣功時期ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ之ヲ海軍大臣ニ提出スベシ

第六條 前二條ニ規定スル許可申請ハ縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體及法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第七條 前三條ノ規定ニ依リ海軍大臣、鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ許可申請書ヲ提出スル場合ニ於テ他ノ法令ノ定ムル所ニ依リ海軍以外ノ主務官廳ノ許可ヲ要スル行爲ニ付テハ先ヅ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類若ハ許可書ノ寫又ハ其ノ出願シタルコトヲ證スル書類ヲ許可申請書ニ添附スベシ

第八條 海陸軍以外ノ官廳ニ於テ要塞地帶法第七條及第九條乃至第十二條ニ規定スル行爲ノ承認ヲ受ケントスルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ準ジ承認申請書(三通)ヲ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官又ハ海軍大臣ニ提出スベシ但シ海軍大臣ニ提出スルモノニ在リテハ主務大臣ノ提出スルモノヲ除クノ外當該鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ヲ經由スベシ

第九條 第四條乃至前條ノ規定ハ許可又ハ承認ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 憲兵分隊長又ハ警察署長第四條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定又ハ第五條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ當該鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ提出スベシ但シ行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ハ許可申請書一通ハ之ヲ保管スベシ

鎮守府司令長官又ハ要港部司令官前項ノ規定ニ依リ第五條ノ規定又ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ許可申請書ニ通テ海軍大臣ニ提出スベシ第八條第一項但書ノ規定ニ依リ承認申請書ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十一條 海軍大臣、鎮守府司令長官又ハ要港部司令官許可又ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可申請書一通ヲ添附シタル許可證又ハ承認申請書一通ヲ添附シタル承認證ヲ交付ス

第十二條 前條ノ許可證又ハ承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ其ノ附近ヲ警衛スル海軍ノ軍人、軍屬、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十三條 許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 要塞地帶法施行規則(海軍)

具シ當該鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ遲滞ナク届出テ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未タ再下付ヲ受ケザルトキト雖モ最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第十四條 許可ヲ受ケタル行爲者ハ行爲ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲グベシ但シ要塞地帶法第七條又ハ第九條第七號及第八號ニ規定スル行爲(同法第九條第七號中船舶ノ繫泊ヲ除ク)ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 許可ヲ受ケタル行爲完了シタルトキ又ハ之ニ著手セズ若ハ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ許可申請書ヲ提出シタル憲兵分隊長又ハ警察署長ニ届出ヅベシ

第十六條 許可證ヲ所持スベキ者第十二條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第一條 本令ハ昭和十五年法律第九十號要塞地帶法中改

○陸軍防禦營造物出入規則

大正二年七月二十九日
陸達第三十八號

改正 大正八年第四三號

陸軍防禦營造物出入規則左ノ通定ム
但シ明治三十六年陸達第五十八號防禦營造物出入規則
ハ之ヲ廢止ス

陸軍防禦營造物出入規則

第一條 防禦營造物ニ出入セントスル軍人軍屬ハ所管長
官ヲ經テ當該要塞司令官（對馬ニ在ル防禦營造物ニ付
テハ對馬警備隊司令官、新設工事中ノ防禦營造物ニ付
テハ築城部本部長以下同シ）ニ其ノ他ノ者（官吏ニ在
リテハ所屬長官ヲ經テ）ハ陸軍大臣（朝鮮ニ在ル防禦
營造物ニ付テハ朝鮮軍司令官、臺灣ニ在ル防禦營造物
ニ付テハ臺灣軍司令官、關東州ニ在ル防禦營造物ニ關
シテハ當該要塞司令官）ニ出願シ許可ヲ受クヘシ
第二條 陸海軍部隊ノ長官ニ於テ公務ノ爲軍人軍屬ヲシ
テ防禦營造物ニ出入セシメ又ハ之ヲ測量、撮影若ハ模
寫セシムトスルトキハ當該要塞司令官ノ承認ヲ受ク

ヘシ

陸軍大臣（朝鮮ニ在ル防禦營造物ニ付テハ朝鮮軍司令
官、臺灣ニ在ル防禦營造物ニ付テハ臺灣軍司令官、關
東州ニ在ル防禦營造物ニ付テハ關東軍司令官）又ハ參
謀總長ニ於テ軍人軍屬ヲシテ公務ノ爲防禦營造物ニ出
入セシメ又ハ之ヲ測量、撮影若ハ模寫セシムトスル
トキハ前項ニ依ラス副官又ハ庶務課長ヲシテ之ヲ當該
要塞司令官ニ通牒セシム

第三條 左ニ掲グル者ハ職務ノ爲第一條ノ規定ニ拘ラス、
防禦營造物ニ出入スルコトヲ得

元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、軍事會議官、
陸軍次官、參謀次長、教育總監部本部長、陸軍省軍
務局長、同軍事課長、同砲兵課及工兵課所屬將校、
陸軍省兵器局長、同銃砲課及器材課所屬將校、參謀
本部部長、同主務將校、重砲兵監部所屬將校、陸軍
技術審査部所屬將校、陸軍兵器本廠所屬將校、築城
部本部所屬將校、東京及大阪砲兵工廠所屬將校、火
藥研究所所屬將校
海軍大臣、海軍軍令部長、海軍次官、海軍軍令部次
長、海軍省軍務局長、同主務將校、海軍軍令部主務

八 職務上前各號ノ長官ニ隨行スル諸官ハ長官ノ出入

スル防禦營造物

第五條 築城部本部長、同支部長、陸軍兵器本廠長、陸
軍技術審査部長、砲兵工廠提理及要塞司令官ハ職務上
必要アルトキハ第二條ノ規定ニ拘ラス防禦營造物ニ所
要ノ人馬ヲ出入セシメ又ハ之ヲ測量、撮影若ハ模寫ス
ルコトヲ得但シ要塞司令官及築城部支部長ニ在リテハ
所管防禦營造物ニ限ル

前項ノ場合ニ在リテハ豫メ當該要塞司令官ト協議シ適
當ノ取締ヲ爲スヘシ

第六條 重砲兵旅團長、重砲兵隊長及重砲兵射擊學校長
ハ演習上必要アルトキハ所在地要塞防禦營造物ニ限リ
部下將校、下士、兵卒其ノ他人馬ヲ出入セシムルコト
ヲ得但シ傭役者及車馬ニ付テハ要塞司令官ノ承認ヲ受
クヘシ

防備隊司令官、同司令ハ水雷防禦上必要アルトキハ所
在地要塞防禦營造物ニ限リ部下將校、下士、兵卒ヲ出
入セシムルコトヲ得

第七條 防禦營造物ニ出入シ又ハ之ヲ測量、撮影若ハ模
寫セムトスル者ハ出入證又ハ測量、撮影若ハ模寫ニ關

將校

職務以上ノ長官ニ隨行スル諸官

第四條 左ニ掲グル者ハ職務ノ爲第一條ノ規定ニ拘ラス
左記防禦營造物ニ限リ出入スルコトヲ得

- 一 特命檢閱使及屬員ハ檢閱ヲ命セラレタル防禦營造物
- 二 朝鮮軍司令官、同參謀長、同參謀ハ朝鮮ニ在ル防禦營造物
- 三 臺灣軍司令官、臺灣總督府陸海軍參謀長、同參謀ハ臺灣ニ在ル防禦營造物
- 四 關東軍司令官、關東都督府陸軍參謀長、同參謀ハ關東州ニ在ル防禦營造物
- 五 師團長、同參謀長、同參謀ハ當該師管内、鎮守府司令長官、同參謀長、同參謀ハ當該鎮守府所管區内ニ在ル防禦營造物
- 六 重砲兵旅團長、重砲兵隊長、重砲兵射擊學校長、築城部支部所屬將校、要港部司令官、同參謀長、同參謀、防備隊司令官、同司令、同參謀ハ當該部隊所在地要塞防禦營造物
- 七 要塞司令部所屬將校ハ當該要塞防禦營造物

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 陸軍防禦營造物出入規則

スル證ヲ監守又ハ衛兵ニ示シ其ノ指示ニ從フヘシ但シ當該要塞司令部對馬ニ在ル防禦營造物ニ付テハ對馬警備隊司令部、新設工事中ノ防禦營造物ニ付テハ築城部職員タル將校ト同行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項出入證等ハ當該要塞司令部ニ於テ之ヲ交付シ所要終リタルトキハ直ニ當該司令部ニ返納セシムヘシ但シ出入證等ノ様式ハ要塞司令官之ヲ定ムヘシ

第八條 防禦營造物ニ出入スル人員多數ナル場合ニ在リテハ要塞司令官ハ前條ニ依ラス其ノ出入等ノ取締ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

○要塞地帶法第三條及第六條

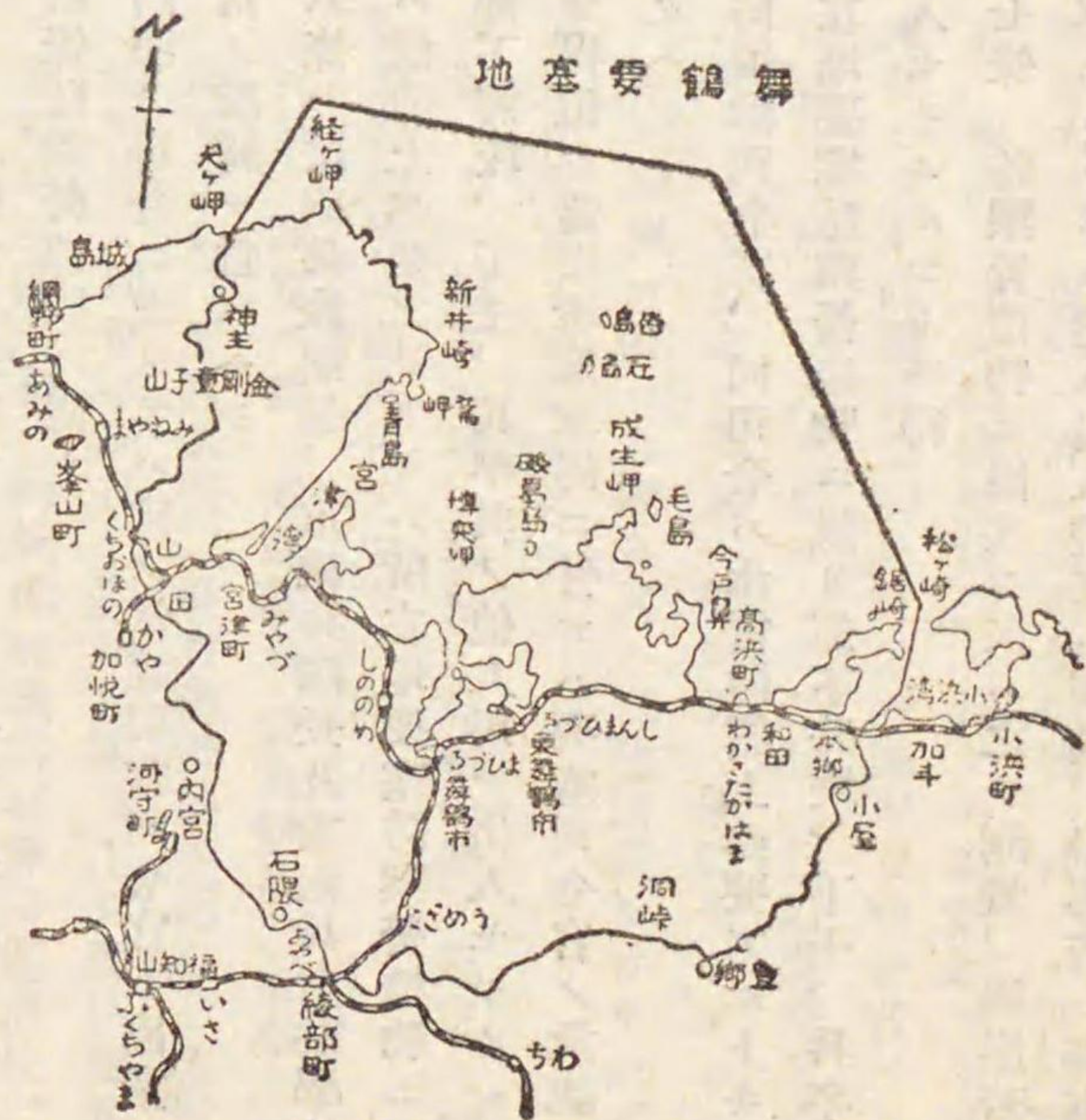
ニ依ル陸、海軍防禦營造物

地帶

昭和十五年十二月二日
陸軍省告示第五號
海軍省告示第五號

明治三十二年八月 陸軍省 告示ヲ左ノ通改正ス

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ舞鶴ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

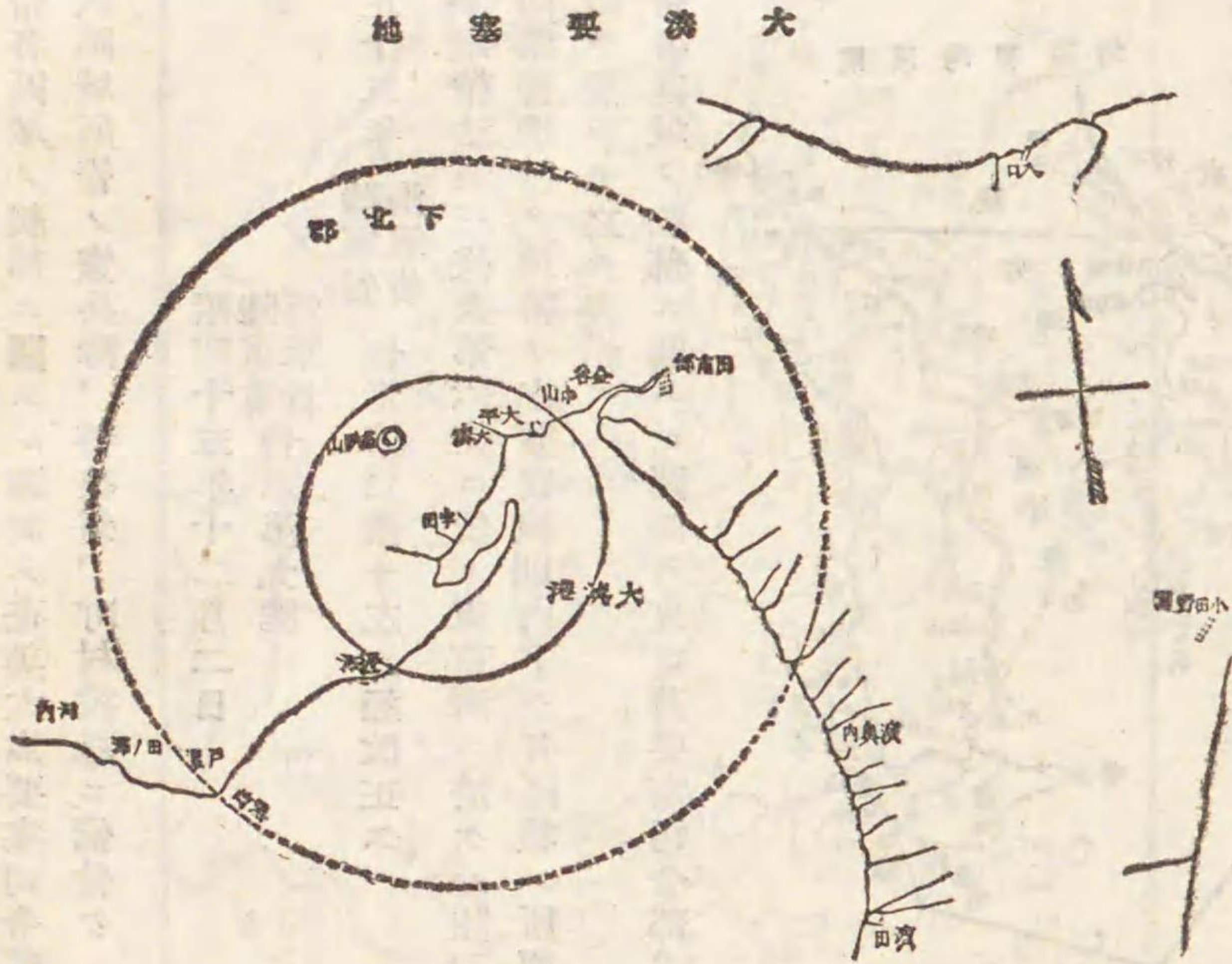


地帶各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ舞鶴要塞司令部、舞鶴鎮守府、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

明治三十三年十一月一日
海軍省告示第二十五號

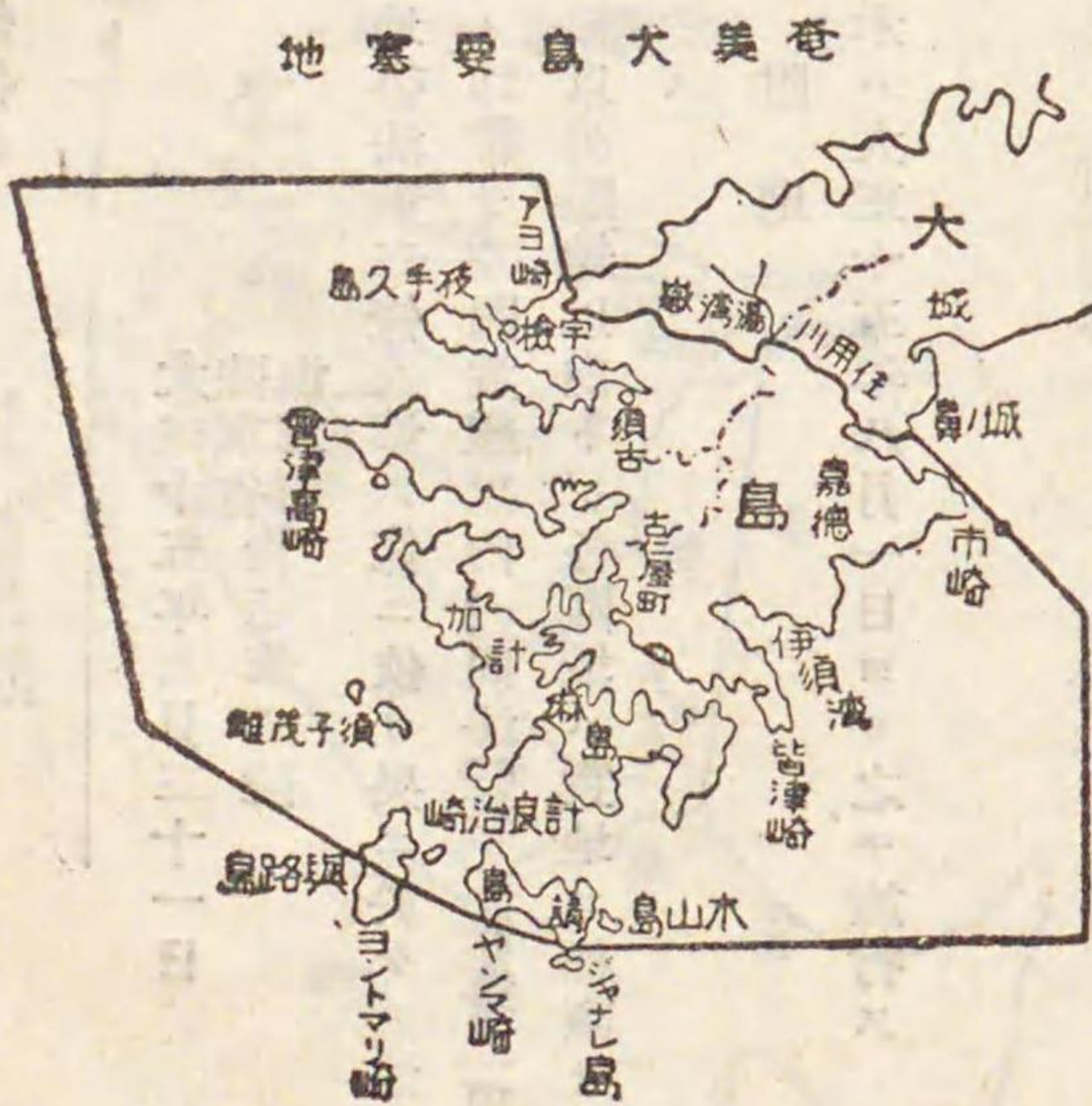
要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ陸奥國大湊ニ於ケル海

軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內同法【第七條第二項ノ區域】ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係

要塞地帶法第三條及第六條ニ依ル陸海軍防禦營造物地帶



昭和十五年十二月二日
陸軍省、海軍省告示第八號

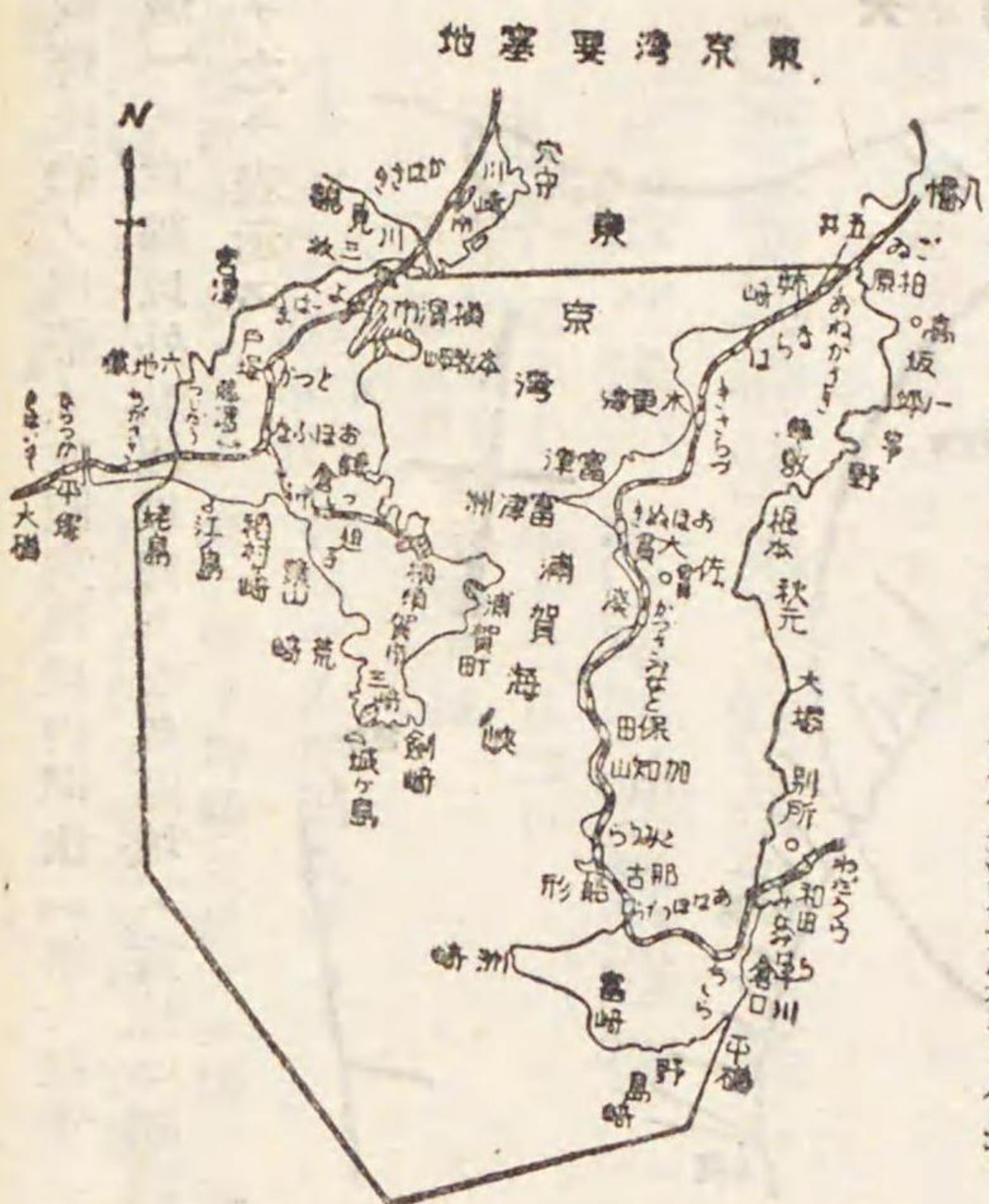
大正十年三月 陸軍省 告示ヲ左ノ通改正ス
要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ奄美大島ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

地帶各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ奄美大島要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、町村役場ニ備付ク

昭和十五年十二月二日
陸軍省 告示第九號
海軍省 告示第九號

大正十五年 陸軍省 告示第二號ヲ左ノ通改正ス
海軍省 告示第二號ヲ左ノ通改正ス

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ東京灣ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス
地帶各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ東京灣要塞司令部、橫



須賀鎮守府、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

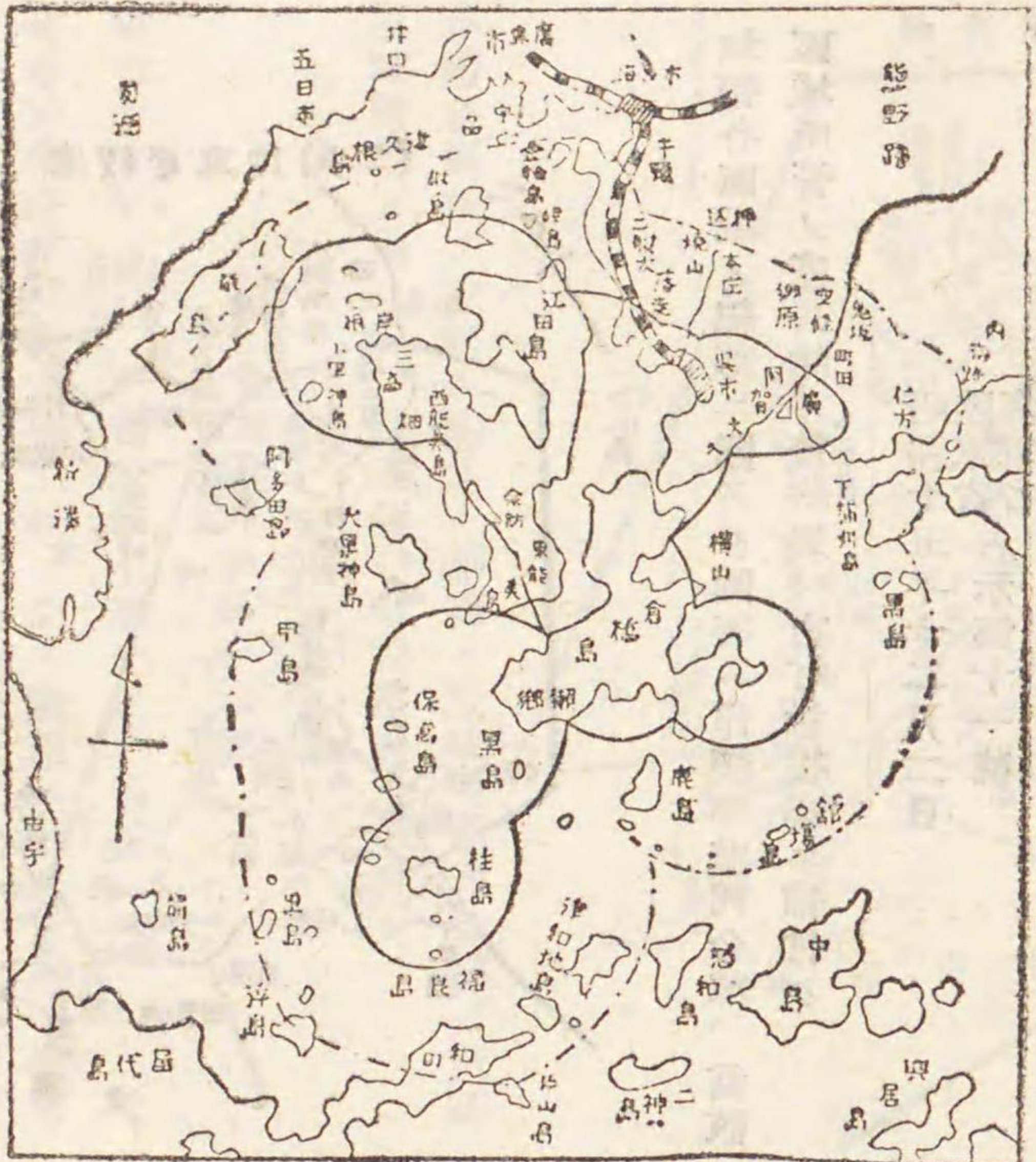
大正十五年七月三十一日
陸軍省 告示第六號
海軍省 告示第六號

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ吳ニ於ケル海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內、同法【第七條第二項ノ區域】ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

附則

本告示ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

吳要塞地



昭和十五年十二月二日
陸軍省 告示第十號
海軍省 告示第十號

昭和二年 陸軍省 告示第二號ヲ左ノ通改正ス
海軍省 告示第二號ヲ左ノ通改正ス

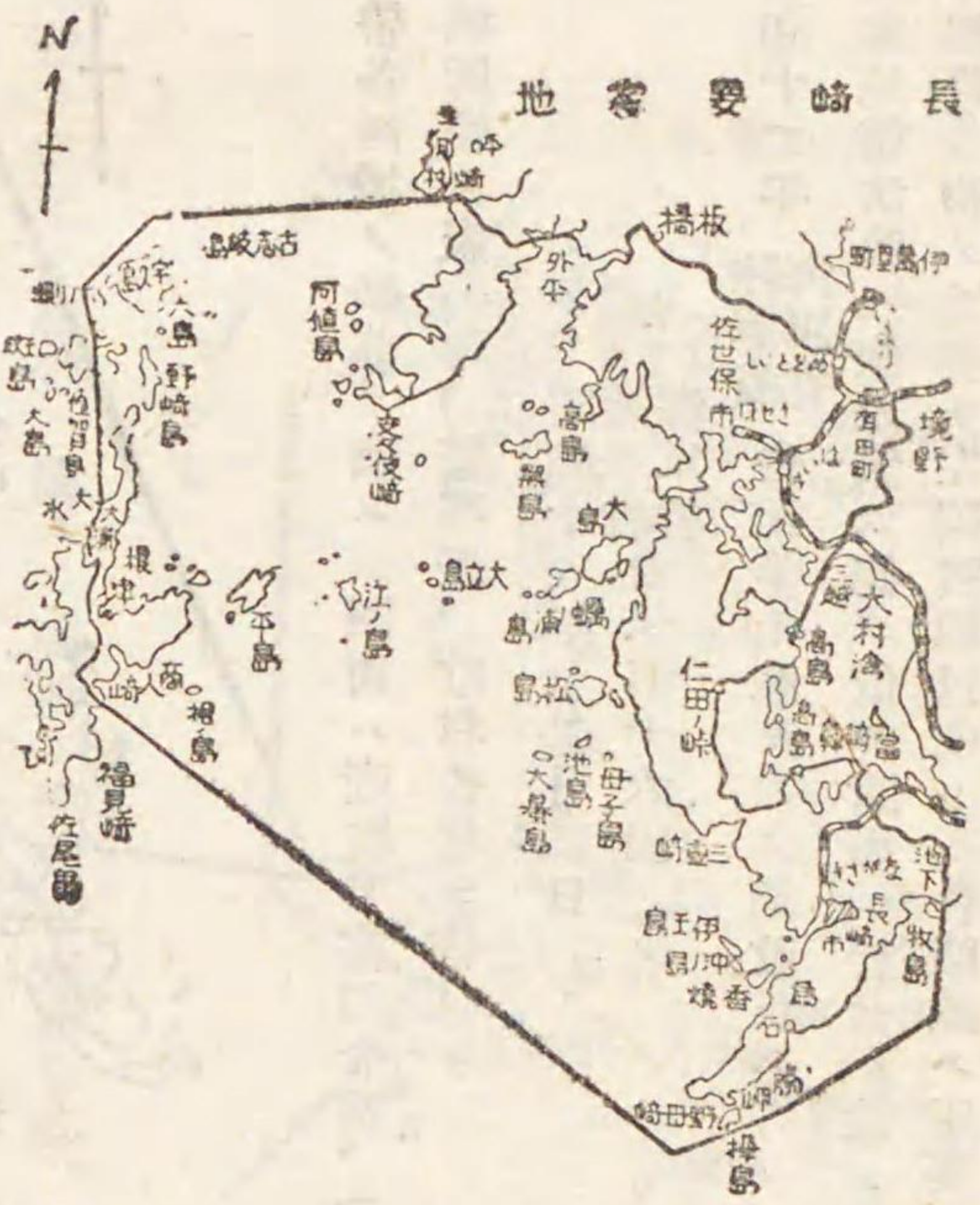
要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ津輕ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係

要塞地帶法第三條及第六條ニ依ル陸海軍防禦營造物地帶

識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

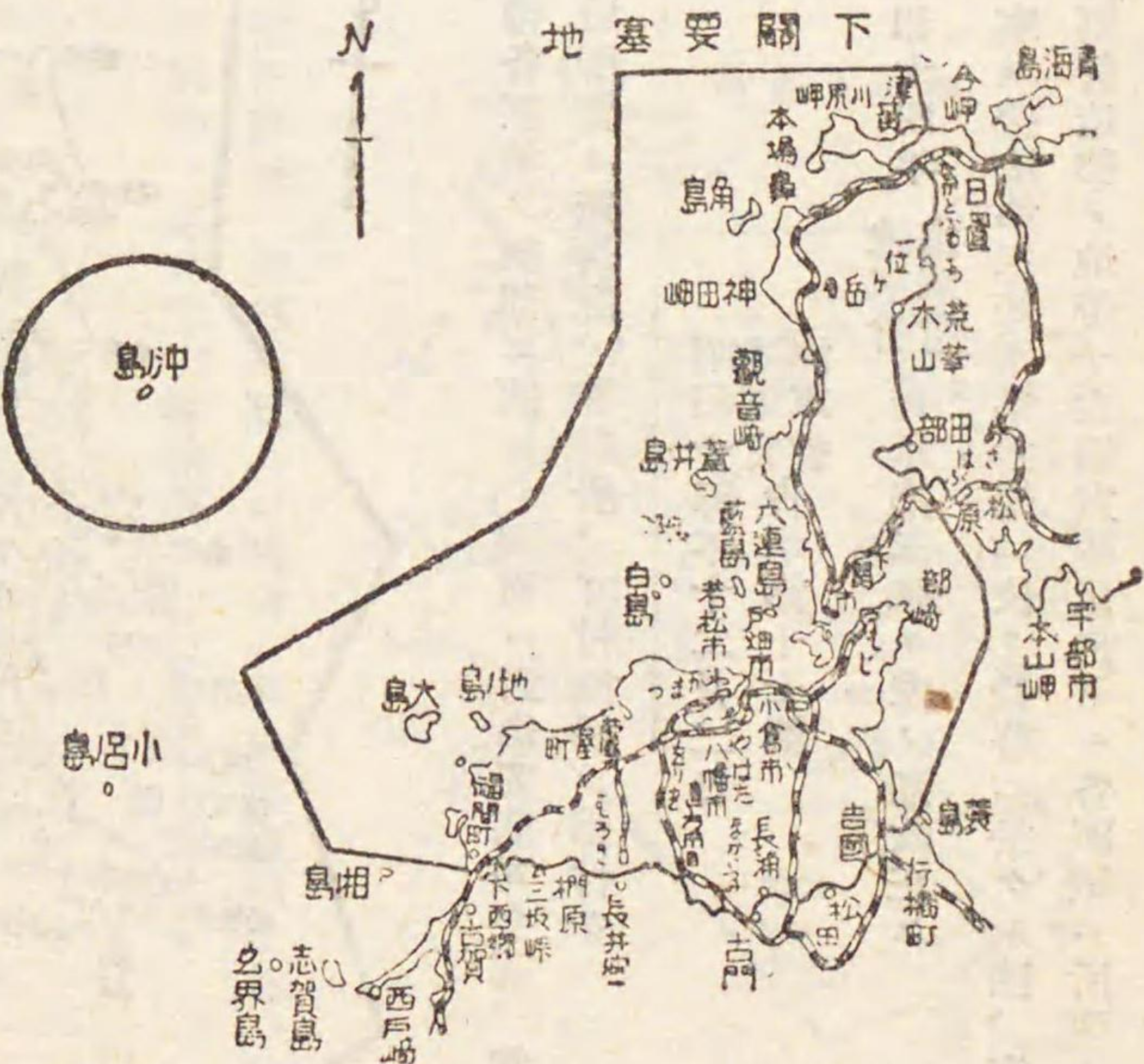


地帯各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ長崎要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

昭和十五年十二月二日
陸軍省告示第十八號
海軍省

要塞地帯法第三條及第六條ニ依リ下關ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帯ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

下關要地

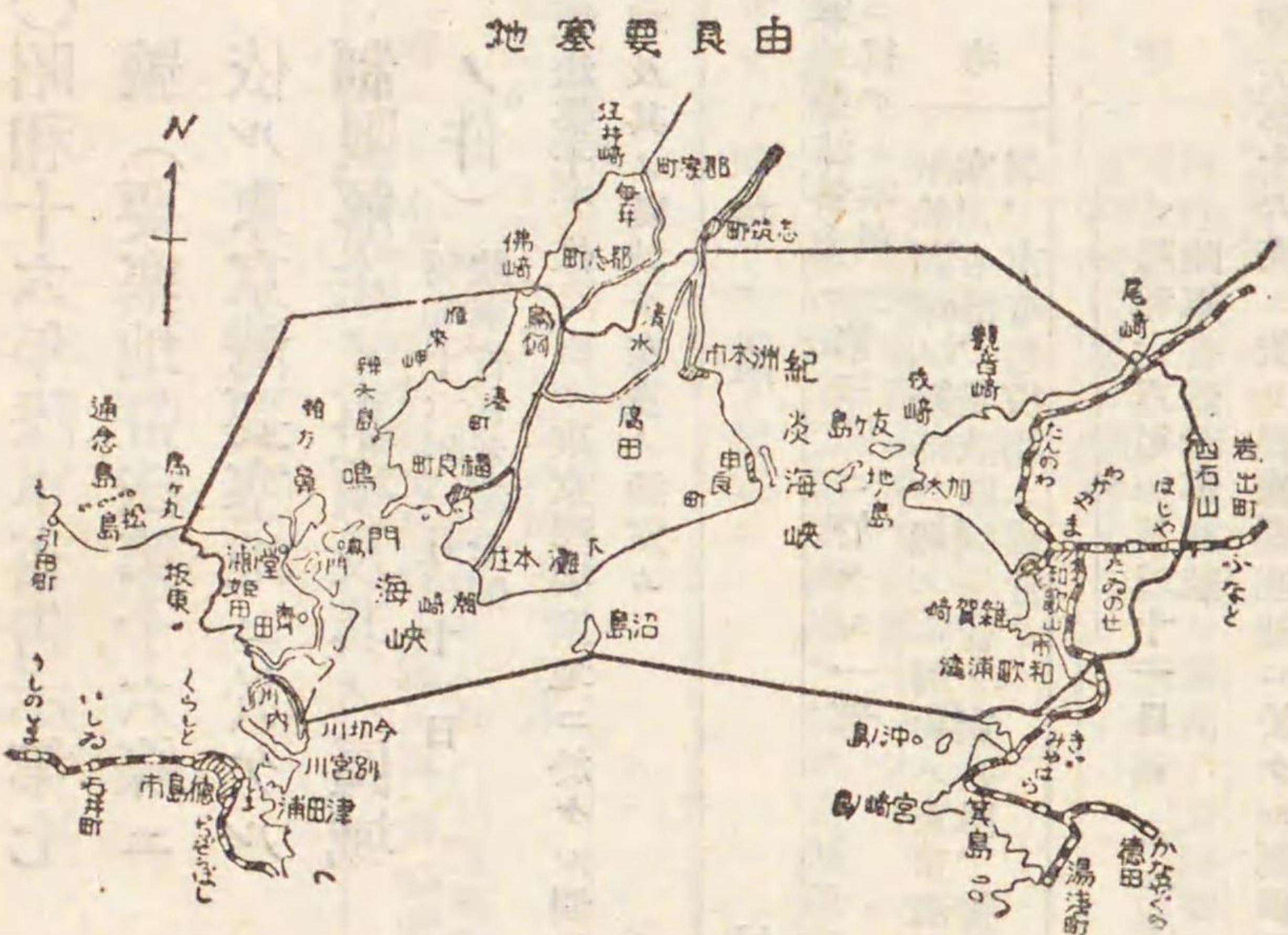


地帯各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ下關要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

昭和十五年十二月二日
陸軍省告示第十九號
海軍省

要塞地帯法第三條及第六條ニ依リ由良ニ於ケル陸、海軍

防禦營造物ノ地帯ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



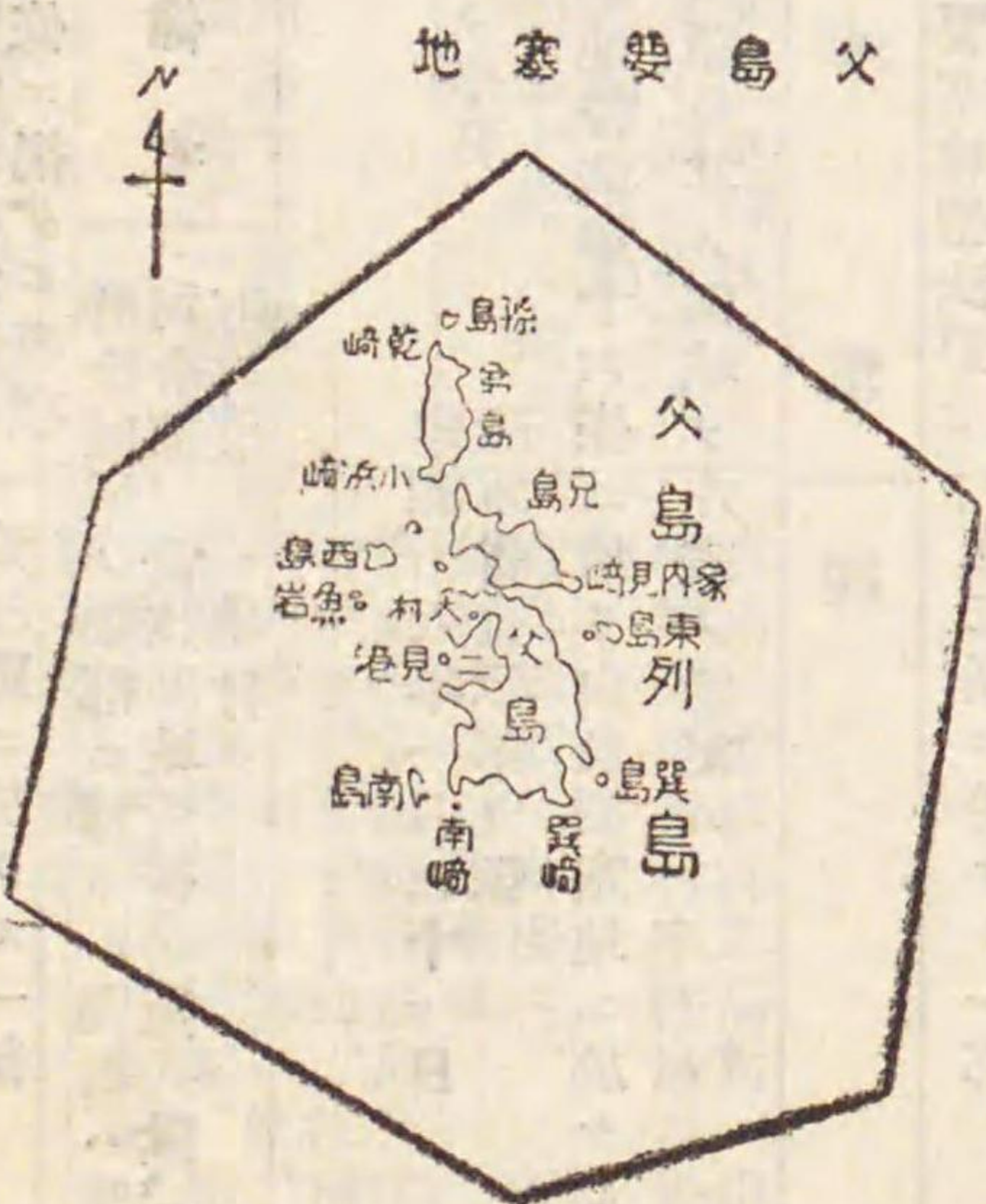
第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係

東京灣要塞地ニ於ケル制限解除及其ノ區域

地帯各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ由良要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

昭和十五年十二月二日
陸軍省告示第二十號
海軍省

要塞地帯法第三條及第六條ニ依リ父島ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帯ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



地帯各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ父島要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

○昭和十六年陸軍省告示第七號（要塞地帶法第十六條ニ依ル東京灣要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ノ件）

昭和十六年一月三十一日
陸軍省告示第七號

要塞地帶法第十六條ニ依リ東京灣要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

事項	區域
要塞地帶法第七條ニ掲ケル事項	第三區ニ於ケル一部
備考	解除區域ノ細部ニ關スル圖面ハ東京灣要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

昭和十六年一月三十一日
陸軍省告示第八號

要塞地帶法第十六條ニ依リ豐豫要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

事項	區域
要塞地帶法第七條ニ掲ケル事項	第二區ニ於ケル一部及第三區ニ於ケル一部
備考	解除區域ノ細部ニ關スル圖面ハ長崎要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

昭和十六年一月三十一日
陸軍省告示第十二號

要塞地帶法第十六條ニ依リ下關要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

事項	區域
要塞地帶法第七條ニ掲ケル事項	第三區ニ於ケル一部
備考	解除區域ノ細部ニ關スル圖面ハ下關要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

事項	區域
要塞地帶法第七條ニ掲ケル事項	第三區ニ於ケル一部
備考	解除區域ノ細部ニ關スル圖面ハ豐豫要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

昭和十六年一月三十一日
陸軍省告示第九號

要塞地帶法第十六條ニ依リ由良要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

事項	區域
要塞地帶法第七條ニ掲ケル事項	第三區ニ於ケル一部
備考	解除區域ノ細部ニ關スル圖面ハ由良要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市町村役場ニ備付ク

昭和十六年一月三十一日
陸軍省告示第十號

要塞地帶法第十六條ニ依リ長崎要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

○大正十五年海軍省告示第八號（吳要塞地ニ於ケル禁止制限解除ノ事項及其ノ區域）

大正十五年七月三十一日
海軍省告示第八號

要塞地帶法第十九條ニ依リ吳要塞地ニ於ケル禁止制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

事項	區域
要塞地帶法第九條中漁獵採藻及艦船ノ繫泊	廣島縣佐伯郡三高村、山口縣玖珂郡麻里布村、柱島ニ於ケル水面
同第十條ニ掲ケル事項	廣島縣賀茂郡廣村、阿賀町、佐伯郡三高村、宇美能
同第十一條第一號ニ掲ケル事項	廣島縣安藝郡倉橋島村、本浦、音戸町、渡子島村、江田島村、幸ノ浦、同郡宇宮ノ原、同村字大須、同郡警固屋町、佐伯郡飛渡瀨村、三高村、沖村、賀茂郡阿賀町、廣村
同第十一條、第十二號、第三號及第五號、第六號ニ掲ケル事項	第一區全部

同第十二條二掲クル事項	廣島縣賀茂郡廣村ノ一部及阿賀町ノ一部ヲ除クノ外第二區全部
同第十三條二掲クル事項	第一區全部並廣島縣賀茂郡廣村ノ一部及阿賀町ノ一部ヲ除クノ外第二區全部
同第十五條第二號中排水及灌水	各區全部
同第十五條第二號中溝渠鹽田及第三號、第四號二掲クル事項	第二區及第三區全部
同第十六條中道路橋梁	第二區及第三區全部
備考	一、要塞地帯法第十一條及第十二條中二掲クル事項ヲ解除シタル區域ニ於テハ同法第十四條中之ニ相當スル事項モ亦之ヲ解除シ別ニ本表中ニ掲ケス 二、一部解除ノ區域ハ吳鎮守府並關係市町村役場、警察署及憲兵分隊ニ備付ケタル圖面ニ就テ見ルヘシ

附則

本告示ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年十二月二日
陸軍省 告示第十二號
海軍省

昭和十一年 陸軍省 告示第七號ヲ左ノ通改正ス
要塞地帯法第三條及第六條ニ依リ羅津ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帯ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



地帯各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ羅津要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、府廳、邑面事務所ニ備付ク

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係

朝鮮陸海軍防禦營造物地帯

朝鮮陸、海軍防禦營造物地帯

昭和十五年十二月二日
陸軍省 告示第六號
海軍省

大正二年十一月十一日 陸軍省 告示ヲ左ノ通改正ス
海軍省

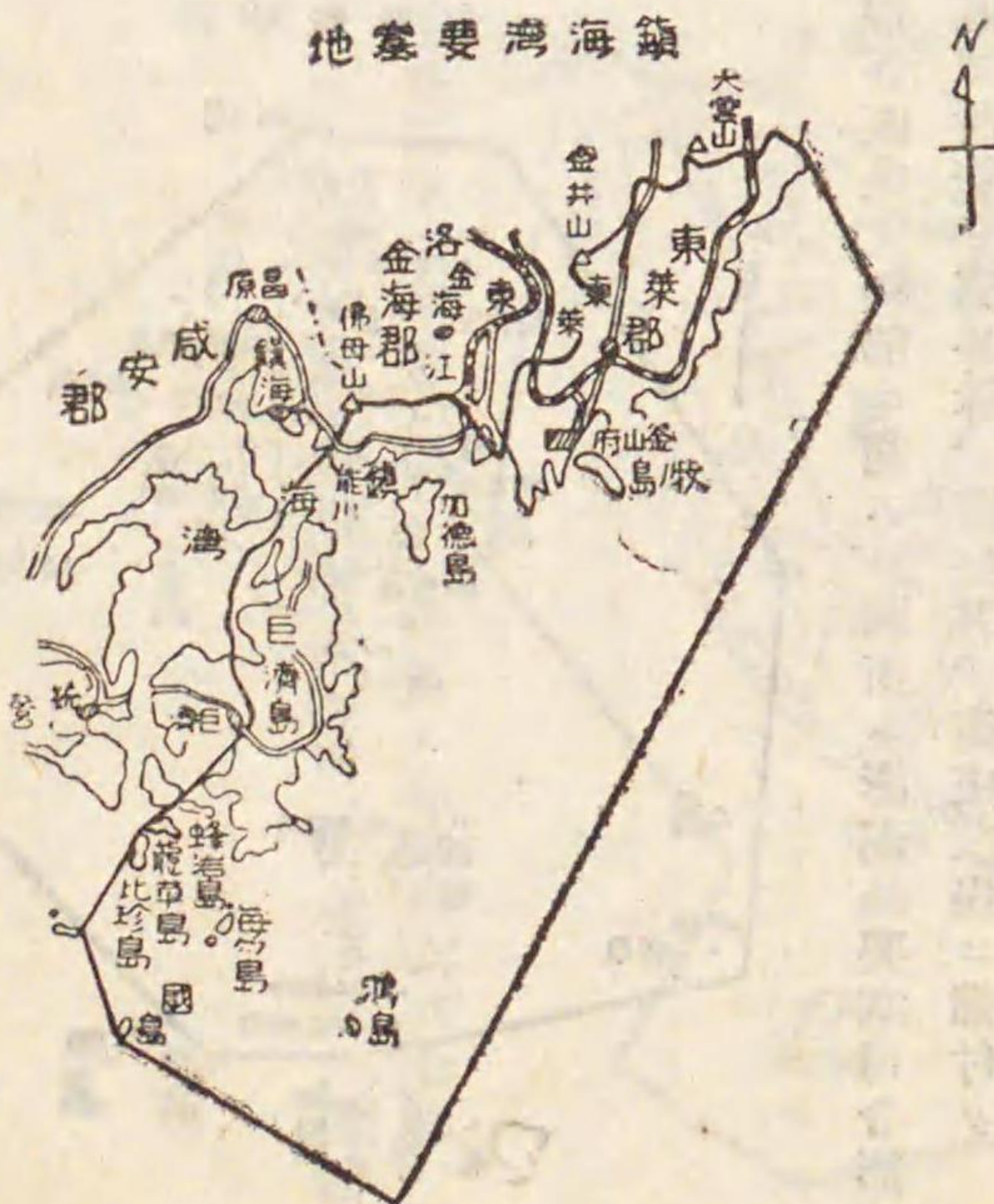
要塞地帯法第三條及第六條ニ依リ永興灣ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帯ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



地帯各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ永興灣要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、府廳、邑面事務所ニ備付ク

昭和十五年十二月二日
陸軍省 告示第十五號
海軍省

昭和十二年 陸軍省 告示第八號ヲ左ノ通改正ス
要塞地帯法第三條及第六條ニ依リ鎮海灣ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帯ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



地帯各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ鎮海灣要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、府廳、邑面事務所ニ備付ク

○昭和十六年陸軍省告示第十

三號（要塞地帶法第十六條

ニ依ル鎮海灣要塞地ニ於ケ

ル制限解除ノ事項及其ノ區

域ノ件）昭和十六年一月三十一日

陸軍省告示第十三號

要塞地帶法第十六條ニ依リ鎮海灣要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

事項	區域
要塞地帶法第七條ニ掲ケル事項	第三區ニ於ケル一部
備考	解除區域ノ細部ニ關スル圖面ハ鎮海灣要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、府廳、邑面事務所ニ備付ク

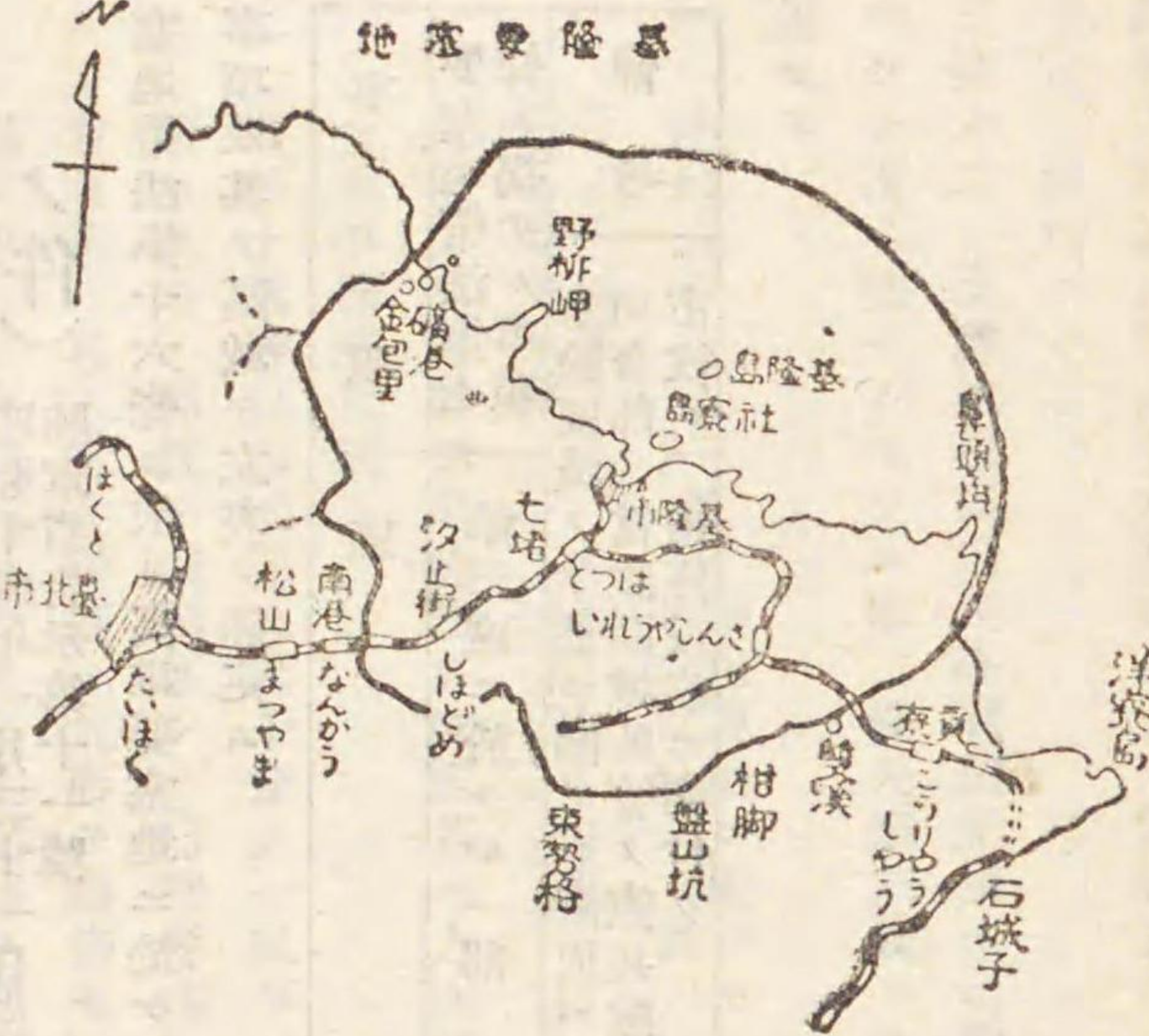
○臺灣陸、海軍防禦營造物地

帶 昭和十五年十二月二日

陸軍省告示第七號

海軍省告示第七號

大正八年八月 陸軍省告示ヲ左ノ通改正ス
要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ澎湖島ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ



地帶各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ基隆要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市役所、街庄役場ニ備付ク

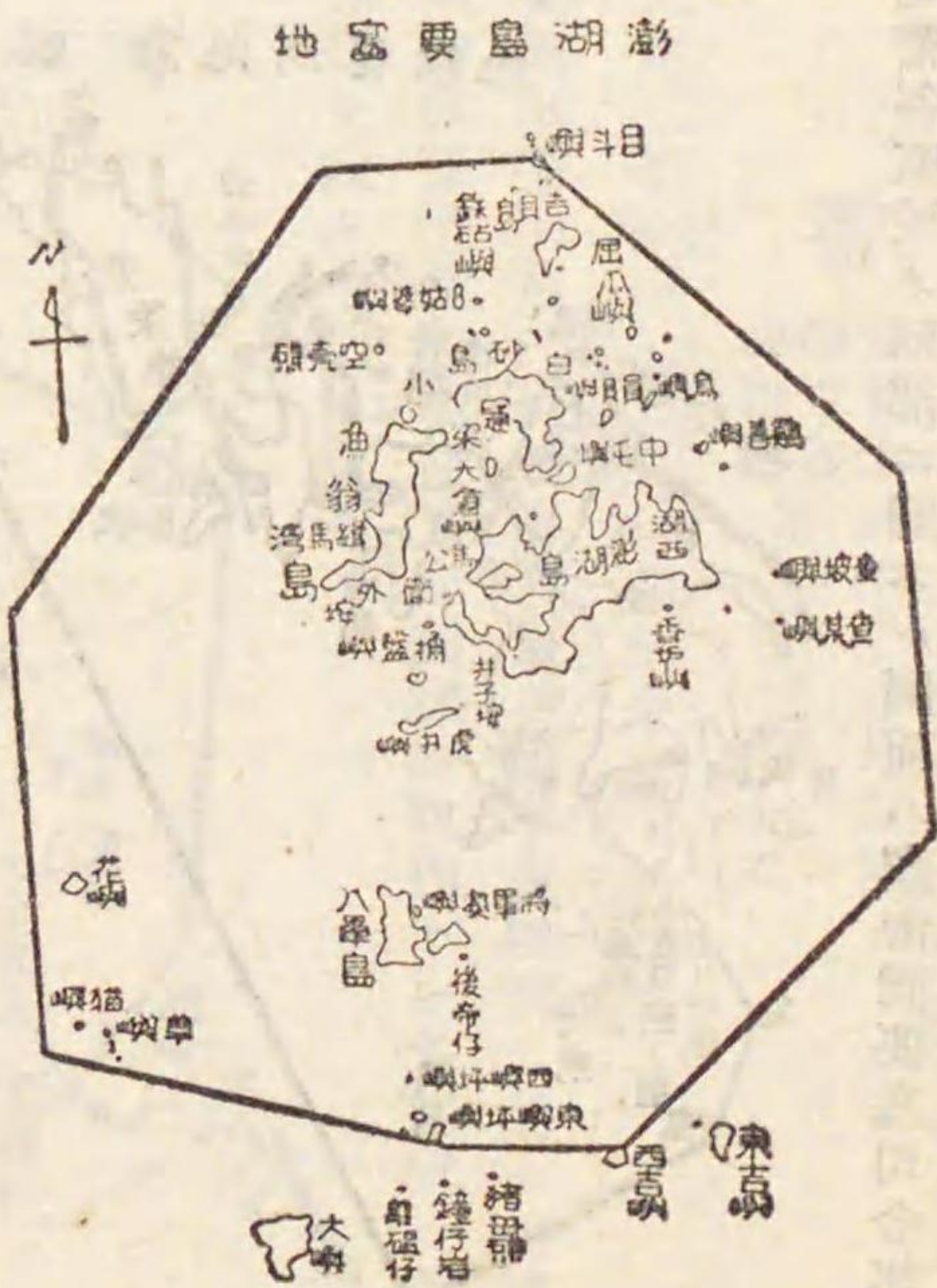
昭和十五年十二月二日

陸軍省告示第十四號

海軍省告示第六號ヲ左ノ通改正ス

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 臺灣陸、海軍防禦營造物地帶

標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

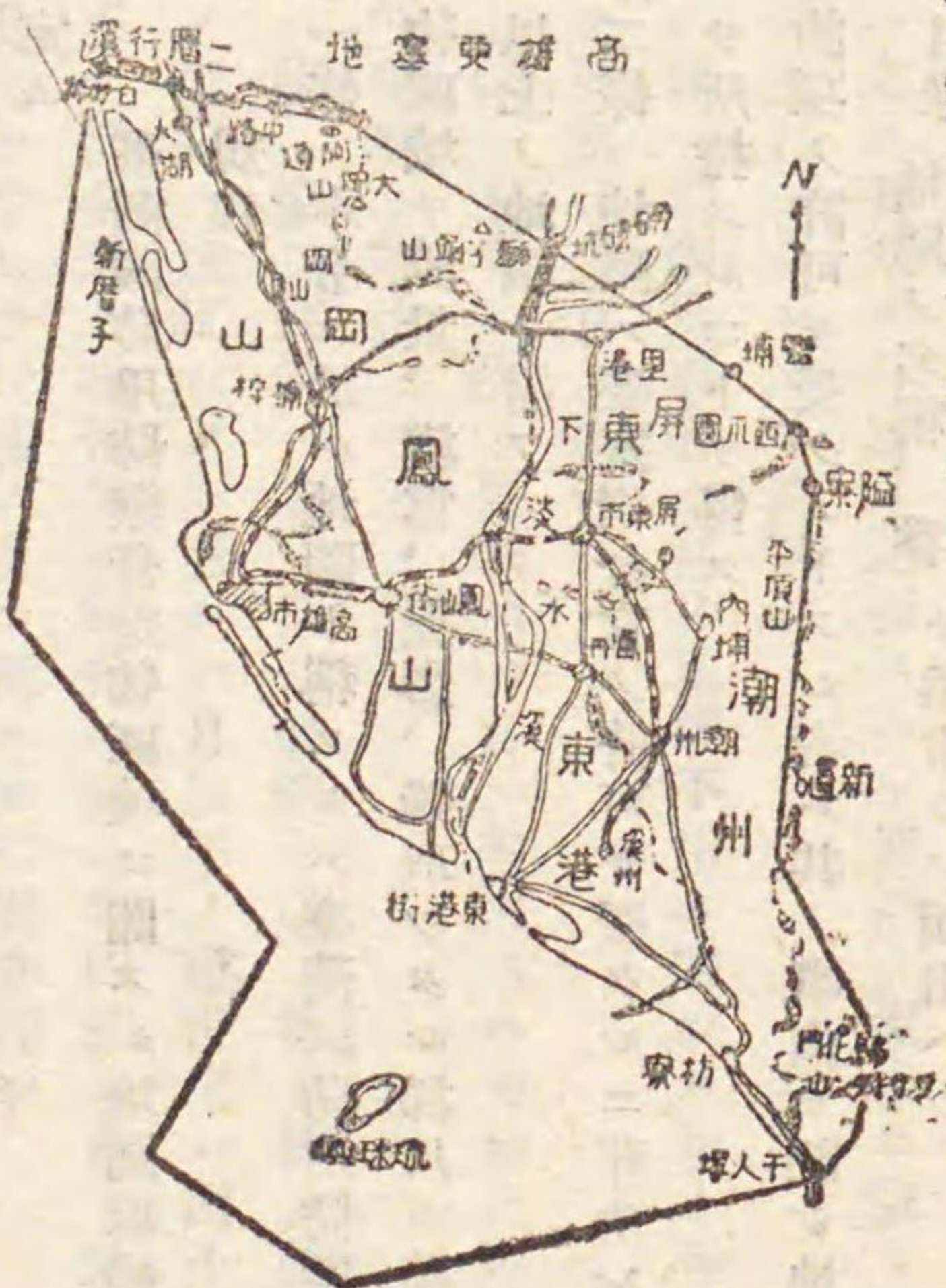


地帶各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ澎湖島要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、街庄役場ニ備付ク

昭和十五年十二月二日

陸軍省告示第五十四號

大正八年陸軍省告示第二十三號ヲ左ノ通改正ス
要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ基隆ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ高雄ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內トシ各區域ハ所要ノ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

地帶各區域ノ細部ニ關スル圖面ハ高雄要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市役所、街庄役場ニ備付ク

○昭和十六年陸軍省告示第十

一號(要塞地帶法第十六條

ニ依ル高雄要塞地ニ於ケル

制限解除ノ事項及其ノ區域

ノ件) 昭和十六年一月三十一日

陸軍省告示第十一號

要塞地帶法第十六條ニ依リ高雄要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

事	項	區	域
要塞地帶法第七條ニ掲ケル事項	第三區ニ於ケル一部		
備考	解除區域ノ細部ニ關スル圖面ハ高雄要塞司令部、當該區域所管ノ憲兵隊、警察署、市役所、街庄役場ニ備付ク		

○臺灣國防用防禦營造物區域

ニ關スル地圖取締規程

明治四十三年三月二十三日
臺灣總督府令第十七號

改正 明治四五年第三五號

臺灣國防用防禦營造物區域ニ關スル地圖取締規程左ノ通相定ム

臺灣國防用防禦營造物區域ニ關スル地圖取締

規程

第一條 本令ニ於ル地圖ト稱スルハ臺灣國防用防禦營造物區域ヲ測量、模寫、撮影、錄取シタル梯尺五萬分一以上ノ地圖ヲ謂フ

第二條 地圖ハ要塞司令官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ所持スルコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ記シ地圖及目錄(地圖ノ名稱、番號、梯尺及員數)ヲ添附シテ願出ヘシ

第三條 地圖所有者ハ毎年四月中ニ其ノ目錄ヲ調製シ之ヲ地圖ニ添附シテ所轄廳長ニ提出シ檢査ヲ受クヘシ

前項ノ目錄ハ其ノ年六月末日迄ニ當該廳長ヨリ要塞司令官ニ送付スヘシ

第三條ノ二 臺灣地租規則及臺灣鑛業規則ニ關スル地圖

ニシテ左ニ掲ケルモノハ第二條及第三條ニ依リ取扱ヲ要セス

一 梯尺五千分ノ一以下 地租規則ニ依ルモノハ市街地分ノ一以下トニシテ註記又ハ記號ヲ以テ地形若ハ爲スコトヲ得

土地ノ高低防禦營造物ノ位置若ハ方向等ヲ表示セサル平面測量圖

二 面積十萬坪以內、梯尺六千分ノ一以下ニシテ地形若ハ土地ノ高低ヲ表示スルモ防禦營造物ノ位置、方向若ハ其ノ所在附近ノ地形ヲ描畫セサル地形圖但シ單ニ其ノ四隅ニ於テノミ必要ノ地形若ハ土地ノ高低ヲ表示スルモ其ノ大半ハ全ク地形若ハ土地ノ高低ヲ描畫セサルモノニ在リテハ其ノ總面積ヲ六十萬坪以內トスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地形ヲ描畫セル部分ノ總計面積ハ十萬坪ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條 要塞司令官ハ軍事上必要ト認ムルトキハ地圖ヲ

第五條 要塞地帶法及軍港要港規則關係 臺灣國防用防禦營造物區域ニ關スル地圖取締規則 二三九

提出セシメ又ハ之ヲ取上ケルコトヲ得

第五條 地圖盜難ニ遭ヒ又ハ紛失若ハ燒失シタルトキハ地圖所有者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ所轄廳長ニ届出當該廳長ハ之ヲ要塞司令官ニ通報スヘシ偶然ノ原由ニ依リ地圖ヲ領有シタルトキ亦同シ

第六條 地圖所有者ハ其ノ地圖不用ニ歸シタルトキハ之ヲ要塞司令官ニ納付スヘシ

第七條 本令ニ依リ要塞司令官ニ差出スヘキモノハ總テ所轄廳ヲ經由スヘシ

第八條 第二條第一項、第三條第一項、第五條及第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ十月以下ノ懲役又ハ四十圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス第四條ニ依リ地圖ノ提出ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令發布前ヨリ地圖ヲ所持スル者ハ明治四十三年八月三十一日迄ニ第二條ノ許可ヲ受クヘシ

○關東州防禦營造物地帶令

明治四十一年三月七日
勅令第三十六號

改正 大正三年第三五號、四年第一七五號、八年第一〇二號、一一年第五〇四號、一四年第五〇號
昭和八年第一六九號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東州防禦營造物地帶令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍、海軍大臣副署)

關東州防禦營造物地帶令

第一條 防禦營造物地帶ハ陸地ト水面トヲ問ハス防禦營造物ヲ基點トシ其ノ外方地域ヲ左記標準ニ依リ三區ニ分ツ

第一區 基點ヲ去ルコト五百間以内

第二區 基點ヲ去ルコト二千五百間以内

第三區 基點ヲ去ルコト五千間以内

前項ノ規定ハ防禦營造物ヲ設クルコトニ豫定シタル箇所ニ付亦之ヲ適用ス

第二條 防禦營造物地帶ハ陸軍大臣其ノ區域ヲ定メ之ヲ告示ス其ノ變更ノ場合亦同シ

第三條 防禦營造物ニ出入セントスル者ハ其ノ所屬ニ從

第六條 防禦營造物地帶第一區ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ左記各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 工作物ノ新設、變更又ハ移轉

二 埋葬地、牧場、公園、竹木林ノ新設又ハ其ノ變更

三 山林原野ニ於ケル焚火

四 火器爆發物ノ發射、發火

五 爆發物其ノ他燃燒シ易キ危險物ノ製造又ハ貯藏

六 漁業、採藻又ハ船舶ノ繫泊

第七條 要塞司令官ハ防禦營造物地帶ニ於テ兵備ノ狀況其ノ他地形等ノ視察ヲ爲ス者ト認メタルトキハ之ヲ地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第八條 要塞司令官ハ防禦營造物地帶ニ於ケル水陸ノ形狀又ハ防禦營造物ニ關スル文書、圖畫、模型ノ類ニシテ軍事上有害ナリト認ムルモノヲ發見シタルトキハ之ヲ没入スルコトヲ得

第九條 要塞司令官ハ第五條及第六條ノ違反者ニ對シ期限ヲ定メテ其ノ復舊ヲ命スルコトヲ得義務者指定ノ期限迄ニ復舊セサルトキ又ハ復舊ヲ終了シ能ハスト認メタルトキハ要塞司令官ニ於テ之ヲ執行シ國稅徵收ノ例

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 關東州防禦營造物地帶令

七 要塞司令官又ハ旅順要港部司令官ノ許可ヲ受クベシ

第四條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ防禦營造物地帶内水陸ノ形狀若ハ防禦營造物ヲ測量、撮影、模寫、模造、錄取シ又ハ防禦營造物地帶内ヲ航空スルコトヲ得ス

航空ノ許可ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 防禦營造物地帶第一區及第二區ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ左記各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル工事

二 溝渠、鹽田、水道、道路、橋梁、繫泊場ノ新設又ハ其ノ變更

三 鐵道、軌道、隧道ノ新設又ハ其ノ變更

四 採鑛其ノ他地盤ノ掘鑿

五 運河、永久棧橋ノ新設、水面ノ埋立、河海岸ノ掘鑿又ハ其ノ變更

前項ニ關スル處分ニ付テハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得
前項ニ依リ第五條ノ違反者ニ對シ復舊ヲ命スル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 陸軍大臣ハ一定ノ區域ヲ限リ第四條乃至第六條ノ禁止ノ一部又ハ全部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス其ノ變更又ハ取消ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十一條 防禦營造物地帶ニシテ專ラ海軍ニ關スルモノニ付テハ本令ニ定メタル要塞司令官ノ職權ハ旅順要港部司令官之ヲ行ヒ陸軍大臣ノ職權ハ海軍大臣之ヲ行フ

防禦營造物地帶ニシテ海軍ニ關係アルモノニ付テハ第七條及第八條ニ定メタル要塞司令官ノ職權ハ旅順要港部司令官ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十二條 第二條、第四條乃至第六條、第九條及第十條ノ場合ニ於テ其ノ海軍ノ防禦營造物地帶ニ關聯スルモノニ在リテハ陸軍官憲ハ之ヲ海軍官憲ニ協議スベシ

第十二條ノ二 本令ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十三條 要塞司令官及旅順要港部司令官ハ防禦營造物

ノ地帯ヲ畫スル爲其ノ他必要アル場合ニ於テ部下官僚
ヲシテ防禦營造物地帯及其ノ附近ノ地ニ出入セシムル
コトヲ得

第十四條 官廳ニ於テ第三條乃至第六條ニ定メタル行爲
ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ豫メ陸海軍官憲ニ協議ス
ヘシ

第十五條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役
若ハ十一日以上ノ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ二圓
以上ノ科料ニ處ス

- 一 防禦營造物地帯ニ關スル標木、標石又ハ標札ノ類
ヲ移轉シ又ハ毀損シタル者
 - 二 許可ヲ受ケスシテ防禦營造物ニ出入シタル者
 - 三 第四條乃至第六條ニ違反シタル者
 - 四 第七條ニ依リ退去ヲ命セラレ之ニ從ハサル者
- 第十六條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ陸軍大臣、
海軍大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ニ依リ許可ヲ要スル事項ハ本令施行前既ニ許可ヲ受
ケタルモノト雖遲滯ナク其ノ目的位置方法等ヲ記シ更ニ

- 二 港灣出入艦船ノ航行ニ必要ナル錘測
- 三 土地ノ丈量 丈量トハ土地ノ高低ヲ測量スルモノニ
非ラスシテ單ニ地上ノ幅員ヲ測ルコト
ヲ謂 但シ地目地類ノ變更、土地ノ分合、境界ノ查
定、家屋倉庫ノ新設變更並本條第四號乃至第十一
號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル
- 四 地面面ヨリ高低三尺ヲ超エサル道幅三間未滿ノ道
路及橋梁ノ工事
- 五 生垣及木造圍牆ノ新設變更
- 六 家屋、倉庫其ノ他諸建物ノ地形ニシテ高低三尺面
積百坪ヲ超エサル地表ノ變更ヲ生スル工事
- 七 宅地又ハ工場敷地内ニ於ケル井、高サ六尺以下ノ
築山及深サ三尺ニ滿タサル泉水
- 八 耕作ノ爲ニスル地面ノ掘鑿但シ地形ヲ變更スル
場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 九 不可抗力ニ由リ變更シタル土地又ハ工作物ヲ原形
ニ復スル作業
- 十 深サ三尺幅四尺ヲ超エサル溝渠ノ新設變更
- 十一 面積五百坪ヲ超エサル育樹場、果樹園及桑茶畑
ノ新設變更

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係

關東州防禦地帯令施行細則

要塞司令官ニ申請スヘシ本令施行後三月内ニ申請セサル
トキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

○關東州防禦營造物地帯令施行細則

大正八年五月二十九日
陸軍省令第十八號

改正 大正一一年第四號

關東州防禦營造物地帯令施行細則左ノ通定ム(海軍大臣
連署)

關東州防禦營造物地帯令施行細則

- 第一條 關東州防禦營造物地帯令 以下地帯
稱スルハ飛行機、航空船、繫留氣球、凧等ニ搭乘シ空
中ヲ飛揚スル總テノ行爲ヲ謂ヒ工作物ト稱スルハ金
屬、木石、木材等ヲ以テスル總テノ築造物ヲ謂ヒ掘鑿
トハ單ニ石材又ハ土砂等ヲ採取スル場合ヲ含ミ測量、
撮影、模寫、模造、錄取トハ其ノ複製ノ行爲ヲモ含ム
モノトス
- 第二條 左ニ掲クル事項ハ承認又ハ許可ヲ受クルヲ要セ
ス
一 軍用地以外ニ於テ陸海軍ノ行フ號砲又ハ演習、教
練ノ爲ニ銃砲ノ發射

- 十二 自己居住村落ノ沿岸ニ於ケル所有船舶ノ繫泊
- 十三 自己ノ狩獵用並護身用銃器ニ要スル爆發物及爆
竹ノ貯藏

第三條 要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル
事項ヲ記シ其ノ作業地 航空ノ場合ニ在リテハ管轄スル民
政署長若ハ民政支署長ノ證明書(主トシテ出願者ノ權
利ニ關スル事項)又ハ警務署長若ハ警務支署長ノ證明
書(主トシテ出願者ノ身分ニ關スル事項)ヲ添ヘ出願ス
ヘシ

- 一 地帯令第四條ニ掲クルモノニ在リテハ其ノ目的區
域及作業期間(測量ニ在リテハ測量ノ種類及梯尺、
航空ノ場合ニ在リテハ使用スヘキ航空機ノ種類及
型式等共)
- 二 地帯令第六條第六號ニ掲クルモノニ在リテハ漁
業、採藻ノ區域方法及期間又ハ船舶繫泊ノ目的位
置期間及船舶ノ種類
- 三 地帯令第五條及第六條第一號、第二號ニ掲クルモ
ノニ在リテハ其ノ目的設計位置及作業期間
- 四 地帯令第六條第三號乃至第五號ニ掲クルモノニ在
リテハ其ノ目的方法位置及期間

官憲ニ於テ協議スル場合ニ在リテモ前項ノ要件ヲ具備スルヲ要ス

第四條 要塞司令官ハ承認又ハ許可シタルトキハ承認證又ハ許可證ヲ交付ス

第五條 許可證ハ作業ニ從事スル者又ハ現場ニ於ケル作業監督者ニ於テ必ス之ヲ携帯シ何時ニテモ憲兵、衛戍服務ノ軍人、砲臺監守要塞司令部職員及警察官吏ノ要求ニ應シ査閲ニ供スヘシ

許可證ハ總テ許可期間満了前ニ作業ヲ完成シタル場合ハ其ノ完成ノ日ヨリ後二週間以内ニ要塞司令部ニ返納スヘシ

許可證ヲ亡失シタルトキハ三日以内ニ要塞司令官ニ其ノ事由ヲ届出ツルト同時ニ再下付ヲ出願スヘシ此ノ場合ニ於テ已ムヲ得サルトキハ一時最寄憲兵隊分隊分遣所ヲ含ム

警察署、警務支署 警察官吏派 出所ヲ含ム又ハ要塞司令部ニ届出テ作業ヲ續行スルコトヲ得

第六條 許可ヲ受ケ地帯令第五條及第六條第一號、第二號ニ掲クル作業ニ著手シタルトキハ其ノ作業中作業ノ種類、許可ノ年月日及作業期間並出願者ノ住所氏名ヲ

記シタル標札ヲ見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第七條 許可ヲ受ケタル作業完成シ又ハ許可期間内ニ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ二週間以内ニ其ノ旨ヲ要塞司令官ニ届出テ同時ニ許可證ヲ返納スヘシ

第八條 要塞司令官ノ許可ヲ受ケタル事項ニシテ許可ノ期間内ニ作業ヲ完了セサルトキハ其ノ完了セサル部分ノ作業ニ對シテハ許可ノ效力ヲ失フモノトス

測量、撮影、模寫、模造、錄取等ニ在リテハ完了後二週間以内ニ圖面又ハ作製品ヲ要塞司令部ニ提出シ其ノ檢査ヲ受ケヘシ

第九條 地帯令第九條ニ依リ費用ヲ徵收スルトキハ之ヲ民政署、民政支署ニ囑託スルコトヲ得

第十條 官憲ニ於テ承認ヲ受ケタル事項ニ關シテハ第五條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

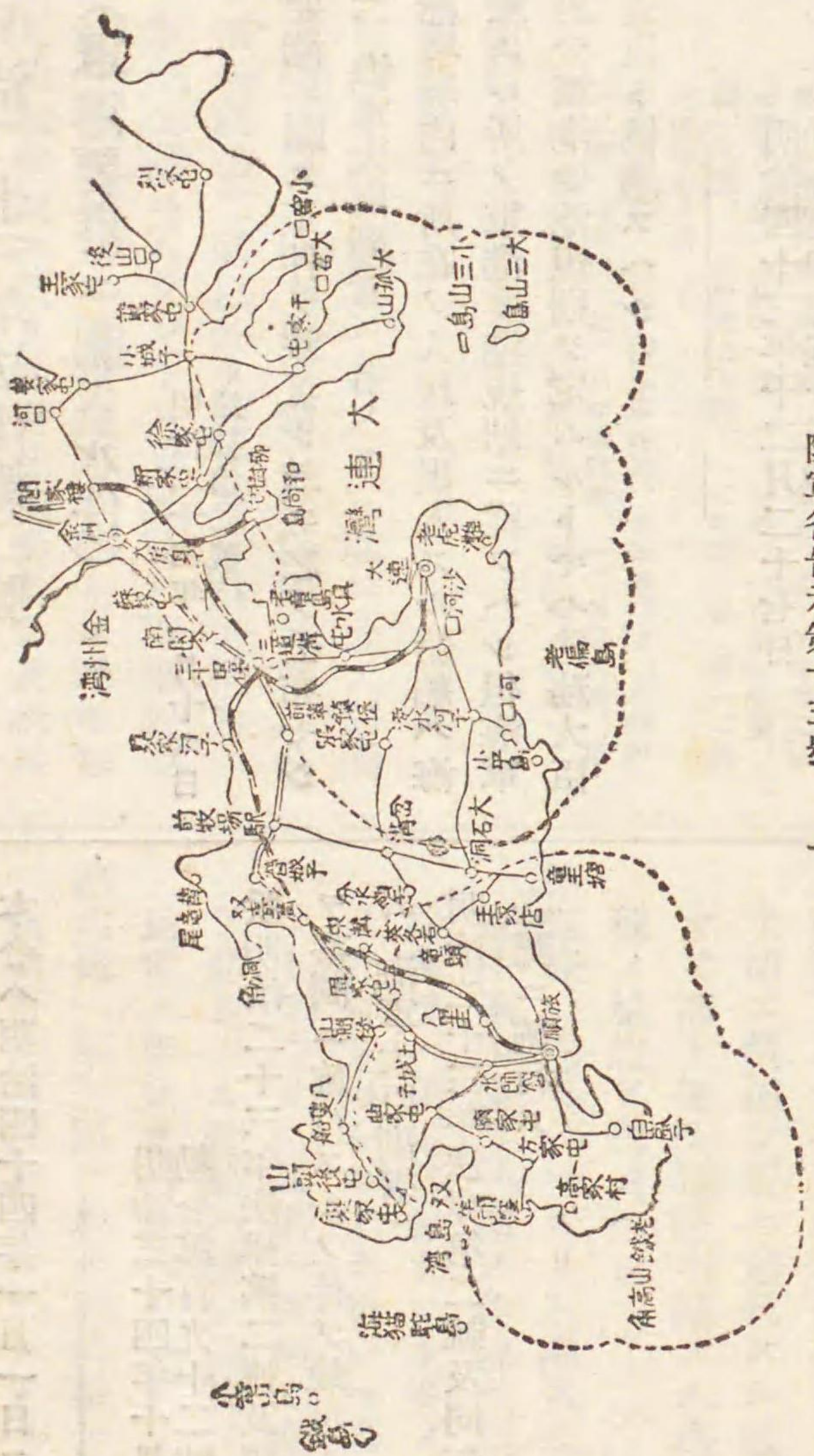
第十一條 第五條乃至第七條若ハ第八條第二項ノ規定又ハ要塞司令官ノ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正八年陸軍省告示第十五號 (關東州防禦營造物地帯令第二條ニ依ル地帯區域)

大正八年五月二十九日 陸軍省告示第十五號



改正 昭和四年第二五號
關東州防禦營造物地帯令第二條ニ依リ地帯區域左圖ノ通定メ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

◎明治二十三年法律第二號
(軍港要港ニ關スル件)

明治二十三年一月十六日
法律第二號

朕軍港要港ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)
軍港要港境域内ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ但海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ內務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

明治四十三年十二月二十七日
勅令第四百五十五號

朕明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

◎軍港要港規則

明治三十三年四月三十日
海軍省令第七號

改正 明治三十三年第二四號、三十四年第四號、第一一號、三六
年第六號、三十八年第九號、四一年第一四號、四二年第
二號、四三年第一三號、四四年第一號
大正元年第三號、第五號、二年第一四號、三年第一〇
號、四年第五號、五年第二號、第一三號、六年第二號
七年第二號、八年第一號、第一〇號、一〇年第五號、
第一三號、一一年第二六號、一二年第三號、第一二號
一五年第二號
昭和二年第一〇號、四年第四號、五年第八號、六年第
一二號、七年第八號、八年第四號、一〇年第四號、第
五號、第一〇號、一三年第九號、一四年第三四號

軍港要港規則左ノ通定ム

軍港要港規則

第一條 軍港要港ノ水域ハ各之ヲ三區ニ分チ別圖
點一線以內ヲ第一區ト稱シ點二線以內ヲ第二區
ト稱シ第一區第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス
第二條 軍港要港ニ入ラントスル艦船ハ軍港要港
水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ繫止スル地點
マテ萬國船舶信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示ス
ヘシ但シ鎮守府司令長官其ノ必要ナシト認メ其

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 軍港要港規則

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年十月十二日
勅令第百九十二號

朕明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號
ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム(海軍大臣副署)
明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ヲ
臺灣ニ施行ス

ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ
水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定ア
ルモノノ外其ノ國籍ヲ表明スル旗章ヲ掲揚スヘ
シ

第四條 軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ
水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ日没ヨリ日出
マテ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各
種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第五條 内外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢
疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ
檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ鎮守府司令長官
ノ許可ヲ得ルニアラサレハ第一區第二區ニ入ル
コトヲ許サス又第一區第二區ニ於テ傳染病患者
ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ掲ケテ鎮守府司令
長官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第六條 第三區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限ハ
艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃
燒シ易キ物件ヲ積載スル艦船ハ港務部長特ニ其

- 一 掘鑿、海岸ニ於ケル石垣ノ築造
- 二 道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設、水底電線ノ敷設
- 三 地盤ノ開鑿及埋築
- 四 森林ノ伐採
- 五 軍港要港ノ水域内ニ發著スヘキ海運ノ營業漁業權ノ設定
- 六 浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置
- 七 第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以内ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築
- 八 第十九條 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得スシテ軍港要港境域内ヲ航空シ又ハ同境域内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取シ若ハ地理案内等ノ圖書ヲ發行スルヲ禁ス但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル錘測ハ此ノ限ニ在ラス
- 九 第十九條ノ二 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ軍港要港境域内ニ於テ無線電信無線電話ヲ發信スルコトヲ得ズ但シ艦船航行中ノ通信及

- 遭難通信又ハ軍用通信ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二十條 鎮守府司令長官ハ軍港要港境域内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ニ軍港要港境域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得
- 第二十一條 地方長官ハ軍港要港境域内衛生ノ事ニ關シテハ鎮守府司令長官ニ協議スヘシ
- 第二十二條 鎮守府司令長官ハ海軍用地ニ接近スル一般公路ニ於テ取締上必要ナリト認ムルトキハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得
- 鎮守府司令長官ハ海軍用地ノ内取締上差支ナシト認ムル區域ニ限リ一般人民ニ通行ヲ許スコトヲ得
- 第二十三條 軍港要港ノ境域並其ノ區劃等ヲ表示スル標石標木標札ノ類若ハ其ノ水域内ニ設クル浮標等ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞スルコトヲ禁ス
- 第二十四條 軍港要港ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

第二十五條 要港(徳山要港ヲ除ク)ニ於テハ本則

ニ規定セル鎮守府司令長官ノ職務ハ要港部司令官、港務部長ノ職務ハ要港部港務部長之ヲ行フ

附則

第二十六條 本則中地方長官ニ關スル規定ハ朝鮮

ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リ

テハ臺灣總督ニ之ヲ適用ス

第二十七條 削除

第二十八條 本則ハ明治三十三年五

月二十日ヨリ施行ス

第二十九條 明治二十九年海軍省令

第六號橫須賀軍港規則同年海軍省

令第七號吳軍港規則同年海軍省令

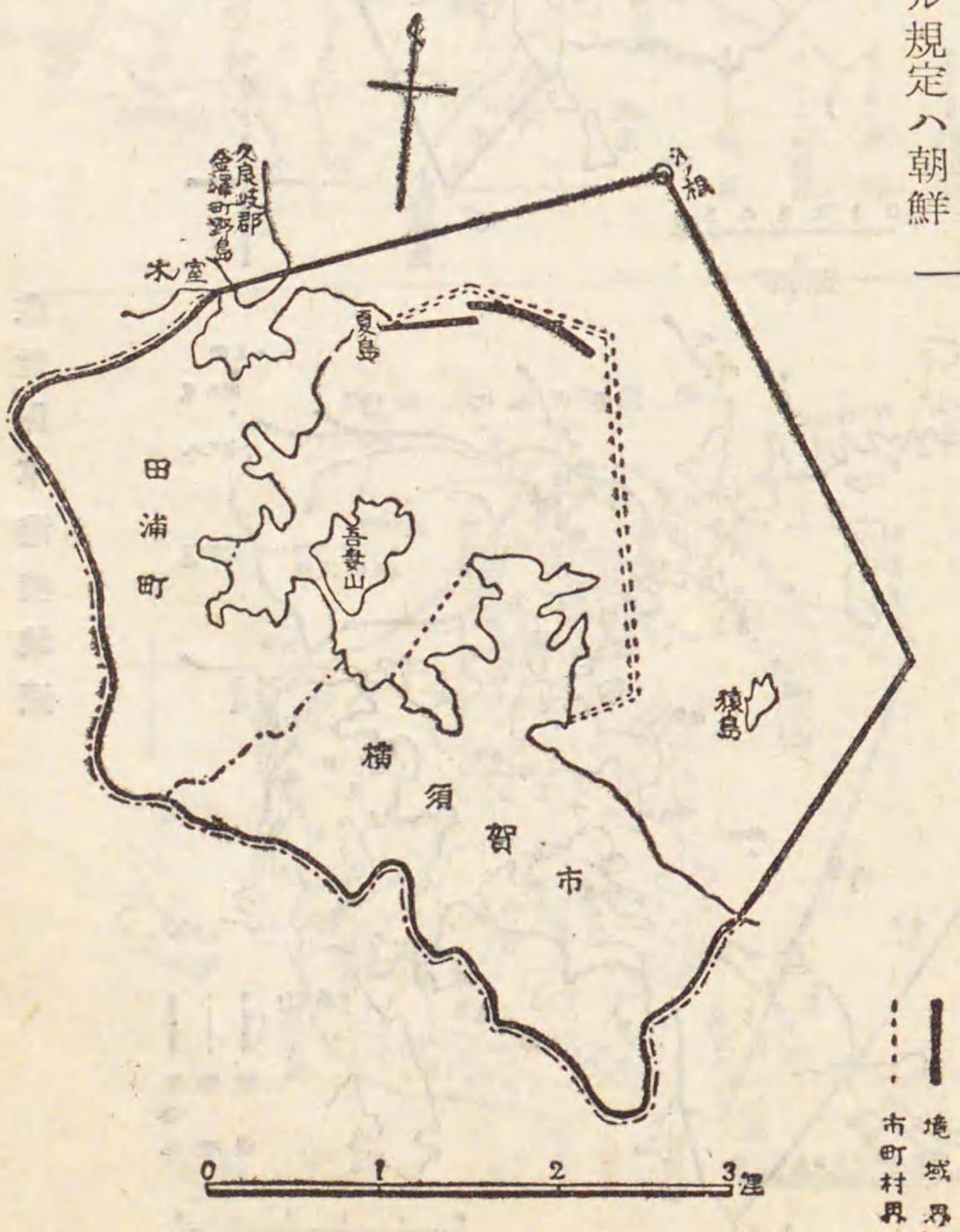
第八號佐世保軍港規則同年海軍省

令第十三號竹敷要港規則及同三十

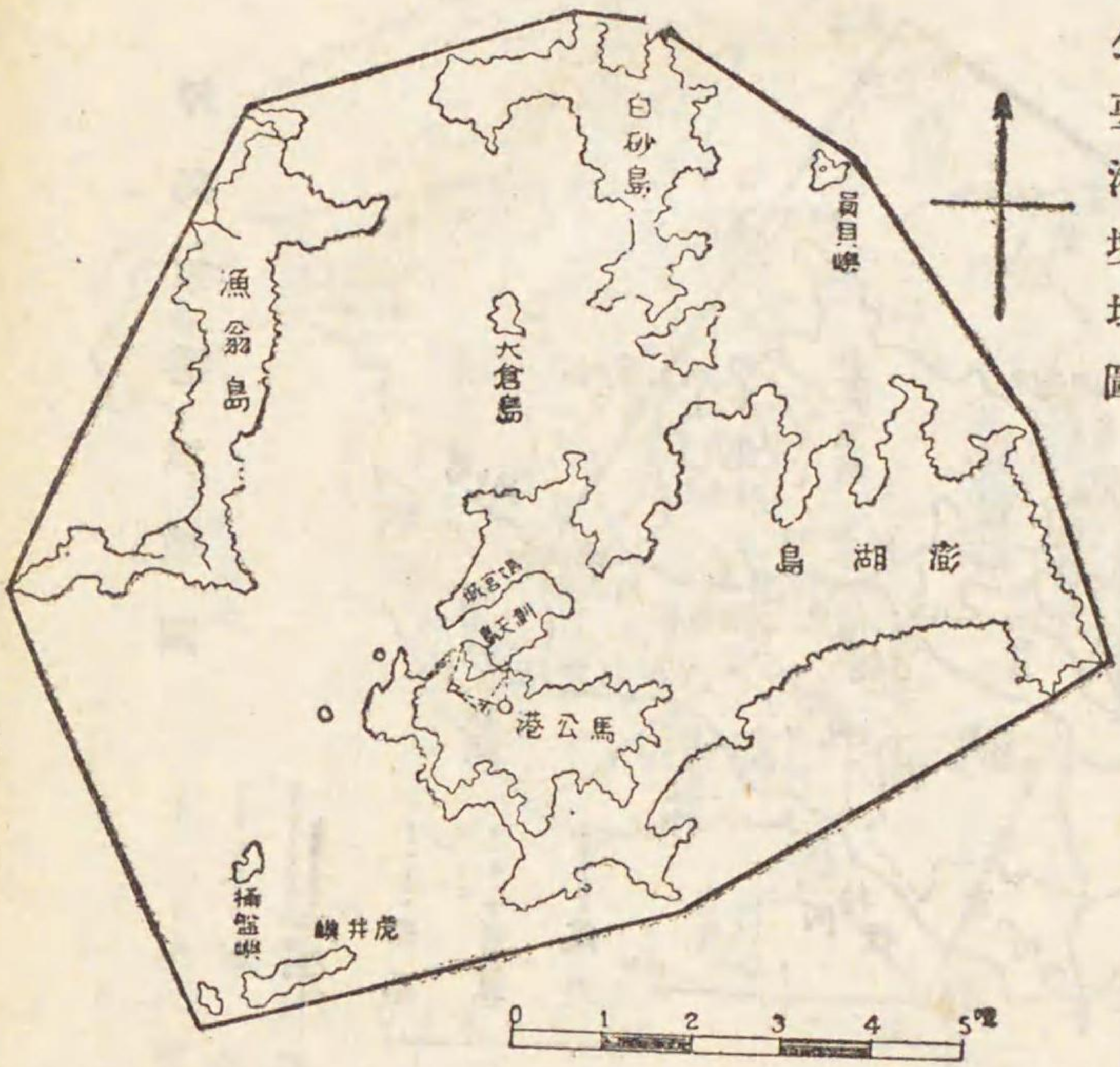
年海軍省令第十四號舞鶴軍港規則

ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

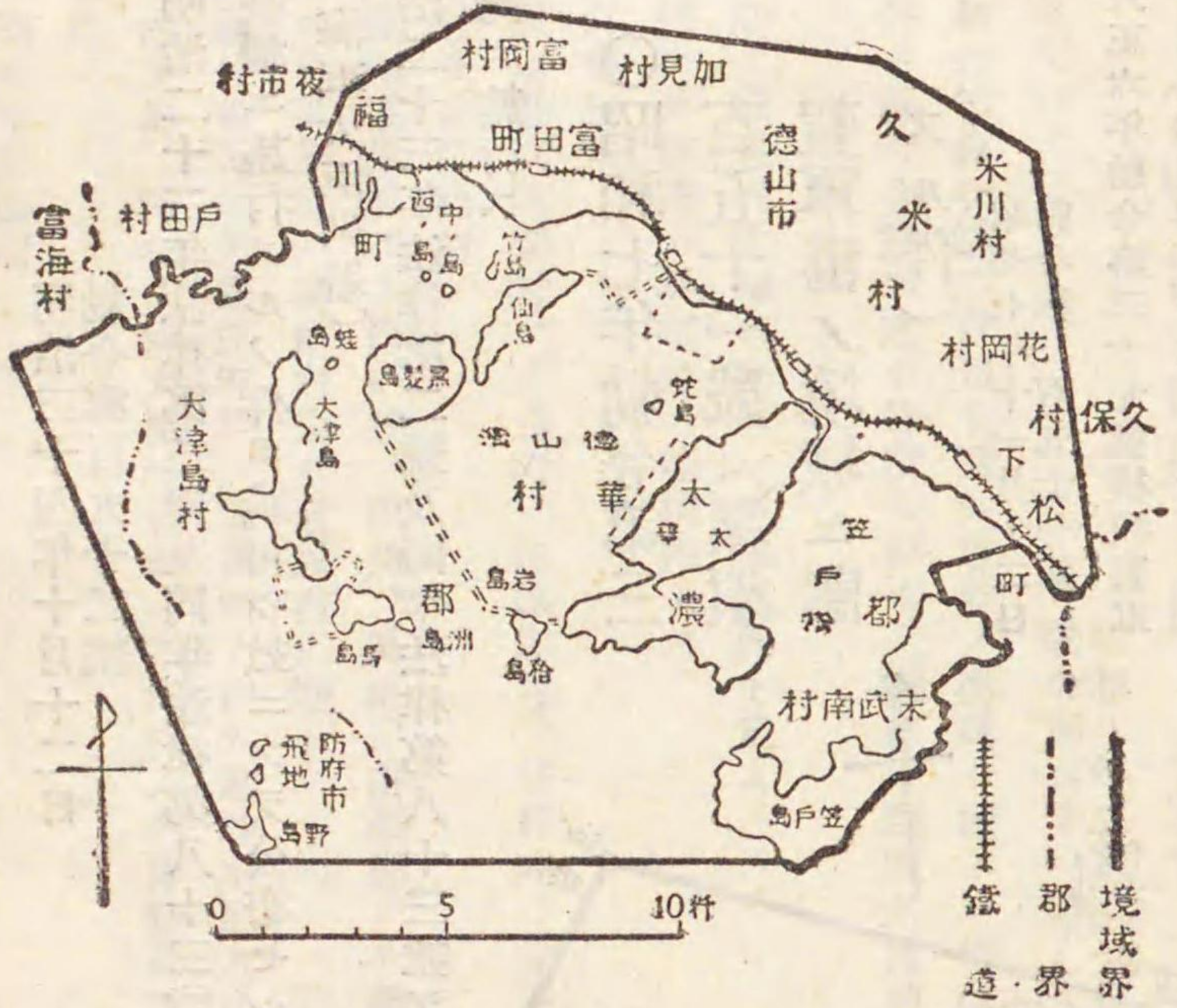
橫須賀軍港境域圖



△ハ測天島ノ南西端ノ西二鏈ノ位置ニ碇置シタル浮標ナリ
 ○ハ△浮標ノ南六十六度東六鏈ノ位置ニ碇置セル浮標ナリ
 ハ現第一區境界線
 ハ改正
 方位ハ眞方位ヲ以テ示ス
 馬公要港境域圖



德山要港境域圖



第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係

軍港要港規則違反者處分ノ件

◎明治二十三年法律第八十三號
 (軍港要港規則違反者處分ノ件)

明治二十三年九月十三日
 法律第八十三號

朕軍港要港規則違反者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ【重禁錮】又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

明治四十三年十二月二十七日
 勅令第四百五十五號

朕明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

附則

明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ハ本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

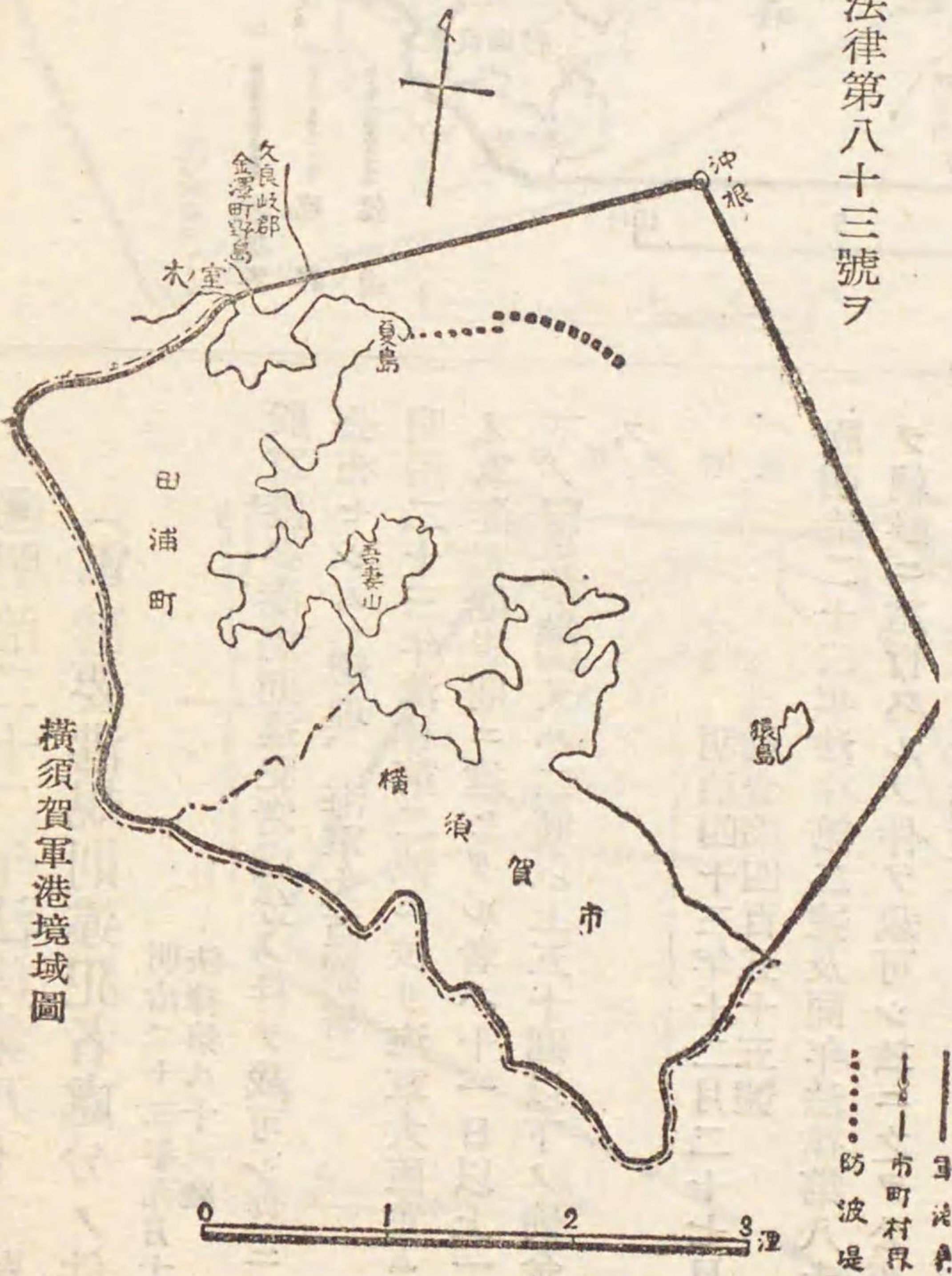
明治三十四年十月十二日
勅令第三百九十二號

朕明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(海軍大臣副署)
明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ヲ臺灣ニ施行ス

○昭和七年勅令第三百五十一號(橫須賀軍港ノ境域ニ關スル件)

昭和七年十一月十二日
勅令第三百五十一號

朕大正六年勅令第三十九號橫須賀軍港ノ境域ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)



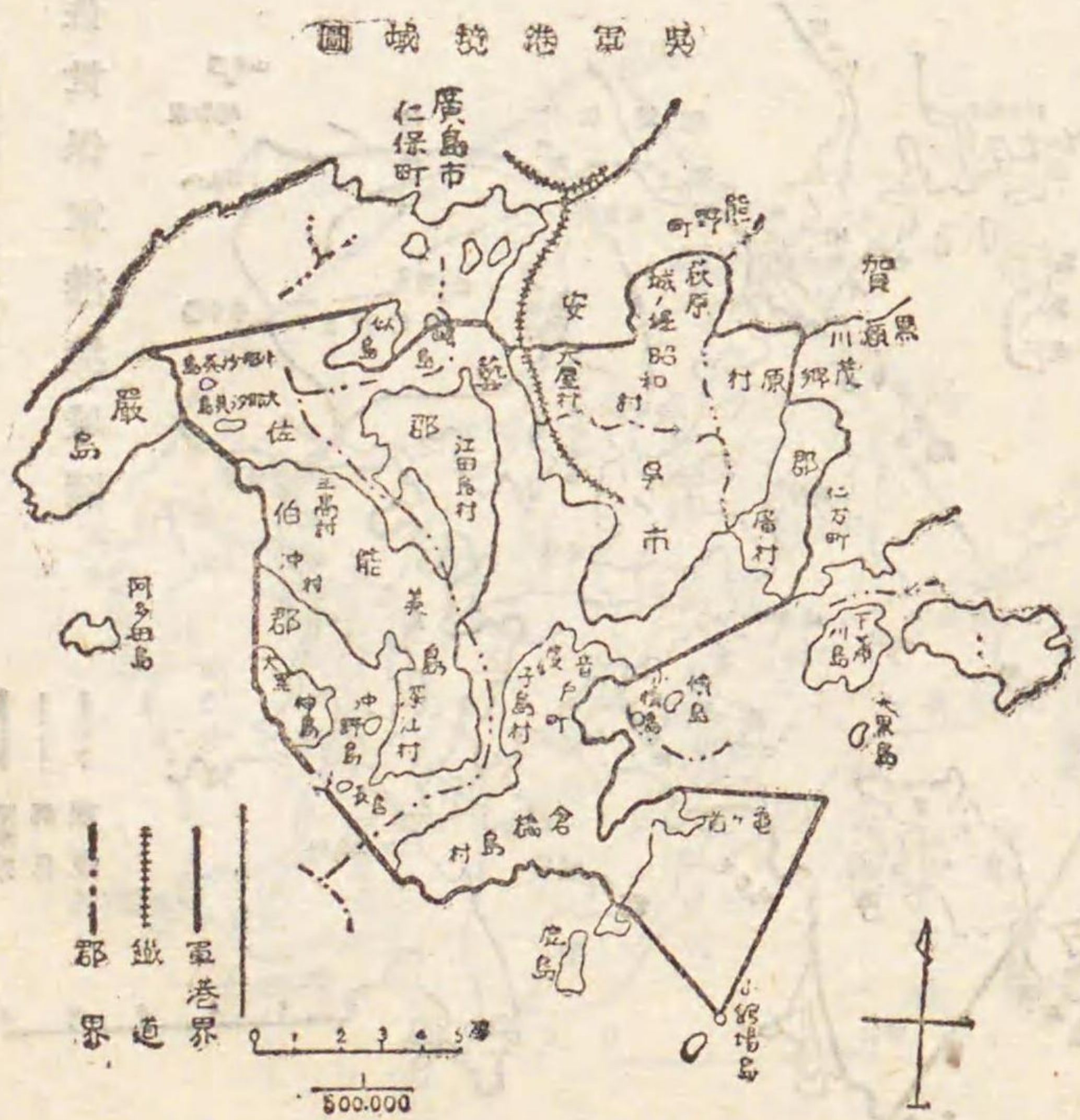
橫須賀軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以内ト定ム
左ニ掲グル箇所ハ橫須賀軍港ノ境域内トス
同縣久良岐郡金澤町野島ノ南部

○昭和八年勅令第三百一十一號(吳軍港ノ境域ニ關スル件)

昭和八年五月十七日
勅令第三百一十一號

朕昭和六年勅令第二百九十號吳軍港ノ境域ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

吳軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以内ト定ム
左ニ掲グル箇所ハ吳軍港ノ境域内トス
廣島縣吳市
同縣安藝郡昭和村、大屋村、江田島村、音戸町、渡子島村及倉橋島村
同縣同郡熊野町ノ内平谷、川角、吳地、出來庭、中溝並ニ萩原及城ノ堀地内分水嶺以南ノ地
同縣佐伯郡能美島諸町村、三高村ノ内大那沙美島及小那沙美島、沖村ノ内大黑神島並ニ深江村ノ内沖野島及長島
同縣賀茂郡廣村
同縣同郡郷原村ノ内黒瀬川以西ノ地



附則
本令ハ昭和八年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和五年勅令第七十七號

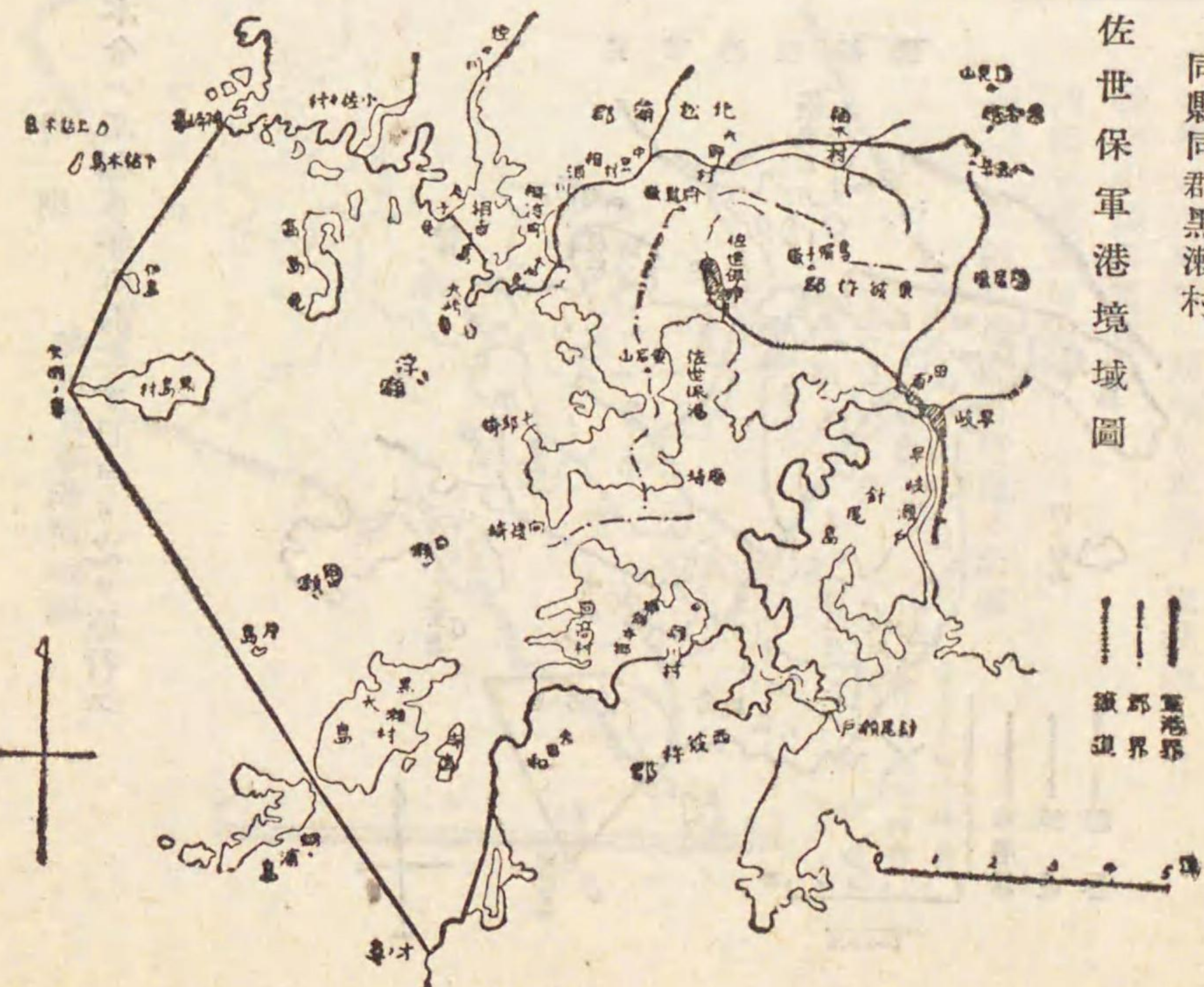
(佐世保軍港ノ境域ニ關スル件)

昭和五年九月十八日 勅令第七十七號

朕明治四十四年勅令第三號佐世保軍港ノ境域ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

佐世保軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム
左ニ掲グル箇所ハ佐世保軍港ノ境域內トス

- 長崎縣佐世保市
- 同縣北松浦郡黑島村
- 同縣同郡小佐々村ノ一部
- 同縣同郡相浦町ノ内大湯免及淺子免ノ一部、高島免並ニ相浦川下流川岸南東ノ地
- 同縣同郡中里村ノ内相浦川海軍水道鐵管橋ノ下流川岸東ノ地
- 同縣同郡柚木村ノ一部
- 同縣同郡大野村ノ一部
- 同縣西彼杵郡瀬川村ノ内横瀬本郷



○舞鶴軍港境域令

昭和十四年十一月一日 勅令第七百三十四號

朕舞鶴軍港境域令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

舞鶴軍港境域令

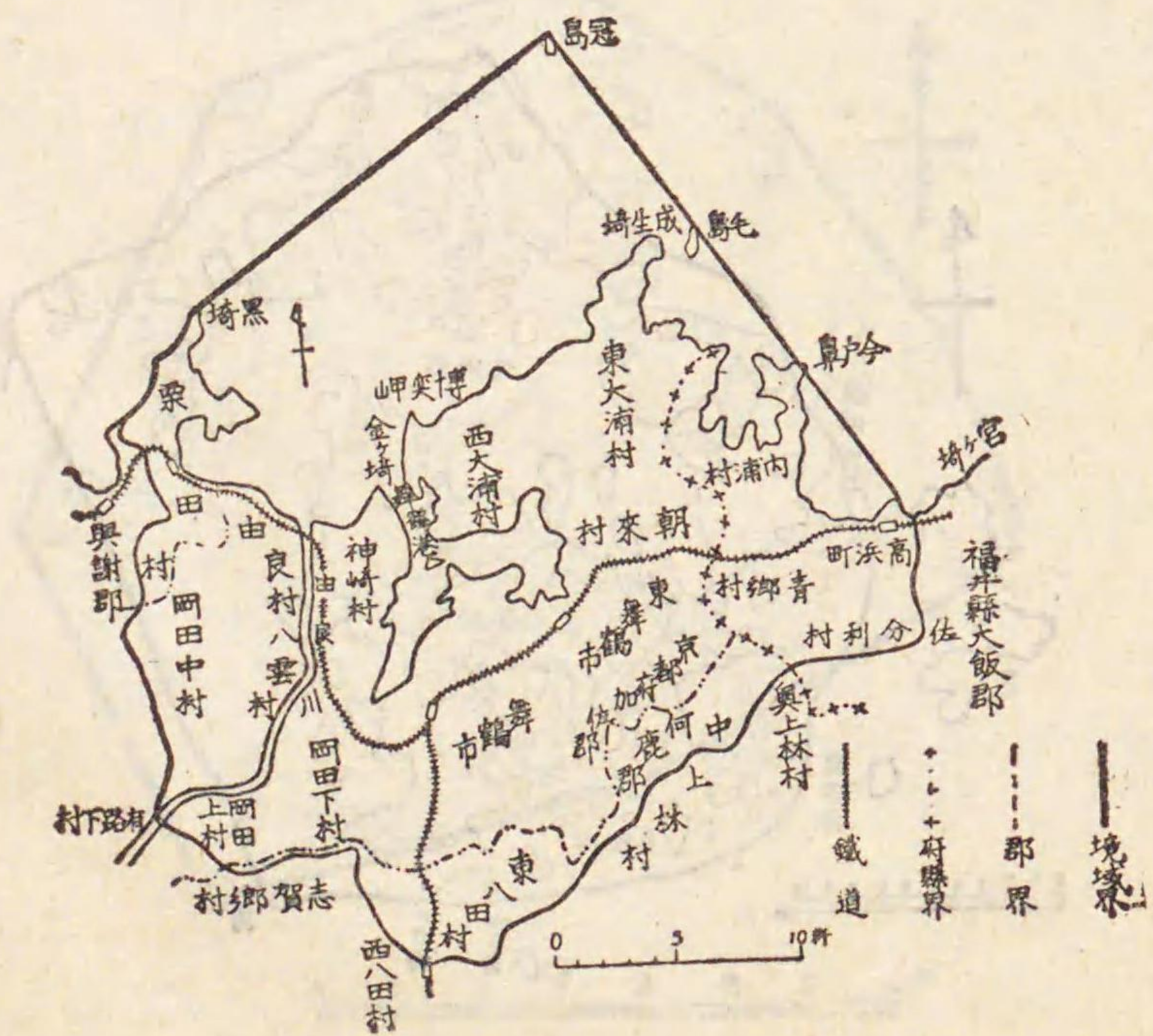
舞鶴軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム

左ニ掲グル箇所ハ舞鶴軍港ノ境域內トス

- 京都府舞鶴市、東舞鶴市
- 同府加佐郡西大浦村、東大浦村、朝來村、岡田下村、岡田中村、神崎村、八雲村、由良村
- 同府同郡岡田上村ノ一部
- 同府何鹿郡奥上林村、中上林村及東八田村ノ各一部
- 同府與謝郡栗田村ノ一部
- 福井縣大飯郡内浦村、青郷村
- 同縣同郡高濱町及佐分利村ノ各一部

附則

本令ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正十二年勅令第五十七號ハ之ヲ廢止ス



○大正十二年勅令第五十八號

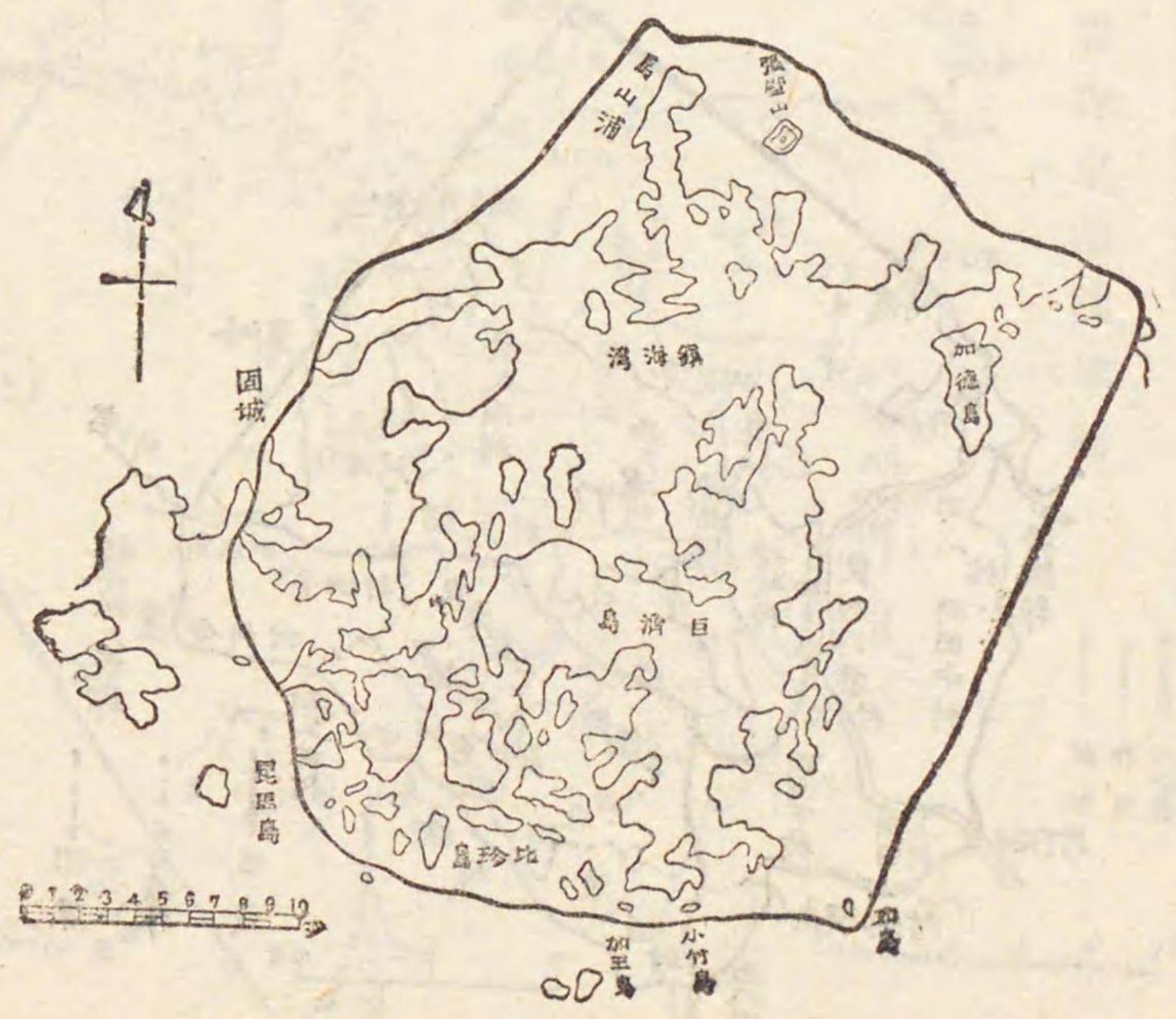
(朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)

大正十二年三月二十六日 勅令第五十八號

朕朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)
朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム

附則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正八年勅令第四號ハ之ヲ廢止ス



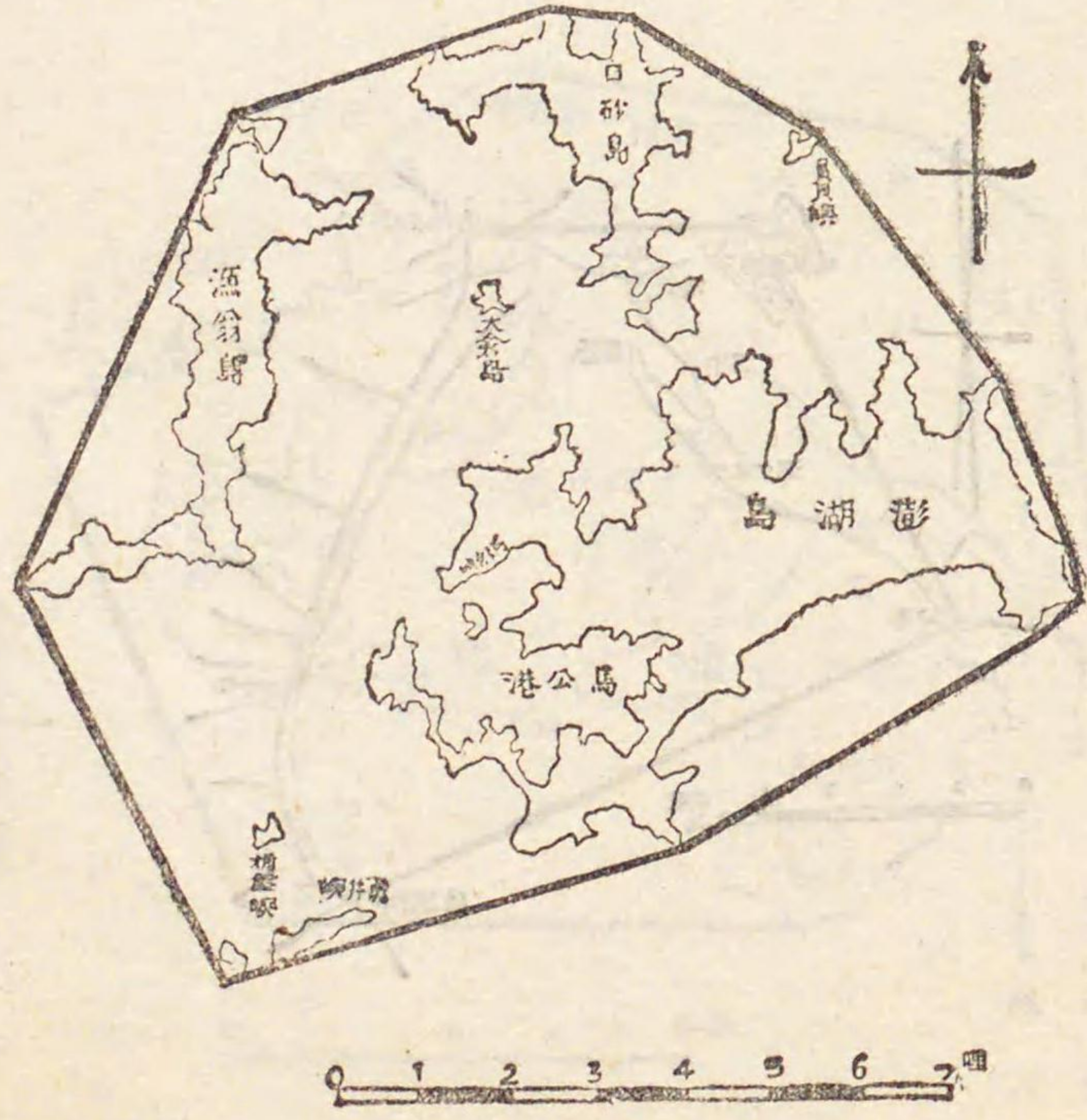
○明治三十四年勅令第四百十號

(澎湖島馬公ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)

明治三十四年七月三日 勅令第四百十號

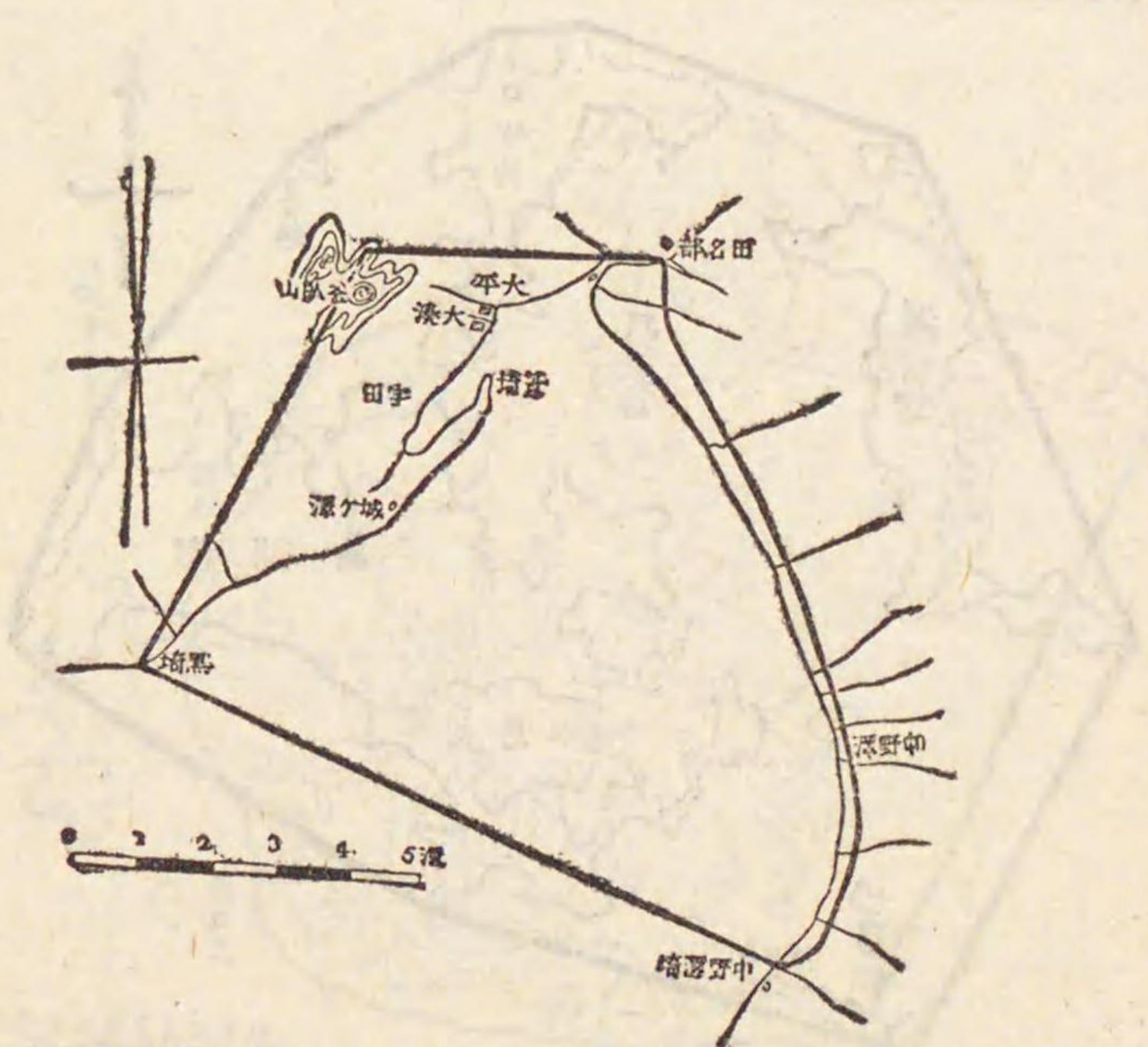
朕澎湖島馬公ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(海軍大臣副署)
澎湖島馬公ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム

- 左ニ掲グル諸島ハ馬公要港ノ境域内トス
- 澎湖島
- 漁翁島
- 白砂島
- 其ノ他前記三島ニ接近ノ諸小島



○明治三十八年勅令第二百六十三號 (陸奧國下北郡大湊ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)

朕陸奧國下北郡大湊ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(海軍大臣副署)
陸奧國下北郡大湊ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム



○昭和十三年勅令第三百二十三號 (山口縣德山ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)

昭和十三年三月二十五日
勅令第三百二十三號

朕山口縣德山ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

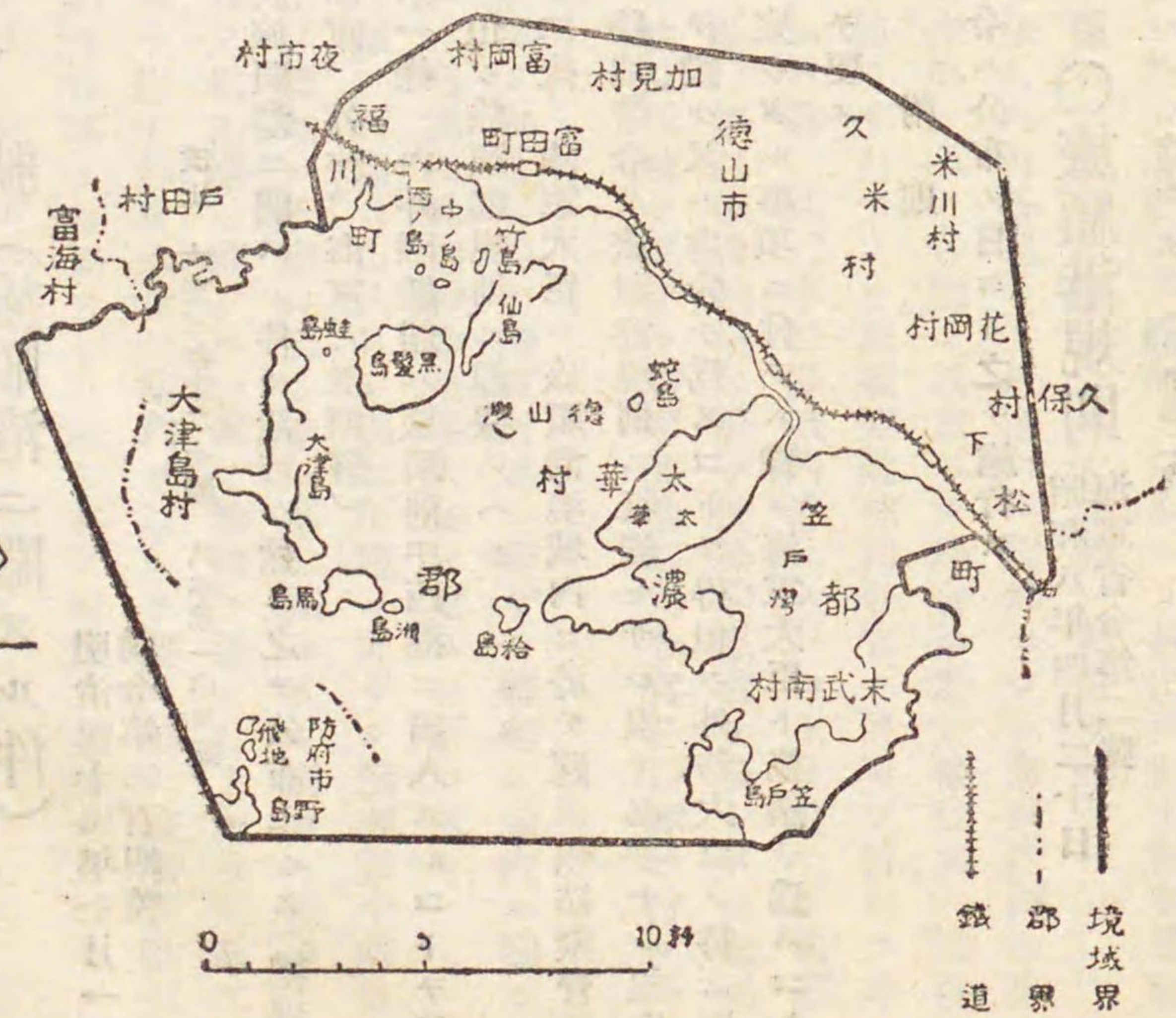
山口縣德山ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム

左ニ掲グル箇所ハ德山要港境域内トス

- 山口縣德山市、同縣都濃郡福川町、富岡村、加見村、米川村、久米村、花岡村及久保村ノ各一部
- 同縣都濃郡富田町、下松町、太華村、末武南村、大津島村
- 同縣防府市野島

附則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



○明治三十九年勅令第二百六十三號(旅順港規則制定及該規則違反者罰則ノ件)

明治三十九年九月二十八日 勅令第二百六十三號

改正 明治四三年第三二一號

昭和四年第一六九號、九年第三九〇號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ旅順港規則制定及該規則違反者罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(海軍大臣副署) 海軍大臣ハ内閣總理大臣ト協議シ旅順港ニ關シテ軍事上必要ナル規則ヲ設ケルコトヲ得 前項ノ旅順港規則ニ違反シタル者ハ十一日以上一年以下ノ懲役若ハ拘留又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○明治四十三年勅令第三百四號(旅順港ニ關スル件)

明治四十三年七月一日 勅令第三百四號

改正 大正三年第二七號、八年第一〇三號

朕旅順港ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍、外務、海軍大臣副署) 第一條 内外國艦船ハ旅順港中西港ニ出入スルコトヲ得但シ旅順港規則ニ遵據スヘシ 第二條 陸軍大臣ハ旅順港境域内ニ於テ關東州防禦營造物地帶令及旅順港規則ニ牴觸セサル限り必要ナル規定ヲ設ケ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得但シ外務大臣ノ特ニ指定シタル事項ニ付テハ豫メ海軍大臣ト協議ヲ爲スコトヲ要ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○旅順港規則 昭和八年四月二十日 海軍省令第二號

改正 昭和一〇年第二號

旅順港規則左ノ通改正ス

旅順港規則

第一條 旅順港ノ水域ハ之ヲ三區ニ分チ別圖點一線以内

ヲ第一區ト稱シ點二線以内ヲ第二區ト稱シ第一區及第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス西港ハ第三區トス

第二條 西港ニハ内外國艦船入港スルコトヲ得

西港以外ノ第三區ニ於テハ航路ノ妨ゲトナラザル限り艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃燒シ易キ物件ヲ積載スル艦船ハ旅順要港部港務部長特ニ其ノ錨地ヲ指示スルコトアルベシ

第三條 第一區及第二區ニハ海軍所屬ノ艦船ニ非ザル者

ハ旅順要港部司令官ノ許可ヲクシテ入ルコトヲ得ズ但シ第三區ヨリ第二區ヲ通過シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 旅順港ニ入ラントスル艦船ハ旅順港水域外約三

海里ノ所ヨリ投錨若ハ繫止スル地點迄萬國船舶信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スベシ但シ旅順要港部司令官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 旅順港水域及其ノ以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定アルモノノ外其ノ

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 旅順港ニ關スル件 旅順港規則

國籍ヲ表明スル旗章ヲ掲揚スベシ

第六條 旅順港水域及其ノ以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ日没ヨリ日出迄海上衝突豫防

ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲グベシ

第七條 内外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢疫法第

四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラザルモノハ旅順要港部司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ第一區、第二區及西港ニ入ルコトヲ許サズ又第一區、第二區及西港ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船

ハ檢疫信號ヲ掲ゲテ旅順要港部司令官ノ指揮ヲ待ツベシ

前項ノ場合ニ於テ海軍所屬ニ非ザル艦船ノ檢疫ニ關シテハ滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムル所ニ依ル

第八條 西港ニ出入スル海軍所屬ニ非ザル總噸數千噸以

上ノ艦船ハ入港ニ際シテハ第二區ニ入ル前ヨリ泊地ニ就ク迄出港ニ際シテハ其ノ泊地ヲ離ルルトキヨリ第二區ヲ出テ終ル迄水先案内ヲ取ルヲ要ス但シ旅順要港部司令官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ水先人ハ現役ニ非ザル海軍軍人タルコトヲ要

ス
水先人ニ關スル規程ハ大使ノ定ムル所ニ依ル

第九條 第一區、第二區及西港ニ於ケル艦船ノ進退ハ排水噸數十五噸以下ノ船舶ヲ除クノ外總テ旅順要港部港務部長ノ指示ニ從フベシ但シ天災其ノ他不時ノ事故ニ因リ其ノ指示ヲ待ツコト能ハザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項中西港ニ於ケル海軍所屬ニ非ザル艦船ノ進退ニ關シテハ大使ノ定ムル所ニ依ル

第十條 旅順要港部司令官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ錨地ノ變換其ノ他ノ處置ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 旅順要港部司令官ハ第一區ニ入り又ハ入ラムトスル艦船ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトヲ得

第十二條 總テ艦船ハ旅順要港部司令官ノ許可アルモノノ外火藥庫ヲ距ル二百三十七米以内ニ入ルコトヲ禁ズ汽鐘點火中ノ小蒸汽船其ノ他火氣ヲ有スル一切ノ船舶亦同シ

第十三條 旅順港境域内ニ於テハ禮砲、號砲及旅順要港部司令官ノ許可ヲ得タルモノノ外火器若ハ爆物ノ發射

第十六條

旅順要港部司令官ハ旅順港水域内ニ於ケル有害ナル難破物、委棄物其ノ他ノ物件ハ原因ノ如何ニ關セズ其ノ義務者ヲシテ之ヲ指定ノ期限内ニ除去セシムルコトヲ得其ノ義務者之ヲ除去セザルトキ若ハ指定ノ期限内ニ終了スル見込ナキトキハ旅順要港部司令官ハ之ヲ除去若ハ破壊シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ除去若ハ破壊セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得前項ノ義務者不明ナルトキハ旅順要港部司令官ハ之ヲ除去若ハ破壊スルコトヲ得

西港内ニ於ケル有害ナル難破物、委棄物其ノ他ノ物件ノ處分ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依ル

第十七條

旅順港境域内ノ山林原野ニ於テハ濫ニ焚火スルコトヲ得ズ

第十八條

旅順港境域内ニ於テ左ノ諸號ニ掲グル事項ノ新營若ハ變更ニ關シテハ旅順要港部司令官ハ大使ノ協議ヲ受クルモノトス
一 棧橋ノ架設、埠頭ノ築造
二 河床ノ變更、河川竝ニ海面ノ埋立及浚渫、海岸ノ掘鑿、海岸ニ於ケル石垣ノ築造
三 道路、運河、溝渠及隧道ノ開通、橋梁及鐵道ノ架設、

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 旅順港規則

又ハ發火ヲ禁ズ但シ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト百三十七米以内ニ於テハ禮砲、號砲ト雖モ特ニ旅順要港部司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ一切發射發火ヲ爲スコトヲ許サズ

前項ノ規定ハ海軍用地及水域外ニ於テ陸軍官憲ノ施行スル射擊演習等ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十四條 第一區及第二區ニ於テハ旅順要港部司令官ノ許可ヲ得ズシテ漁獵採藻ヲ爲シ又ハ漂流物若ハ沈沒物ヲ拾得スルコトヲ禁ズ

航路ノ妨害トナリ又ハ水中敷設物アル第三區内ノ水域ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

第十五條 第一區竝ニ第二區及其ノ海岸竝ニ之ニ注入スル水流ニハ旅順要港部司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ズ

旅順要港部司令官ハ必要アリト認ムルトキハ西港以外ノ第三區及其ノ海岸ニ物件ヲ委棄ヲ禁シ臨時委棄ノ場所ヲ指示スルコトヲ得艦船其ノ委棄スベキモノヲ自ら處分スルコト能ハザルトキハ海軍艦船ニ在リテハ旅順要港部港務部長ニ其ノ處分ヲ請求スベシ海軍所屬ニ非ザル艦船ニ在リテハ大使ノ定ムル所ニ依ル

水底電線ノ敷設

四 地盤ノ開鑿及埋築

五 森林ノ伐採

六 旅順港ノ水域内ニ發著スベキ海運ノ營業

七 漁業權ノ設定

八 浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置

九 第一區、第二區及西港ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル千三百六十四米以内ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築

第十九條

旅順要港部司令官ノ許可ヲ得ズシテ旅順港境域内ヲ航空シ又ハ同境域内水陸ノ形狀ヲ測量、攝影、模寫、錄取シ若ハ地理案内等ノ圖書ヲ發行スルコトヲ禁ズ但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル錘測ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條

前條ノ規定ハ海軍用地及水域外ニ於テ陸軍官憲ノ施行スルモノニ適用セズ

第二十一條

旅順要港部司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ旅順港境域内ニ於テ無線電信及無線電話ヲ發信スルコトヲ得ズ但シ艦船航行中ノ通信及遭難通信又ハ軍用通信ハ此ノ限ニ在ラズ

◎陸軍輸送港域軍事取締法

昭和八年三月二十九日
法律第二十九號

改正 昭和十五年第九一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宇品港域軍事取締法ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍大臣副署)

陸軍輸送港域軍事取締法

第一條 本法ニ於テ陸軍輸送港域トハ左ニ掲グル
區域ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

- 一 廣島縣廣島市、同縣安藝郡海田市町、矢野町、船越町、府中町、奥海田村、溫品村、戸坂村、畑賀村、中野村、坂村及中山村、同縣安佐郡祇園町、福木村、山本村及長束村、同縣佐伯郡廿日市町、嚴島町、五日市町、地御前村、原村、宮内村、井口村、石内村、河内村、八幡村、觀音村、平良村、大野村、玖嶋村及砂谷村並ニ其ノ附近ノ水面
- 二 佐賀縣東松浦郡切木村及入野村、同縣西松

浦郡伊萬里町、山代町、黒川村、波多津村、大坪村、大川内村、二里村及東山代村、長崎縣北松浦郡志佐町、今福町、星鹿村、調川村、福島村、鷹嶋村、上志佐村及御厨村並ニ其ノ附近ノ水面

第二條 陸軍輸送港域ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ第一區及第二區ニ分ツ

第三條 陸軍輸送港域第一區内ニ於テ左ノ各號ノ

- 一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 堤塘、棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、鐵道又ハ軌道ノ新設又ハ變更
- 二 水面ノ埋立又ハ干拓

第四條 陸軍輸送港域第一區内ニ於テ左ノ各號ノ

- 一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長(陸軍大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ指定スル陸軍運輸部ノ職員トス以下之ニ同ジ)ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズ

ト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

改築又ハ増築

二 前號ニ掲グル工作物以外ノ工作物ニシテ不燃質物ヲ材料トスルモノノ新築、改築又ハ増築

三 用水路、惡水路、溜池、貯水池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更

四 公園、廣場、運動場、競馬場又ハ飛行場ノ新設又ハ變更

五 土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積六 水深ノ變更ヲ生ズベキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

七 爆發物ノ使用又ハ爆發物若ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ運搬、積卸若ハ貯藏

八 水面ニ於ケル貯木九 浮標、立標其ノ他航路標識ノ新設又ハ變更

十 船舶ノ航行若ハ繫泊又ハ筏ノ運航若ハ繫留十一 漁獵又ハ採藻

第五 要塞地帶法及軍港要港規則關係 陸軍輸送港域軍事取締法

前項ノ不燃質物、爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 陸軍輸送港域第一區内ノ水陸ノ形狀又ハ軍事施設ノ狀況ヲ撮影、模寫、模造若ハ錄取シ又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 前三條ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ軍事上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 陸軍運輸部長ハ陸軍輸送港域内ニ於テ軍事施設ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認ムルトキハ其ノ者ニ對シ港域外ニ退去ヲ命ズルコトヲ得

陸軍運輸部長ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命ゼラレタル者ニ對シ陸軍輸送港

域内ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第八條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條乃至第六條及第十條ノ規定竝ニ之ニ關スル罰則ノ規定ヲ陸軍輸送港域

第二區ノ全部又ハ一部ニ適用スルコトヲ得

第九條 陸軍運輸部長ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ陸軍輸送港域内ニ在ル船舶ニ對シ錨地ノ變更又ハ退去ヲ命ズルコトヲ得

第十條 陸軍大臣ハ第三條若ハ第四條ノ規定又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
第十二條 陸軍大臣ハ陸軍輸送港域各區ノ區域ヲ標示スル爲必要ナル場所ニ標識ヲ設置スルコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ標識ヲ設置スル爲必要ナル土

ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第四條第一項第一號乃至第九號ノ規定ニ違反シタル者

三 第四條第一項第十號又ハ第十一號ノ規定ニ違反シタル者

四 第五條ノ規定ニ違反シタル者

五 第七條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

二 第四條第一項第一號乃至第九號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

三 第四條第一項第十號又ハ第十一號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

四 第五條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ

地ニ立入り實地調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ占有者ニ通知スベシ
第十三條 前條ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ハ陸軍大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願スルコトヲ得ズ

第十四條 本法ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ關シテハ之ヲ適用セズ
第十五條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第三條乃至第五條ニ掲グル行爲ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ニ在リテハ陸軍大臣ニ協議シ其ノ他ノ官廳ニ在リテハ各本條ノ規定ニ準ジ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ承認ヲ受クベシ

第十六條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下

違反シタル者

第十九條 陸軍輸送港域各區ノ區域ヲ標示スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十七條第一號若ハ第二號又ハ第十八條第一號若ハ第二號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條 第十七條第一號及第二號竝ニ第十八條第一號及第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處

スルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和八年勅令第九號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行）
本法施行ノ際現ニ作業中ノモノニハ第三條第一號乃至第三號及第四條第一項第一號ノ規定ヲ適用セズ

附則（昭和十五年法律第九十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十五年勅令第三百九十五號ヲ以テ昭和十五年六月十日ヨリ施行）
本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 長サ三〇メートル以下ニシテ容易ニ撤去シ得ベキ棧橋、一時的使用ノ目的ヲ以テ敷設スル軌道及工場倉庫等内ニ敷設スル鐵道ノ新設又ハ變更
- 二 有效幅員二・七三メートル以下ノ道路及此等ノ道路ニ接続スル橋梁ノ新設又ハ變更
- 三 不燃質物ヲ材料トセザル建築面積三三〇平方メートル以下ノ納屋、炭燒小屋、伐木小屋、造林小屋、畜舎等ノ新築、改築又ハ増築
- 四 宅地内（工場内ヲ除ク以下之ニ同ジ）ニ於ケル不燃質物ヲ材料トスル工作物（家屋、工場、倉庫其ノ他之ニ類スル工作物ヲ除ク）ノ新築、改築若ハ増築又ハ工場内ニ於ケル軌道ノ敷設若ハ變更
- 五 社寺境内地又ハ墓地ニ於ケル鳥居、燈籠、墓碑等ノ新築、改築又ハ増築
- 六 宅地内ニ於ケル水路、悪水路、溜池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更
- 七 耕作ノ爲ニスル土石ノ採掘若ハ堆積又ハ井

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係 陸軍輸送港域軍事取締法施行規則

◎陸軍輸送港域軍事取締法

施行規則

昭和十五年六月三日
陸軍省令第十八號

宇品港域軍事取締法施行規則左ノ通改正ス

第一條 陸軍輸送港域ハ之ヲ別圖實線以內トシ同

港域第一區ヲ點線以內、同港域第二區ヲ點線以

外實線以內トス

前項ノ各區域ハ現場ニ標識ヲ設ケ之ヲ標示スル

ノ外關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ圖面ヲ當該區

域ヲ管轄スル市役所、町村役場、警察署又ハ憲

兵隊ニ備付ク

第二條 陸軍輸送港域軍事取締法第四條第二項ノ

規定ニ依ル不燃質物、爆發物及容易ニ燃燒スベ

キ物件ノ種類ハ別表第一ニ依ル

第三條 左ニ掲グル行爲ニ付テハ陸軍大臣又ハ陸

軍運輸部長（伊萬里港域ニ關スルモノニ付テハ

陸軍運輸部長ノ指名スル陸軍運輸部ノ職員トス

以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

戸ノ掘鑿

八 地貌ノ變化ヲ來サザル土石ノ採掘又ハ堆積

九 道路ノ補修

十 地下埋設物ノ新設、増設又ハ改修

十一 宅地内ニ於ケル土石ノ採掘若ハ堆積又ハ

井戸ノ掘鑿

十二 非常災害防止ノ爲必要ナル應急處置トシ

テノ土石ノ採掘又ハ堆積

十三 不可抗力ニ因リ形狀ヲ變更シタル土地又

ハ物件ヲ原狀ニ復スル作業

十四 鑛業法第十條第三項（砂鑛法第二十三條

ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル許

可ヲ受ケタル場合ニ於ケル錐鑛、坑口ノ開穿、

鑛物ノ採掘又ハ砂鑛ノ採取、鑛物又ハ土石ノ

堆積其ノ他鑛業ノ作業

十五 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ運

搬、積卸又ハ貯藏ニ關スル行爲中左ニ掲グル

モノ

イ 鐵道ニ依ル運搬又ハ其ノ積卸

- ロ 船舶ノ常用ヲ超過セザル數量ノ積卸
 - ハ 貯藏又ハ鐵道ニ依ルモノ以外ノ運搬若ハ積卸ニシテ陸軍運輸部長ニ於テ指定スルモノ
 - 十六 狩獵ノ爲ニスル銃器ノ使用
 - 十七 河川又ハ私有水面ニ於ケル貯木
 - 十八 貯木設備ニ於ケル貯木
 - 十九 船舶ヲ使用セザル漁獵又ハ採藻
 - 二十 稅關官吏ノ檢査ヲ受クル爲別表第二ニ於テ船舶ノ航行ニ付許可ヲ要セズト定メタル字品島附近第一區ヲ經由シ稅關棧橋ニ發著スル船舶ノ航行又ハ同區域ニ出入スル爲運行上一時必要ナル船舶ノ航行
- 第四條 左ニ掲グル行爲ハ別表第二ニ掲グル區域内ニ限り陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ
- 一 陸軍輸送港域軍事取締法第三條第二號ニ規定スル行爲中私有水面ノ埋立又ハ干拓
 - 二 同法第四條第一項第一號ニ規定スル行爲中

- 不燃質物ヲ材料トセザル建築面積三三〇平方メートル以下ノ住家及之ニ附屬スル倉庫(建築面積三三〇平方メートル以下ノモノ)ノ新築、改築又ハ増築但シ現ニ存スル建築面積ヲ合算シタル建築面積三三〇平方メートルヲ超過スル場合ヲ除ク
 - 三 同法第四條第一項第五號ニ規定スル行爲中土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘
 - 四 同法第四條第一項第十號ニ規定スル行爲中船舶ノ航行若ハ繫泊又ハ筏ノ運航若ハ繫留
 - 五 同法第四條第一項第十一號ニ規定スル行爲中漁獵又ハ採藻
- 第五條 陸軍運輸部長本令ニ依リ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ陸軍運輸部(伊萬里港域ニ在ル陸軍運輸部ノ事務所) 揭示場ニ之ヲ揭示ス
- 第六條 陸軍輸送港域軍事取締法第三條各號ニ規定スル行爲ニ關スル許可願書(四通)ニハ工事ノ種類、其ノ目的、位置、設計及竣功時期ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長(分遣

隊長ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ警察署長ヲ經テ之ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ

- 第七條 陸軍輸送港域軍事取締法第四條第一項各號及第五條ニ規定スル行爲ニ關スル許可願書(三通)ニハ左ニ掲グル事項ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ之ヲ陸軍運輸部長ニ提出スベシ
- 一 陸軍輸送港域軍事取締法第四條第一項第一號乃至第四號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、位置、設計及竣功時期
 - 二 同法第四條第一項第五號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法及期間
 - 三 同法第四條第一項第六號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、時期、委棄スベキ物件又ハ採取スベキ土石ノ種類及數量
 - 四 同法第四條第一項第七號ニ規定スル行爲中
- 使用ニ付テハ其ノ目的、場所、方法、時期、運搬ニ付テハ其ノ目的、通路、方法、時期、運搬スベキ物件ノ種類及數量、積卸ニ付テハ

- 其ノ目的、場所、方法、時期、積卸スベキ物件ノ種類及數量、貯藏ニ付テハ其ノ目的、位置、期間、貯藏ノ設備、貯藏スベキ物件ノ種類及數量
- 五 同法第四條第一項第八號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、種類、數量、期間
- 六 同法第四條第一項第九號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、位置、設計、期間
- 七 同法第四條第一項第十號ニ規定スル行爲中船舶ノ航行又ハ繫泊ニ付テハ其ノ目的、航路又ハ位置、時期、船舶ノ長ノ住所、氏名、船舶ノ種類、名稱、總噸數、信號符字及所有者ノ住所、氏名又ハ名稱、筏ノ運航又ハ繫留ニ付テハ其ノ目的、航路、位置、時期、期間、數量、運航者ノ住所、氏名
- 八 同法第四條第一項第十一號ニ規定スル行爲ニ付テハ區域、方法及日時、漁業權又ハ入漁權ニ基ク行爲ニ付テハ其ノ權利ヲ證スル事項

九 同法第五條ニ規定スル行爲中撮影、模寫、模造又ハ錄取ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、使用器具ノ種類、日時及行爲ノ場所、複寫又ハ複製ニ付テハ其ノ目的、方法、行爲ノ場所、複寫又ハ複製スベキモノノ種類及數量

左ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經ルコトヲ要セズ

一 船舟ノ航行又ハ繫泊ニ關スル許可ヲ出願スルトキ

二 漁獵又ハ採藻ニ關シ水産會會員又ハ漁業組合若ハ水産組合ノ組合員タル者當該水産會又ハ組合ヲ經テ許可ヲ出願スルトキ

三 陸軍運輸部長ニ於テ已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第八條 縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體及法人ノ許可願書ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第九條 前三條ノ規定ニ依リ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ニ許可願書ヲ提出スル場合ニ於テ別ニ法

シ陸軍運輸部長ニ提出スベシ但シ行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ハ許可書一通ハ之ヲ保管スベシ

陸軍運輸部長前項ノ規定ニ依リ第六條ノ規定又ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ許可願書ニ通テ陸軍大臣ニ提出スベシ第十條第一項但書ノ規定ニ依リ承認申請書ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十三條 陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長許可又ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可願書一通ヲ添附シタル許可證又ハ承認申請書一通ヲ添附シタル承認證ヲ交付ス

第十四條 前條ノ許可證又ハ承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ陸軍運輸部職員、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十五條 許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ陸軍運輸部長ニ遲滞ナク届出デ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ

令ノ定ムル所ニ依リ陸軍以外ノ主務官廳ノ許可ヲ要スル行爲ニ付テハ先ヅ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類又ハ許可書ノ寫ヲ許可願書ニ添附スベシ

第十條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ陸軍輸送港域軍事取締法第三條乃至第五條ニ規定スル行爲ノ承認ヲ受ケントスルトキハ第六條及第七條ノ規定ニ準ジ承認申請書(三通)ヲ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ニ提出スベシ但シ陸軍大臣ニ提出スルモノニ在リテハ陸軍運輸部長ヲ經由スベシ前項ノ場合ニ於テハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經由スルコトヲ要セズ

第十一條 第六條乃至前條ノ規定ハ許可又ハ承認ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 憲兵分隊長又ハ警察署長第六條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定又ハ第七條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附

再下付ヲ受ケザルトキト雖モ最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第十六條 許可證ヲ所持スベキ者第十四條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第一條 本令ハ昭和十五年法律第九十一號字品港域軍事取締法中改正法律(以下改正法律ト稱ス)施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 改正法律中ノ改正規定ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル左ニ掲グル事項ニシテ第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズト定ムル以外ノモノト雖モ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可又ハ承認ヲ要セズ

一 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第三條第一號ニ規定スル堤塘ノ新設又ハ變更但シ本令施行後六月以内ニ完了スルモノニ限ル
二 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條

第一項第一號ニ規定スル不燃質物ヲ材料トセザル家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

三 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第二號ニ規定スル不燃質物ヲ材料トスル工作物ノ新築、改築又ハ増築但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

四 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第三號ニ規定スル水路、惡水路、溜池、貯水池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更

五 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第四號ニ規定スル公園、廣場、運動場、競馬場又ハ飛行場ノ新設又ハ變更

六 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第五號ニ規定スル土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ堆積但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

七 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條

ニ掲グルモノヲ除ク)但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

第四條 前二條ニ規定スル作業ヲ爲ス者ハ其ノ作業ニ關シ本令施行ノ日ヨリ二十日以内ニ本令ノ規定ニ準ジ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ陸軍運輸部長ニ届出ヅベシ

第五條 本令附則第二條及第三條ニ該當セザル作業竝ニ本令第一條第一項ノ規定ニ依リ新ニ第一區ニ指定セラレタル區域ニ於ケル陸軍輸送港域軍事取締法第四條第一項第五號乃至第九號及第十一號ニ掲グル行爲ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ限り許可ヲ受クルコトヲ要セズ

別表第一

一 不燃質物

煉瓦、石、土、金屬、コンクリート及之ニ準ズベキモノ

二 爆發物

火藥(有煙火藥、無煙火藥ノ類)
雷酸鹽(雷汞ノ類)

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係

陸軍輸送港域軍事取締法施行規則

第一項第六號ニ規定スル水底ニ於ケル土石ノ採取但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

八 本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第九號ニ規定スル浮標、立標其ノ他航路標識ノ新設又ハ變更

第三條 本令第一條第一項ノ規定ニ依リ新ニ第一區ニ指定セラレタル區域ニ於ケル左ニ掲グル事項ニシテ第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズト定ムル以外ノモノト雖モ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可又ハ承認ヲ要セズ

一 本令施行ノ際現ニ作業中ノ陸軍輸送港域軍事取締法第三條第一號ニ掲グルモノ(前條第一號ニ規定スルモノヲ除ク)但シ本令施行後六月以内ニ完了スルモノニ限ル

二 本令施行ノ際現ニ作業中ノ同法第三條第二號ニ掲グルモノ

三 本令施行ノ際現ニ作業中ノ同法第四條第一項第一號ニ掲グルモノ(前條第二號及第三號

起爆ノ用途ニ供スル窒化物(窒化鉛ノ類)其ノ他ノ起爆劑

ニトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥(各種ダイナマイト類)

綿藥、ニトロセルローズ
鹽素酸鹽類(鹽素酸ソーダ、鹽素酸カリノ類)

及之ヲ主トスル混和物
過鹽素酸鹽類(過鹽素酸カリ、過鹽素酸アンモンノ類)及之ヲ主トスル混和物

硝酸鹽類(硝石、智利硝石、硝酸アンモンノ類)及之ヲ主トスル混和物

芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ(ニトロベンゾール、ピクリン酸ノ類)

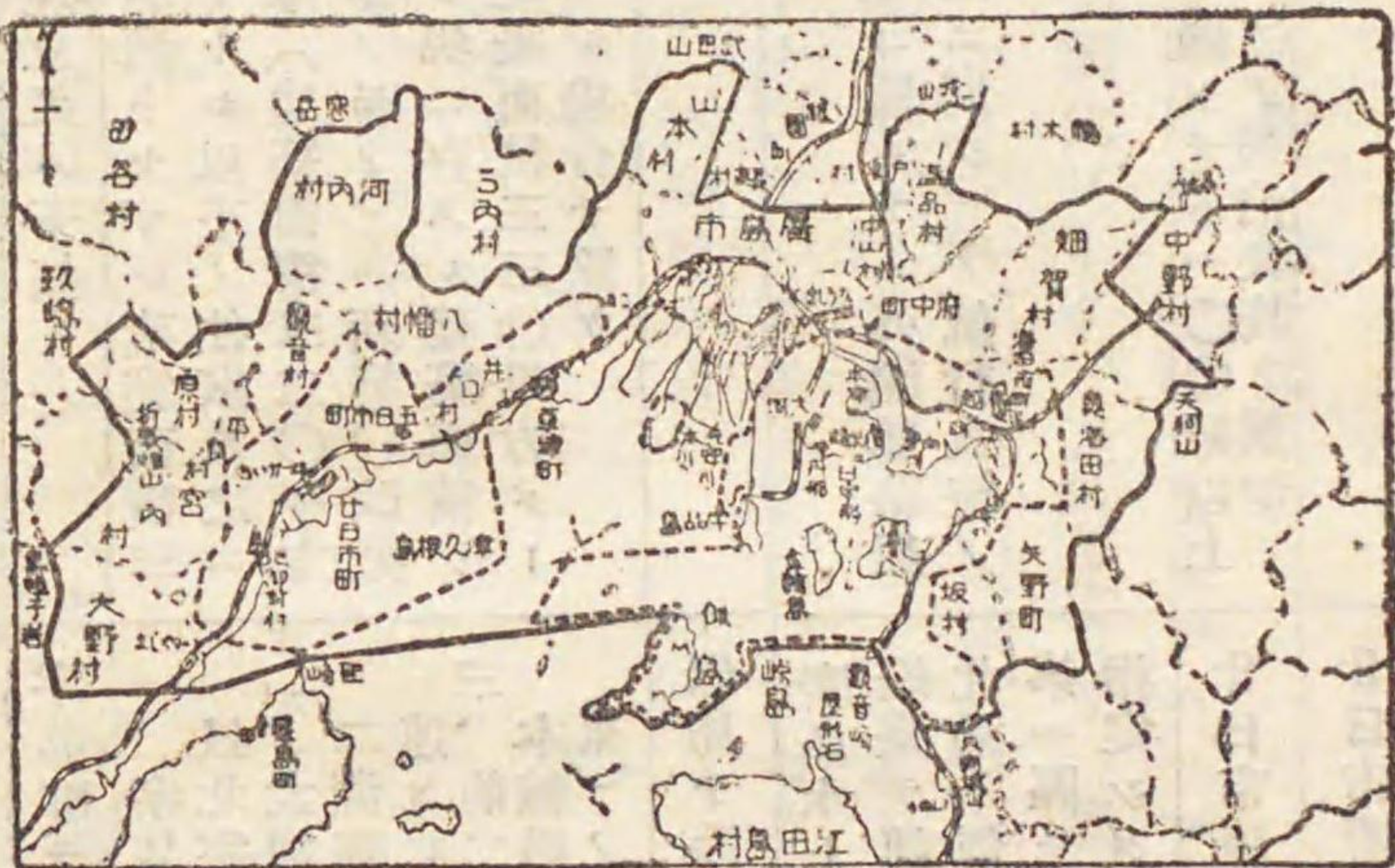
實包、空包、藥筒ノ類
火藥又ハ爆發藥ヲ裝填シタル彈丸、信管、雷管ノ類

煙火其ノ他火藥又ハ爆發藥ヲ使用シタル火工品

(玩具用普通火工品ヲ除ク)
壓縮ガス、液化ガスノ類

陸軍運輸港城

廣島港城要圖



伊萬里港城要圖



○昭和十二年陸軍省令第二十
九號(宇品港域軍事取締法
第八條ニ關スル件)

昭和十二年八月二日
陸軍省令第二十九號

宇品港域軍事取締法第八條ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 宇品港域軍事取締法第三條第一號乃至第三號、
第四條乃至第六條及第十條ノ規定竝ニ之ニ關スル罰則
ノ規定ハ之ヲ左ニ掲グル宇品港域第二區内ノ區域ニ適
用ス

一 宇品島南端ト嚴島聖崎北端ヲ連ナル線以東ノ第二
區海面

二 海田市町ヨリ矢野町ニ至ル三吳線以西(線路ヲ含
ム)及海田市町ヨリ船越町ニ至ル山陽本線以南(線
路ヲ含ム)ノ第二區

廣島築港埋立地域

前項ノ規定ニ拘ラズ宇品港域軍事取締法第三條第二號
ニ規定スル行爲中私有水面ノ埋立又ハ干拓ハ陸軍大臣
ノ、同法第四條第五號ニ規定スル行爲中船舶ノ航行ハ

第五 要塞地帯法及軍港要港規則關係 宇品港域軍事取締法第八條ニ關スル件

二八五

陸軍運輸部長ノ指定シタル區域及期間ヲ除クノ外宇品
港挂燈浮標ト江田島屋形石燈臺ヲ連ナル線以西ノ宇品
港域第二區ノ海面ニ於テハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受ク
ルコトヲ要セズ

第二條 宇品港域軍事取締法第三條第四號及第六條竝ニ
之ニ關スル罰則ノ規定ハ之ヲ宇品港域第二區ノ區域ノ
全部ニ適用ス

第三條 宇品港域第二區ノ境界線ヨリ外方十キロメートル
以内ノ區域ニ於テ航空ヲ爲サントスル者ハ陸軍大臣
ノ許可ヲ受クベシ

第四條 第一條及第二條ノ規定ノ施行竝ニ前條ノ航空ノ
許可ニ關シテハ宇品港域軍事取締法施行規則ヲ準用
ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六 其ノ他

○第六編 二國大分門

二八五

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

○第六編 二國大分門
大分門(十品)の整理

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

○第六編 二國大分門
大分門(十品)の整理

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

一、國境の劃定
二、領土の擴張
三、領土の割讓
四、領土の租借
五、領土の保護

◎治安維持法

昭和十六年三月十日
法律第五十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安維持法改正法律ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、拓務、
陸軍、海軍、司法大臣副署）

治安維持法

第一章 罪

第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ
組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル
任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以
上ノ懲役ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者
又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル
者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二條 前條ノ結社ヲ支援スルコトヲ目的トシテ
結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導
者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ
五年以上ノ懲役ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シ
タル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲
シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條 第一條ノ結社ノ組織ヲ準備スルコトヲ目
的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其
ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ
無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處シ情ヲ知リテ結社
ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル
行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處
ス

第四條 前三條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者
又ハ集團ヲ指導シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ
懲役ニ處シ前三條ノ目的ヲ以テ集團ニ參加シタ
ル者又ハ集團ニ關シ前三條ノ目的遂行ノ爲ニス
ル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處
ス

第五條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的
タル事項ノ實行ニ關シ協議若ハ煽動ヲ爲シ又ハ
其ノ目的タル事項ヲ宣傳シ其ノ他其ノ目的遂行
ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以
下ノ懲役ニ處ス

第六條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ騷擾、暴

行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第七條 國體ヲ否定シ又ハ神宮若ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項ヲ流布スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期又ハ四年以上ノ懲役ニ處シテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八條 前條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者又ハ集團ヲ指導シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シ前條ノ目的ヲ以テ集團ニ參加シタル者又ハ集團ニ關シ前條ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九條 前八條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約

第十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除ス

第十六條 本章ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第二章 刑事手續

第十七條 本章ノ規定ハ第一章ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付之ヲ適用ス

第十八條 檢事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲモ記載スベシ

召喚狀ノ送達ニ關スル裁判所書記及執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察官吏之ヲ行フコトヲ得

第十九條 被疑者正當ノ事由ナクシテ前條ノ規定ニ依ル召喚ニ應ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ檢事ニ囑託シ

第六 其ノ他 治安維持法

二八九

束ヲ爲シタル者亦同シ

第十條 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者若ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十一條 前條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十二條 第十條ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十三條 前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

第十四條 第一條乃至第四條、第七條、第八條及

若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル勾引狀ニ付之ヲ準用ス

第二十條 勾引シタル被疑者ハ指定セラレタル場所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ檢事又ハ司法警察官之ヲ訊問スベシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セザルトキハ檢事ハ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十一條 刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾留シ又ハ其ノ勾留ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第十八條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル勾留狀ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スルコトヲ得

第二十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アルトキハ地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事ハ檢事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更

新スルコトヲ得但シ通ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十四條 勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾留ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十五條 檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

刑事訴訟法第百十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハ檢事ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スルコトヲ得

第二十六條 檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限り證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

司法警察官檢事ノ命令ニ因リ被疑者又ハ證人ヲ訊問シタルトキハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ訊問シタル旨ヲ訊問調書ニ

第二十九條 辯護人ハ司法大臣ノ豫メ指定シタル

辯護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ刑事訴訟法

第四十條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第三十二條 被告事件公判ニ付セラレタル場合ニ於テ檢事必要アリト認ムルトキハ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第一回公判期日ノ指定アリタル後ハ此ノ限ニ在ラズ

第六 其ノ他 治安維持法

記載スベシ

第十八條第二項及第三項ノ規定ハ證人訊問ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 檢事ハ公訴提起前ニ限り押收、搜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限り鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ押收、搜索又ハ檢證ノ調書及鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問調書ニ付之ヲ準用ス

第十八條第二項及第三項ノ規定ハ鑑定、通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 刑事訴訟法中被告人ノ召喚、勾引及勾留、被告人及證人ノ訊問、押收、搜索、檢證鑑定、通譯並ニ翻譯ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被疑事件ニ付之ヲ準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ請求ハ事件ノ繫屬スル裁判所及移轉先裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ之ヲ爲スベシ

第一項ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スベシ

第三十三條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スル第一審ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲スベシ

第三十四條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所同章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破

毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ
第三十五條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第三十六條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス
第三十七條 本章ノ規定ハ第二十二條、第二十三條、第二十九條、第三十條第一項、第三十二條、第三十三條及第三十四條ノ規定ヲ除クノ外軍法會議ノ刑事手續ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第八十七條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百十三條又ハ海軍軍法會議法第四百十三條、刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十五條第二項中刑事訴訟法第一百九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス
第三十八條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアル

ルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス
第三章 豫防拘禁
第三十九條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者其ノ執行ヲ終リ釋放セラルベキ場合ニ於テ釋放後ニ於テ更ニ同章ニ掲グル罪ヲ犯スノ虞アルコト顯著ナルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ本人ヲ豫防拘禁ニ付スル旨ヲ命ズルコトヲ得
第一章ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リタル者又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者思想犯保護觀察法ニ依リ保護觀察ニ付セラレ居ル場合ニ於テ保護觀察ニ依ルモ同章ニ掲グル罪ヲ犯スノ危險ヲ防止スルコト困難ニシテ更ニ之ヲ犯スノ虞アルコト顯著ナルトキ亦前項ニ

同シ

第四十條 豫防拘禁ノ請求ハ本人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ之ヲ爲スベシ
前項ノ請求ハ保護觀察ニ付セラレ居ル者ニ係ルトキハ其ノ保護觀察ヲ爲ス保護觀察所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
豫防拘禁ノ請求ヲ爲スニハ豫メ豫防拘禁委員會ノ意見ヲ求ムルコトヲ要ス
豫防拘禁委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十一條 檢事ハ豫防拘禁ノ請求ヲ爲スニ付テハ必要ナル取調ヲ爲シ又ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得
前項ノ取調ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ司法警察官吏ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得
第四十二條 檢事ハ本人定リタル住居ヲ有セザル場合又ハ逃亡シ若ハ逃亡スル虞アル場合ニ於テ

豫防拘禁ノ請求ヲ爲スニ付必要アルトキハ本人ヲ豫防拘禁所ニ假ニ收容スルコトヲ得但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ監獄ニ假ニ收容スルコトヲ妨ゲズ
前項ノ假收容ハ本人ノ陳述ヲ聽キタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本人陳述ヲ肯ゼズ又ハ逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第四十三條 前條ノ假收容ノ期間ハ十日トス其ノ期間内ニ豫防拘禁ノ請求ヲ爲サザルトキハ速ニ本人ヲ釋放スベシ
第四十四條 豫防拘禁ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ本人ノ陳述ヲ聽キ決定ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ニ出頭ヲ命ズルコトヲ得
本人陳述ヲ肯ゼズ又ハ逃亡シタルトキハ陳述ヲ聽カズンテ決定ヲ爲スコトヲ得
刑ノ執行終了前豫防拘禁ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ刑ノ執行終了後ト雖モ豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 裁判所ハ事實ノ取調ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ參考人ニ出頭ヲ命ジ事實ノ陳述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得
裁判所ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條 檢事ハ裁判所ガ本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ又ハ參考人ヲシテ事實ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立會ヒ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第四十七條 本人ノ屬スル家ノ戶主、配偶者又ハ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ輔佐人ト爲ルコトヲ得
輔佐人ハ裁判所ガ本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ若ハ參考人ヲシテ事實ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立會ヒ意見ヲ開陳シ又ハ參考ト爲ルベキ資料ヲ提出スルコトヲ得

第四十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ヲ勾引スルコトヲ得
一 本人定リタル住居ヲ有セザルトキ

テハ檢事ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定ニ對シテハ本人及輔佐人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法中決定ニ關スル規定ハ第四十四條ノ決定ニ、即時抗告ニ關スル規定ハ前條ノ即時抗告ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 豫防拘禁ニ付セラレタル者ハ豫防拘禁所ニ之ヲ收容シ改悛セシムル爲必要ナル處置ヲ爲スベシ

豫防拘禁所ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五十四條 豫防拘禁ニ付セラレタル者ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ信書其ノ他ノ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得

豫防拘禁ニ付セラレタル者ニ對シテハ信書其ノ他ノ物ノ檢閲、差押若ハ沒取ヲ爲シ又ハ保安若ハ懲戒ノ爲必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得假ニ收容セラレタル者及本章ノ規定ニ依リ勾引狀ノ執行ヲ受ケ留置セラレタル者ニ付亦同ジ

二 本人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ
三 本人正當ノ理由ナクシテ第四十四條第一項ノ出頭命令ニ應ゼザルトキ

第四十九條 前條第一號又ハ第二號ニ規定スル事由アルトキハ裁判所ハ本人ヲ豫防拘禁所ニ假ニ收容スルコトヲ得但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ監獄ニ假ニ收容スルコトヲ妨グズ
本人監獄ニ在ルトキハ前項ノ事由ナシト雖モ之ヲ假ニ收容スルコトヲ得

第四十二條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
第五十條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ハ第四十八條ノ勾引ニ、勾留ニ關スル規定ハ第四十二條及前條ノ假收容ニ付之ヲ準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十一條 豫防拘禁ニ付セザル旨ノ決定ニ對シテハ檢事ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
豫防拘禁ノ期間ハ二年トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得
豫防拘禁ノ期間滿了前更新ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ期間滿了後ト雖モ更新ノ決定ヲ爲スコトヲ得
更新ノ決定ハ豫防拘禁ノ期間滿了後確定シタルトキト雖モ之ヲ期間滿了ノ時確定シタルモノト看做ス

第四十條、第四十一條及第四十四條乃至第五十二條ノ規定ハ更新ノ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ第四十九條第二項中監獄トアルハ豫防拘禁所トス

第五十六條 豫防拘禁ノ期間ハ決定確定ノ日ヨリ起算ス
拘禁セラレザル日數又ハ刑ノ執行ノ爲拘禁セラレタル日數ハ決定確定後ト雖モ前項ノ期間ニ算入セズ

第五十七條 決定確定ノ際本人受刑者ナルトキハ

豫防拘禁ハ刑ノ執行終了後之ヲ執行ス
 監獄ニ在ル本人ニ對シ豫防拘禁ヲ執行セントス
 ル場合ニ於テ移送ノ準備其ノ他ノ事由ノ爲特ニ
 必要アルトキハ一時拘禁ヲ繼續スルコトヲ得
 豫防拘禁ノ執行ハ本人ニ對スル犯罪ノ捜査其ノ
 他ノ事由ノ爲特ニ必要アルトキハ決定ヲ爲シタ
 ル裁判所ノ檢事又ハ本人ノ現住地ヲ管轄スル地
 方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ停止スルコト
 ヲ得

刑事訴訟法第五百三十四條乃至第五百三十六條
 及第五百四十四條乃至第五百五十二條ノ規定ハ
 豫防拘禁ノ執行ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 豫防拘禁ニ付セラレタル者收容後其
 ノ必要ナキニ至リタルトキハ第五十五條ニ規定
 スル期間滿了前ト雖モ行政官廳ノ處分ヲ以テ之
 ヲ退所セシムベシ

第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準
 用ス

第五十九條 豫防拘禁ノ執行ヲ爲サザルコト二年

ノ罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ
 處ス

第六十三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十四條 本法ニ規定スルモノノ外豫防拘禁ニ

關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 朝鮮ニ在リテハ豫防拘禁ニ關シ地方

裁判所ノ爲スベキ決定ハ地方法院ノ合議部ニ於

テ之ヲ爲ス

朝鮮ニ在リテハ本章中地方法裁判所ノ檢事トアル

ハ地方法院ノ檢事、思想犯保護觀察法トアルハ

朝鮮思想犯保護觀察令、刑事訴訟法トアルハ朝

鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法

トス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六
 年勅令第五百五十三號ヲ以テ昭和十六年五月十五
 日ヨリ施行）

第一章ノ改正規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ定メ
 タル罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ改正規定

ニ及ビタルトキハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢事
 又ハ本人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事
 ハ事情ニ因リ其ノ執行ヲ免除スルコトヲ得
 第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準
 用ス

第六十條 天災事變ニ際シ豫防拘禁所内ニ於テ避
 難ノ手段ナシト認ムルトキハ收容セラレタル者
 ヲ他所ニ護送スベシ若シ護送スルノ暇ナキトキ
 ハ一時之ヲ解放スルコトヲ得
 解放セラレタル者ハ解放後二十四時間内ニ豫防
 拘禁所又ハ警察官署ニ出頭スベシ

第六十一條 本章ノ規定ニ依リ豫防拘禁所若ハ監
 獄ニ收容セラレタル者又ハ勾引狀若ハ逮捕狀ヲ
 執行セラレタル者逃走シタルトキハ一年以下ノ
 懲役ニ處ス

前條第一項ノ規定ニ依リ解放セラレタル者同條

第二項ノ規定ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ

第六十二條 收容設備若ハ械具ヲ損壞シ、暴行若

ハ脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ前條第一項

ニ定ムル刑ガ從前ノ規定ニ定メタル刑ヨリ重キト
 キハ從前ノ規定ニ定メタル刑ニ依リ處斷ス

第二章ノ改正規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル

事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三章ノ改正規定ハ從前ノ規定ニ定メタル罪ニ付

本法施行前刑ニ處セラレタル者ニ亦之ヲ適用ス

本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規

定ニ依リ爲シタル捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍

其ノ效力ヲ有ス

前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定ア

ルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

本法施行前朝鮮思想犯豫防拘禁令ニ依リ爲シタル

豫防拘禁ニ關スル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ

效力ヲ有ス

前項ノ豫防拘禁ニ關スル手續ニシテ本法ニ之ニ相

當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモ

ノト看做ス

◎國境取締法

昭和十四年四月一日
法律第五十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國境取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、司法、陸軍、拓務、外務大臣副署）

國境取締法

第一條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ陸接國境（之ニ接續スル領海ノ境界ヲ含ム）ヨリスル人ノ出入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ規定スル國境ニ接スル土地又ハ水面ニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付人ノ出入ヲ制限スルコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

帝國ノ利益ヲ害スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス此ノ場合ニ於テ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル物ハ何人ノ所有タルヲ問ハズ之ヲ沒收スルコトヲ得

○國境取締法施行令

昭和十四年九月二十七日
勅令第六百七十號

朕國境取締法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍、司法、拓務、外務大臣副署）

國境取締法施行令

第一條 左ニ掲グル國境（之ニ接續スル領海ノ境界ヲ含ム）ヨリスル出入ハ第一號ニ規定スル國境ニ在リテハ朝鮮總督ノ許可、第二號ニ規定スル國境ニ在リテハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ海難其ノ他ノ事由ニ因ル已ムコトヲ得ザル出入ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 朝鮮ニ於ケル慶興橋ヨリ東南方ノ國境但シ慶興橋ヲ含マズ

二 樺太ニ於ケル北緯五十度ノ國境

第二條 國境取締法第二條ノ區域ハ前條第一號ニ規定スル國境ニ在リテハ朝鮮總督國境ヨリ十二キロメートルノ範圍内ニ於テ、同條第二號ニ規定スル國境ニ在リテハ樺太廳長官國境ヨリ二十キロメートルノ範圍内ニ於

第六 其ノ他 國境取締法 國境取締法施行令

國境取締法施行規則（朝鮮）

二九九

第四條 第二條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス
外國ニ潛入スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和十四年勅令第六百六十九號ヲ以テ昭和十四年十月一日ヨリ施行）

テ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 前條ノ區域ニ付テノ出入ハ朝鮮ニ在リテハ當該區域ヲ管轄スル道知事ノ許可、樺太ニ在リテハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ海難其ノ他ノ事由ニ因ル已ムコトヲ得ザル出入及朝鮮總督又ハ樺太廳長官命令ヲ以テ指定シタル者ノ出入ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第一條但書及前條但書前段ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ出入シタル者ハ朝鮮總督又ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨其ノ事情ヲ具シテ届出ヅベシ
第五條 第一條及第三條ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督又ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ國境取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國境取締法施行規則

昭和十四年九月二十九日
朝鮮總督府令第六十號

國境取締法施行規則左ノ通定ム

國境取締法施行規則

第一條 國境取締法施行令（以下單ニ施行令ト稱ス）第一

條第一號ノ國境ヨリスル出入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第一號様式ノ願書三通ニ寫眞(六月以内ニ撮影シタル名刺型無帽半身)三葉ヲ添附シ所轄警察署長ヲ經テ朝鮮總督ニ申請シ國境出入許可書ノ下付ヲ受ケベシ海難其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得ズシテ前項ノ國境ヲ出入シタル者ハ直ニ最寄ノ警察署長ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第二條 施行令第二條ノ區域ハ咸鏡北道慶興郡慶興面及蘆西面(但シ東經百三十度三十八分以東北緯四十二度十六分以北以外ノ海面及蘆西面烏碯岩端ト赤島ノ各南端ヲ連ネタル直線以南ノ土地ヲ除ク)ノ内前條第一項ノ國境ヨリ十二キロメートル以内ノ土地及水面トス前項ノ區域ハ別圖ノ通トシ現場ニ標識ヲ設ケテ之ヲ標示ス

第三條 前條ニ規定スル區域(以下制限區域ト稱ス)ノ出入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第二號様式ノ願書三通ヲ寫眞(六月以内ニ撮影シタル名刺型無帽半身)二葉ヲ添附シ其ノ出入セントスル制限區域所轄警察署長(出入區域ガ二警察署ノ管轄ニ亘ルトキハ其ノ最初ニ出入スル地ノ所轄警察署長)ヲ經テ咸鏡北道知事ニ申請シ制

限區域出入許可書ノ下付ヲ受ケベシ但シ已ムヲ得ザル事由ニ因リ寫眞ヲ添附シ難キトキハ特ニ其ノ旨願出テ指紋ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケントスル者制限區域外ニ居住スル者ナルトキハ前項ノ願書及寫眞ノ外居住地所轄警察署長ノ發給スル制限區域旅行證明書(以下單ニ旅行證明書ト稱ス)ヲ添附スベシ

旅行證明書ノ發給ヲ受ケントスル者ハ第三號様式ノ願書ニ寫眞ヲ添附シテ居住地所轄警察署長ニ申請スベシ海難其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得ズシテ制限區域ニ出入シタル者ハ直ニ最寄ノ警察署長ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第四條 制限區域外ニ居住スル者ニシテ制限區域ノ隣接地帯ニ居住シ又ハ業務其ノ他ノ事由ニ因リ常時制限區域ニ出入スル必要アル者ハ前條第一項及第二項ノ手續ニ準ジ制限區域定期出入許可書ノ下付ヲ受ケルコトヲ得

制限區域定期出入許可書ノ有効期間ハ一年以内トス

第五條 制限區域内ニ居住スル者ハ第四號様式ノ願書ニテ求ムルコトヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ施行令第三條ノ規定ニ依ル道知事ノ許可ヲ受ケズシテ制限區域ニ出入スルコトヲ得

一 二十四歳未満ノ者
二 法令ニ依リ職務ヲ行フ爲メ制限區域ニ出入スル者
三 鐵道又ハ船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニ依リ

制限區域ヲ通過スル者
第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐欺ノ方法ヲ以テ許可書、旅行證明書又ハ身分證明書ノ下付ヲ受ケタル者
二 行使ノ目的ヲ以テ許可書、旅行證明書又ハ身分證明書ヲ不正ニ授受シタル者

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

一 第一條第二項、第三條第四項、第五條又ハ第七條ノ手續ヲ怠リタル者
二 第八條ニ規定スル當該官吏ノ要求ヲ拒ミタル者

附則

寫眞(六月以内ニ撮影シタル名刺型無帽半身)二葉ヲ添附シテ所轄警察署長ニ申請シ身分證明書ノ下付ヲ受ケベシ但シ軍人、軍屬、警察官吏及十四歳未満ノ者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 制限區域内ニ居住スル者ノ制限區域ノ出入ニ付テハ前條ノ身分證明書ヲ以テ第三條ノ制限區域出入許可書ニ代フルコトヲ得

第七條 第一條、第三條、第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル國境出入許可書、制限區域出入許可書、制限區域定期出入許可書(以下單ニ許可書ト稱ス)、旅行證明書又ハ身分證明書ノ記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ下付ヲ受ケタル官署ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ亡失シタル許可書、旅行證明書又ハ身分證明書ヲ發見シタルトキ亦同シ

許可書、旅行證明書又ハ身分證明書不要ト爲リ又ハ有效期間ヲ經過シタルトキハ遲滞ナク其ノ下付ヲ受ケタル官署ニ之ヲ返納スベシ

第八條 當該官吏必要アリト認ムルトキハ國境出入者又ハ制限區域出入者ニ對シ許可書又ハ身分證明書ノ呈示

第六 其ノ他 國境取締法施行規則(朝鮮)

本令ハ國境取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(様式等省略)

○國境取締法施行規則

昭和十四年十月一日
樺太廳令第八十二號

國境取締法施行規則左ノ通定ム

國境取締法施行規則

- 第一條 國境出入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ出入場所ヲ管轄スル警察署長又ハ居住地所轄警察署長ヲ經由シ樺太廳長官ニ願出ツベシ
- 一 本籍(外國人ニ在リテハ國籍出生地)、住所、戶主トノ續柄、職業、氏名及生年月日
 - 二 出入ノ目的
 - 三 出入ノ年月日時
 - 四 出入ノ經路及場所
 - 五 出入ノ方法(船舶ニ依リ出入スル場合ニ在リテハ船種、船名、船主ノ氏名、船籍及噸數ヲ、航空機ニ依リ出入スル場合ニ在リテハ機種、機名、機主ノ氏名、出發地及着陸地ヲ記載スルコト)
 - 六 携帶品ノ種類及數量

前項ノ願書ニハ最近二月以内ニ撮影シタル脱帽、上半身、名刺型、無臺紙ノ寫眞二葉ヲ添附スベシ

第二條 樺太廳長官國境出入ノ許可ヲ爲シタルトキハ第一號様式ニ依ル國境出入許可證(以下許可證ト稱ス)ヲ發給ス

第三條 國境取締法施行令第二條ニ規定スル區域(以下制限區域ト稱ス)ハ左ノ如シ

- 一 淺瀬川川口ヨリ左岸ニ沿ヒ隱澤合流點ニ至リ同合流點ヨリ沖見山頂三角點、武意加山頂ヲ經テ幌内川及古屯川ノ合流點ヲ結ビ古屯川左岸ニ沿ヒ(但シ數香郡數香町大字氣屯宇古屯部落ヲ含マズ)古屯川支流合流點ニ至リ古屯川支流左岸ニ沿ヒ半田山頂ヲ經テビレオ川及西一支流合流點、安別川第二支流合流點ヲ結ビ安別川左岸ニ沿ヒ安別川川口ニ至ル線以北
 - 二 淺瀬川川口左岸及安別川川口左岸ヨリ北緯五十度ニ平行シ引キタル一線以北ノ領海
- 前項ノ制限區域(別圖)ハ實地ニ標識ヲ設ケ之ヲ標示ス
- 第四條 左ニ掲グル者ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケズシテ制限區域ニ付出入スルコトヲ得

一 十四歳未満ノ者

二 法令ニ依リ職務ヲ行フ爲出入スル者

三 船舶國籍證書ヲ受有スル船舶ニ依リ通過スル者

前項第二號ニ掲グル者制限區域ニ付出入セントスルトキハ所屬官公署長ノ發給ニ係ル身分證明書ヲ携帶スベシ

第五條 制限區域ニ付出入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左

ニ掲グル事項ヲ具シ出入場所ヲ管轄スル警察署長又ハ居住地所轄警察署長ヲ經由シ樺太廳長官ニ願出ツベシ

一 本籍(外國人ニ在リテハ國籍及出生地)、住所、戶主トノ續柄、職業、氏名及生年月日

二 出入ノ目的

三 出入年月日

四 出入ノ場所及行動區域

五 出入ノ方法(船舶ニ依リ出入スル場合ニ在リテハ船種、船名、船主ノ氏名、船籍地及噸數ヲ記載スルコト)

六 携帶品ノ種類及數量

前項ノ願書ニハ最近二月以内ニ撮影シタル脱帽、上半

第六 其ノ他 國境取締法施行規則(樺太)

身、名刺型、無臺紙ノ寫眞二葉ヲ添附スベシ

第六條 制限區域ニ付常時出入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ出入場所ヲ管轄スル警察署長

ヲ經由シ樺太廳長官ニ願出ツベシ

一 本籍(外國人ニ在リテハ國籍及出生地)、住所、戶主トノ續柄、職業、氏名及生年月日

二 出入ノ目的

三 出入ノ期間

四 出入ノ場所及行動區域

前項ノ願書ニハ最近二月以内ニ撮影シタル脱帽、上半身、名刺型、無臺紙ノ寫眞二葉ヲ添附スベシ

樺太廳長官ハ三年以内ノ期間ヲ限リ制限區域ノ常時出入ヲ許可ス

第七條 公務員制限區域ニ付出入ノ許可ヲ受ケントスル

トキハ左ニ掲グル事項ヲ具シタル所屬官公署長ノ證明書ヲ添へ樺太廳長官ニ願出ツベシ

一 勤務官公署、官職及氏名

二 出入ノ目的

三 出入ノ年月日又ハ期間

四 出入ノ場所及行動範圍

第八條 樺太廳長官制限區域出入ノ許可ヲ爲シタルトキハ第二號様式ニ依ル制限區域出入許可證(以下許可證ト稱ス)ヲ發給ス

第九條 許可證ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ其ノ事由ヲ具シ前ニ經由シタル警察署長又ハ最寄警察署長ヲ經由シ樺太廳長官ニ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ書換又ハ再交付ヲ受ケントスル者ハ必要ニ應ジ寫眞二葉ヲ添附シ樺太廳長官ニ願出ヅベシ

亡失シタル許可證ヲ發見シタル者ハ七日以内ニ最寄警察署長ヲ經由シ樺太廳長官ニ届出ヅベシ

第十條 許可證不要ト爲リ又ハ有効期間ヲ經過シタルトキハ七日以内ニ前ニ經由シタル警察署長又ハ最寄警察署長ヲ經由シ樺太廳長官ニ返納スベシ

第十一條 警察官吏ハ許可證ノ提示ヲ求メ又ハ國境及制限區域ノ出入ニ關シ必要ナル檢問ヲ爲スコトヲ得

第十二條 海難其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得ズ許可ヲ受ケズシテ國境又ハ制限區域ヲ出入シタル者ハ二十四時間以内ニ左ニ掲グル事項ヲ最寄警察署長ヲ經由シ

樺太廳長官ニ届出ヅベシ

一 出入者ノ本籍(外國人ニ在リテハ國籍及出生地)、住所、戶主トノ續柄、職業、氏名及生年月日

二 出入ノ年月日時

三 出入ノ經路及場所

四 出入ノ方法

五 出入ノ事由及狀況

六 出入後ノ行動及届出後ノ行動ノ豫定

七 其ノ他ノ參考事項

前項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ事由正ミタルトキハ直ニ國境又ハ制限區域外ニ退去スベシ

第十三條 樺太廳長官必要アリト認ムルトキハ國境又ハ制限區域出入ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 行使ノ目的ヲ以テ許可證ヲ授受シタル者

二 第十一條ノ規定ニ依ル提示ヲ爲サズ又ハ檢問ヲ拒ミ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

三 第十二條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ

處ス

一 第九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者
二 第十條ノ規定ニ依ル返納ヲ怠リタル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(様式及別圖省略)

●電信法

明治三十三年三月十四日
法律第五十九號

改正 大正五年第一九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、遞信大臣副署)

電信法

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲

施設スルモノ

二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ

鄰接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡

市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間

ニ施設スルモノ

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五 一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又

ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電信ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ

場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築

ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條 電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り發信人ノ請求ニ依リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ電信官署ニ於テ之ヲ保管ス其ノ保管開始ノ日ヨリ三十日内ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用キタル祕辭隱語ノ説明

ヲ求ムルコトヲ得發信人若其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ發信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徴收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話、無線電信、無線電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 不法ニ電信、電話ヲ施設シ又ハ不法ニ施設シタル電信、電話ヲ使用シタル者ハ千圓

物ノ使用ヲ拒ミ若ハ停車場建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 不法ニ電信、電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下

以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條ノ二 主務官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ施設ノ電信又ハ電話ノ撤去ヲ命シタル場合ニ於テ期間内ニ之ヲ撤去セサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
撤去ヲ命セラレタル私設ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者亦同シ

第二十八條 私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニ非スシテ之ヲ使用シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
私設ノ電信又ハ電話ニ依賴シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條ノ二 第二十七條、第二十七條ノ二第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
第二十九條 第三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信、電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ鐵道用地、停車場建

ノ罰金ニ處ス

第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ電信又ハ電話ニ依リ虚偽ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十四條 削除

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百零五十八條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信若ハ電話ニ依ル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下

ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繋キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ区域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繋キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離

以內ニ於テ前項ノ行爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條 第二十七條、第二十七條ノ二第二項、第二十八條、第三十一條乃至第三十三條、第三十五條、第三十七條、第三十八條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十二條 削除

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附 則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之

ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

附 則 (大正五年法律第十九號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正五年勅令第百八十五號ヲ以テ大正五年八月一日ヨリ施行)

本法施行前ニ差出シタル電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

明治四十三年九月三十日
勅令第四百十二號

朕朝鮮ニ施行スル法律ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、大藏大臣副署)
左ニ掲クル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

一 電信法 (外略)

附 則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六 其ノ他 電信法

以內ニ於テ前項ノ行爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條 第二十七條、第二十七條ノ二第二項、第二十八條、第三十一條乃至第三十三條、第三十五條、第三十七條、第三十八條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十二條 削除

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附 則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之

明治三十三年八月十三日
勅令第三百三十九號

朕郵便法郵便爲替法鐵道船舶郵便法及電信法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (遞信大臣副署)

郵便法郵便爲替法鐵道船舶郵便法及電信法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

明治四十年三月二十九日
勅令第六十四號

朕郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、遞信、內務大臣副署)
郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月十一日
遞信省告示第三百四十一號

改正 明治四三年第四四八號、大正二年第四九六號、昭和五
年第一九二〇號

電信法第五條ノ電信官署及電話官署ハ遞信局トス
但シ寫眞電信ニ依ル通信ニ關シテハ寫眞電報取扱
局トス

◎無線電信法

大正四年六月二十一日
法律第二十六號

改正 大正一〇年第六二號、昭和四年第四五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル無線電信法ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム（總理、遞臣大臣副署）

無線電信法

- 第一條 無線電信及無線電話ハ政府之ヲ管掌ス
- 第二條 左ニ掲クル無線電信又ハ無線電話ハ命令
ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ私
設スルコトヲ得
- 一 航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設
スルモノ
- 二 同一人ノ特定事業ニ用ウル船舶相互間ニ於
テ其ノ事業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ
施設スルモノ
- 三 電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ專
用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電
信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ
陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

四 電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル
公衆通信ノ連絡ナク前號ノ規定ニ依ルヲ不
適當トスル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於
テ同一人ノ特定事業ニ用ウル目的ヲ以テ陸
地又ハ船舶ニ施設スルモノ

五 無線電信又ハ無線電話ニ關スル實驗ニ專用
スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要
アリト認メタルモノ

第三條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其
ノ裝置及運用ニ關スル制限竝私設ノ無線電信又
ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ノ資格及配置定
員ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 私設ノ無線電信及無線電話ハ其ノ施設ノ
目的以外ニ使用スルコトヲ得ス但シ命令ノ定ム
ル所ニ依リ船舶遭難通信、氣象通信、報時通信
其ノ他主務大臣ニ於テ公益上必要ト認ムル通信
ニ限り之ヲ使用スルコトヲ妨ケス

第五條 外國船舶ニ裝置シタル無線電信又ハ無線

第六 其ノ他 無線電信法

電話ハ第二條ノ規定ニ依リ施設シタルモノヲ除
クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ船舶遭難通
信及航行中電信官署又ハ電話官署トノ通信ニ使
用スルコトヲ妨ケス

第六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ
無線電信又ハ無線電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必
要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ公衆通信上又ハ軍事上必要ト
認ムルトキハ私設ノ無線電信、無線電話ノ許可
ヲ取消シ又ハ其ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ
使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得無線電信、無線電
話ノ混信防遏ノ爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第八條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ
私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ裝置
シタル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限、停止
又ハ其ノ機器附屬具ノ除却ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ當該官吏ヲシテ機器附屬具ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第八條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止シ又ハ當該無線電信、無線電話ノ施設者若ハ當該通信ヲ發スル者ニ對シ其ノ通信ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第九條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者本法、本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ其ノ無線電信、無線電話ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者其ノ無線電信又ハ無線電話ノ許可ヲ取消サレタルトキハ主務大臣ノ命スル所ニ依リ其ノ機器工作物ヲ撤去スルコトヲ要ス私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ廢止シタルトキ亦同シ

場所ニ立入り機器工作物及關係書類ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條ノ三 前二條ノ規定ニ依リ當該官吏無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ場所ニ立入ル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ第十四條 政府ハ公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ爲船舶ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ特殊ノ供給又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相當ノ使用料及特殊ノ供給、設備ノ實費ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十五條 公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ無線電信、無線電話、電信、電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ船舶遭難、航行ノ安全、報時、氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第十六條 許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施設シタル無線電信、無

第十一條 私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ施設シタル無線電信、無線電話ハ船舶遭難通信ノ取扱ノ依頼ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 無線電信又ハ無線電話ハ船舶遭難通信アリタル場合ニ於テハ直ニ應答シ救助上最便宜ノ位置ニ在ル無線電信又ハ無線電話ニ通報スヘシ
前項ノ場合ニ於テ特定ノ事項ノ通報ヲ求メラレタルトキハ前項ノ規定ニ依ラス直ニ其ノ通報ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 主務大臣ハ不法ニ無線電信又ハ無線電話ヲ施設スル者アリト認メタルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入り機器工作物ノ検査、機器附屬具ノ除却其ノ他相當ノ措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條ノ二 主務大臣ハ私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置又ハ運用ニ關シ監督上必要ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ

無線電話ヲ使用シタル者又ハ許可ヲ取消サレタル後私設ノ無線電信、無線電話ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第十七條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス
私設ノ無線電信又ハ無線電話ニ依頼シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限停止、設備變更若ハ除却撤去ノ命令ニ從ハサル者ハ千

圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者使用ノ制限又ハ停止ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ從事者ニ付亦同シ

第十九條 第六條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ無線電信、無線電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第十四條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ船舶ノ使用ヲ拒ミ若ハ特殊ノ供給設備ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ通信ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ依リ知得タル前條ニ該當セサル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密ヲ漏泄シタル者ハ一年以下ノ懲役又

項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金、第二項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役、第三項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二十二條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ依リ公然ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 無線電信ノ事務ニ從事スル者電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第二十四條 無線電信、無線電話ノ事務ニ從事ス

ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十一條 不法ニ無線電信、無線電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虚偽ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

公益ヲ害スル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虚偽ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶遭難ノ事實ナキニ拘ラス無線電信又ハ無線電話ニ依リ船舶遭難通信ヲ發シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者第一

ル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

船舶遭難通信ノ取扱ヲ妨害シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十五條 無線電信、無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十六條乃至第二十五條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條 本法ニ基キテ爲ス當該吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ第十三條

若ハ第十三條ノ二ノ規定ニ依ル検査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條 電信法第四條、第十一條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及第四十五條ノ規定ハ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス

第二十八條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ非スト雖高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用ス

第二十八條ノ三 主務大臣ハ無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ニ及ホス障碍ヲ防止スル爲必要ト認ムルトキハ高周波電流ヲ發生スル設備ニシテ無線電信、無線電話又ハ前條ノ通報信號施設ニ非サルモノニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ニ要シタル費用ハ命令ノ定ムル所ニ

依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 本法ハ航空機ニ施設スル無線電信及無線電話ニ關シ之ヲ準用ス

第三十條 本法ノ適用ニ付テハ航空機ハ之ヲ船舶ト看做ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正四年勅令第八十五號ヲ以テ大正四年十一月一日ヨリ施行）

附則（大正十年法律第六十二號）
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年勅令第二百二十六號ヲ以テ昭和二年六月一日ヨリ施行）

附則（昭和四年法律第四十五號）
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年勅令第三百四十五號ヲ以テ昭和五年一月一日ヨリ施行）

施行)

大正四年十月二十六日
勅令第八十六號

朕無線電信法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、遞信大臣副署）

無線電信法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附則
本令ハ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎軍用電氣通信法

昭和九年三月二十九日
法律第三十九號

改正 昭和一五年第一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用電氣通信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信、拓務、海軍、陸軍大臣副署）

軍用電氣通信法

第一條 本法ニ於テ軍用電氣通信トハ軍用ノ電信、電話、無線電信及無線電話竝ニ高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノヲ謂フ

第二條 軍用電氣通信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス

第三條 軍用電氣通信ハ要塞、軍港其ノ他軍事上特ニ必要ナル場所ニ之ヲ施設ス

第四條 軍用電氣通信ハ私設ノ電氣通信ニ之ヲ連接スルコトヲ得

軍用電氣通信ノ線路ノ電氣導體ハ私設ノ電氣通信又ハ電氣事業ノ線路ノ電氣導體ノ支持物ニ之ヲ添架スルコトヲ得

第五條 軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守又ハ測量ノ爲必要アルトキハ軍事官憲ハ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ニ測量標ヲ設置スルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ構内ニ立入ルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ邸宅又ハ構内ニ立入ル場合ニハ占有者ニ豫メ之ヲ通知スベシ

第六條 軍用電氣通信ノ線路ハ必要アルトキハ他人ノ土地又ハ建造物ニ之ヲ建設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建造物ノ所有者其ノ他ノ權利者ニ豫メ之ヲ通知スベシ

前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地又ハ建造物ニ軍用電氣通信ノ線路ノ電氣導體ノ支持物ヲ建設シタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ土地又ハ建造物ノ使用料ヲ支拂フ

第七條 軍用電氣通信ノ線路ノ建設又ハ通信ニ障礙アル竹木其ノ他ノ植物ハ已ムヲ得ザルモノニ限り軍事官憲ハ其ノ伐除若ハ移植ヲ所有者其ノ

他ノ權利者ニ對シ請求シ又ハ自ラ之ヲ伐除スルコトヲ得

第七條ノ二 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ及ボス障礙ヲ防止スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用電氣通信ノ施設場所ノ周圍二千メートルノ距離以內ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

第七條ノ三 特別地域內ニ於テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定スル高周波電流ヲ發生スル設備ヲ施設セントスル者ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得
前項ノ條件ハ軍事上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條ノ四 前條ノ規定ニ依ル制限ノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上特ニ必要アルトキハ命令ヲ以テ特別地域內ニ於テ高周波電流ヲ發生スル機器ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第七條ノ五 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三

第一項ノ規定又ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ除却其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得同項ノ許可ノ效力消滅シタル設備ニ關シ亦同シ

第七條ノ六 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三第一項ノ規定若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備又ハ第七條ノ四ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ使用スル機器ニ關シ軍事官憲ヲシテ障礙防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ七 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ特別地域ノ指定若ハ第七條ノ三第一項ノ指定ノ場合ニ於テ從來存シタル設備ニシテ其ノ後新ニ施設セラレタリトセバ同項ノ規定ニ依ル其ノ施設ノ許可ヲ受クベカリシモノ又ハ特別地域外ニ在ル同項ノ指定ニ該ル設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ當該設備ノ使用ノ制限又ハ當該設備ノ除却若ハ變更、障礙防止ノ施設其ノ他障礙防止ノ爲必要ナル措置ヲ命ジ又ハ緊急ノ必要アルトキハ軍事官憲ヲ

シテ障礙防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ八 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ障礙ヲ及ボス設備ノ施設若ハ機器ノ使用ヲ爲ス者アリト認ムルトキ又ハ第七條ノ四、第七條ノ五若ハ前條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ係ル事項ニ關シ必要アルトキハ當該設備ノ施設者又ハ當該機器ノ使用者ニ對シ報告ヲ命ジ又軍事官憲ヲシテ必要ナル場所ニ立入り検査セシムルコトヲ得

軍事官憲ハ前項ノ検査ノ場合ニ於テ必要アルトキハ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ検査ニ付協力ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 左ニ掲グルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

- 一 第四條第二項ノ規定ニ依ル添架ノ爲電氣導體ノ支持物ニ生ジタル損害
- 二 第五條第一項ノ規定ニ依ル立入又ハ測量標設置ノ爲生ジタル損害

- 三 第六條第一項ノ規定ニ依ル線路建設ノ爲土地又ハ建造物ニ生ジタル損害
- 四 第七條ノ規定ニ依リ伐除シタル植物ノ價額又ハ同條ノ規定ニ依ル植物ノ移植ノ費用
- 五 第七條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタルガ爲既ニ著手シタル設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生ジタル損害
- 六 第七條ノ七ノ規定ニ依リ著シク使用ヲ制限セラレ若ハ措置ヲ命ゼラレ又ハ軍事官憲ガ措置ヲ爲シタル爲生ジタル損害
- 前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第九條 正當ノ事由ナクシテ第四條第一項ノ規定ニ依ル連接又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル添架ヲ拒ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 軍用電氣通信ニ依ル通信ノ祕密ヲ侵シ又ハ通信ノ祕密ヲ漏泄シタル者ハ一年以下ノ懲役

- 又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 軍用電氣通信ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ職務ニ關シ知得タル通信ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前二項ノ規定ハ刑法第二編第三章外患ニ關スル罪、陸軍刑法第二編第一章叛亂ノ罪及海軍刑法第二編第一章叛亂ノ罪ニ關スル規定竝ニ軍機保護法ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ
- 第十一條 軍用電氣通信ノ事務ニ從事スル者軍用電氣通信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非ザル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル
- 第十二條 軍用電氣通信ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ通信ノ取扱ヲ爲サズ又ハ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 第十三條 軍用電氣通信ノ事務ニ從事スル者濫ニ通信ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 軍用電氣通信ニ依ル通信ヲ妨害シ又ハ妨害スベキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守、測量又ハ巡視ヲ妨害シタル者
 - 二 第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設備ヲ設置シ若ハ使用シタル者、同項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設置シタル設備ヲ使用シタル者又ハ同項ノ許可ノ效力消滅シタル後當該設備ヲ使用シタル者
 - 三 第七條ノ五又ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

- 第十五條ノ二 第七條ノ四ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十五條ノ三 第七條ノ六若ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル軍事官憲ノ處分又ハ第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シ、同條第二項ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ同項ノ規定ニ依ル協力ヲ爲サザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ
- 第十六條 軍用電氣通信ノ線路ノ電氣導體又ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ、動物若ハ舟筏ヲ繋ギ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス
- 軍用電氣通信ノ線路ノ測量標ヲ毀棄又ハ汚穢シタル者亦前項ニ同ジ
- 第十七條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定シタル軍用ノ水底軍氣通信線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繋留シ、漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ軍用ノ水底電氣通信線路ノ號標ニ舟筏ヲ繋ギ若ハ

○軍用電氣通信法施行令

昭和十五年九月十四日
勅令第五百八十七號

朕軍用電氣通信法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、陸軍、拓務、逓信、海軍大臣副署)

軍用電氣通信法施行令

- 第一條 陸軍大臣又ハ海軍大臣軍用電氣通信法第七條ノ
二ノ規定ニ依ル特別地域ノ指定、同法第七條ノ三第一
項ノ規定ニ依ル設備ノ指定又ハ同法第七條ノ四ノ規定
ニ依ル制限ヲ爲サントスルトキハ關係各大臣(朝鮮總
督、臺灣總督又ハ樺太廳長官)ノ所管事項ニ關シテハ各
朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官)ニ協議スベシ
- 第二條 特別地域ノ指定ハ軍用ノ無線電信、無線電話又
ハ高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノノ固定シタ
ル設備(電線路ヲ除ク)ノ施設場所ノ周圍ニ付之ヲ爲ス
ベシ
- 第三條 陸軍大臣又ハ海軍大臣特別地域ヲ指定シタルト
キハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公示ス
- 第四條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ軍用電氣通信法第七條

ノ三第一項又ハ第七條ノ四ノ規定ニ依ル制限ニ係ル行
爲ヲ爲サントスルトキハ内閣總理大臣又ハ各省大臣
(朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ヲ含ム)ニ在リテハ
陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議シ其ノ他ノ官廳ニ在リテ
ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ承認ヲ受ク
ベシ

- 第五條 陸軍大臣又ハ海軍大臣軍用電氣通信法第八條ノ
規定ニ依ル補償ヲ伴フベキ同法第七條ノ三第一項ノ規
定ニ依ル設備ノ指定又ハ同法第七條ノ七ノ規定ニ依ル
命令ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ
 - 第六條 軍用電氣通信法第八條ノ規定ニ依リ補償スベキ
損害ハ通常生ズベキ損害ニ限ル
 - 第七條 軍用電氣通信法第八條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求
セントスル者ハ損害ヲ生ジ又ハ費用ヲ要シタル日ヨリ
六十日以内ニ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ請求スベシ
 - 第八條 軍用電氣通信法第二十二條ノ規定ニ依リ公衆通
信ノ用ニ供スル軍用電氣通信ハ逓信大臣(朝鮮ニ在リ
テハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リ
テハ樺太廳長官以下之ニ同シ)之ヲ告示ス
- 軍用電氣通信ニ依ル公衆通信ノ取扱ニ關シ必要ナル事

項ハ逓信大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十五年法律第一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和九年勅令第三百十二號ハ之ヲ廢止ス

○軍用電氣通信法施行規則

昭和十五年九月十四日
陸軍、海軍省令第八號

軍用電氣通信法施行規則左ノ通定ム

軍用電氣通信法施行規則

- 第一條 本令ニ於テ法トハ軍用電氣通信法ヲ、施設トハ
設備ノ設置、使用又ハ變更ヲ謂フ
- 第二條 陸軍又ハ海軍ノ制服ヲ着用セザル軍事官憲法第
五條第一項又ハ法第七條ノ八ノ規定ニ依リ立入、檢査
又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第一又ハ附圖第二ニ
定ムル證票ヲ携帯スベシ
- 第三條 法第五條第二項又ハ法第六條第一項ノ規定ニ依
ル通知ハ邸宅若ハ構内ニ立入り又ハ線路ヲ建設スベキ
日ノ三日前迄ニ之ヲ爲ス但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ
ハ此ノ限ニ在ラズ

第六 其ノ他 軍用電氣通信法施行規則

- 第四條 法第六條第二項ニ規定スル使用料ハ當該土地又
ハ建造物ノ所有者ニ對シ其ノ請求ニ依リ之ヲ支拂フ
- 第五條 前條ノ規定ニ依リ支拂フベキ使用料ハ建設シタ
ル支持物一箇ニ付一年四錢トス但シ二本以上ノ脚ヲ有
スル支持物ヲ建設シタル場合ニ於テハ當該支持物一箇
ニ付一年四錢以内ノ増額ヲ爲スコトアルベシ
- 第六條 特別地域ヲ指定シタルトキハ其ノ區域ヲ告示ス
但シ陸軍大臣ノ指定スル特別地域ト海軍大臣ノ指定ス
ル特別地域ト重複スル場合ニ於テハ陸軍大臣及海軍大
臣連署シテ之ヲ告示ス
- 前項ノ規定ハ告示シタル區域ニ變更アリタル場合及特
別地域ノ指定ヲ解除シタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第一項ニ規定スル區域ニ付テハ關係人ノ閱覽ニ供スル
爲其ノ圖面ヲ當該區域ヲ管轄スル市(市制第六條ノ市
ノ區ヲ含ム)役所、町村役場(朝鮮ニ在リテハ府廳、
邑面事務所、臺灣ニ在リテハ市役所、街庄役場)、警察
署(臺灣ニ在リテハ郡役所、支廳ヲ含ム)又ハ憲兵隊(憲
兵分隊、憲兵分遣隊ヲ含ム)ニ備付ク
- 第七條 法第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ要スル
設備ヲ別表ノ如ク指定ス

第八條 法第七條ノ第三項ノ規定ニ依ル許可ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ其ノ指定スル軍事官憲(以下許可官憲ト稱ス)之ヲ爲ス

前項ノ許可ヲ爲ス者ニ關シテハ之ヲ告示ス

第九條 特別地域内ニ於テ別表ニ掲グル設備ヲ設置又ハ使用セントスル者ハ許可願書(三通)ニ左ニ掲グル事項ヲ具シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官憲ニ之ヲ提出スベシ第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一 施設者ノ名及住所

二 施設ノ目的(施設ヲ必要トスル事由ヲ附記スベシ)

三 設備ノ種類及其ノ概要(電氣的部分ニ付テハ機器ノ種類、定格、爲シ得レバ接続圖並ニ電力供給者名及配電線路名ノ外電氣通信ノ通信ニ及ボス障礙ヲ防止スル特殊ノ設備アルトキハ之ヲ附記スベシ)

四 設備ノ設置場所(之ヲ記入セル其ノ附近ノ圖面ヲ添附スベシ)

五 設備ノ設置豫定期間及使用時間(使用時間ハ成ルベク時刻ヲ明カニスベシ)

第十條 第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ陸軍大臣又ハ

條ノ規定ヲ準用ス

第十六條 軍用電氣通信法施行令第四條ノ規定ニ依リ陸海軍以外ノ官廳ニ於テ承認ヲ受ケントスルトキハ第九條乃至前條ノ規定ニ準シ承認申請書ヲ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官憲ニ提出スベシ

第十七條 陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官憲許可又ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可願書一通ヲ添附シタル許可證又ハ承認申請書一通ヲ添附シタル承認證ヲ交付ス

第十八條 第十四條ニ規定スル使用ニ關スル許可證又ハ同條ノ規定ヲ準用シタル第十六條ノ規定ニ依ル使用ニ關スル承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帯シ何時ニテモ許可官憲、軍用電氣通信設備當該部隊ノ職員、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十九條 許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官憲ニ遲滞ナク届出テ必要ニ應ジ再下附ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下附ヲ受ケザルトキト雖モ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 第九條ニ關スル許可ヲ受ケタル者ハ當該設備

第六 其ノ他 軍用電氣通信法施行規則

陸軍ノ許可官憲及海軍大臣又ハ海軍ノ許可官憲ヲ連記シタル許可願書(六通)ヲ陸軍大臣若ハ陸軍ノ許可官憲又ハ海軍大臣若ハ海軍ノ許可官憲ニ提出スベシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ提出スル場合ニ於テ許可ヲ受クベキ事項ニシテ別ニ法令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ先ヅ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類若ハ許可書ノ寫又ハ其ノ出願シタルコトヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第十二條 第九條第一號ノ事項ニ變更アリタルトキ又ハ許可ヲ得タル設備ヲ廢止シ若ハ休止シタルトキハ遲滞ナク書面ヲ以テ其ノ旨ヲ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官廳ニ届出ヅベシ

第十三條 府、縣、市、町、村其ノ他公共團體及法人ノ許可願書ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第十四條 法第七條ノ四ノ規定ニ依リ特別地域内ニ於テ別表ニ掲グル指定設備中第一號乃至第四號ノ裝置ト同一種類ニ屬スル携帯用機器ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官憲ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 前條但書ノ許可ニ關シテハ第九條乃至第十三

ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲グベシ前項ノ規定ハ第九條ノ規定ヲ準用シタル第十六條ニ關スル承認ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 法第八條ノ規定ニ依リ補償ヲ請求セントスル者ハ補償請求書ニ損害算定書ヲ添附シ許可官憲ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ

第二十二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣補償金額ヲ決定シタルトキハ請求者ニ書面ヲ以テ之ヲ通知ス

第二十三條 法第十七條第一項ノ規定ニ依リ指定シタル軍用ノ水底電氣通信線路ノ區域及方向ハ其ノ陸揚地ニ於ケル線路ノ兩側ニ附圖第三ノ號標ヲ設置シ之ヲ表示ス

第二十四條 許可證ヲ所持スベキ者第十八條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

附則

本令ハ昭和十五年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス
昭和九年陸軍省令第一號ハ之ヲ廢止ス

附圖第一

(日本標準規格B列八番)

第 號 昭和 年 月 日交付

陸 軍 省 印

海 軍 省 印

官 職 氏 名

軍用電氣通信法摘要

第五條第一項 軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守又ハ測量ノ爲必要アルトキハ軍事官憲ハ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ニ測量標ヲ設置スルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ構内ニ立入ルコトヲ得ズ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守、測量又ハ巡視ヲ妨害シタル者

軍用電氣通信法施行規則摘要

第二條 陸軍又ハ海軍ノ制服ヲ着用セザル軍事官憲法第五條第一項又ハ法第七條ノ八ノ規定ニ依リ立入、検査又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第一又ハ附圖第二ニ定ムル證票ヲ携帯スベシ

附圖第二

(日本標準規格B列八番)

第 號 昭和 年 月 日交付

陸 軍 省 印

海 軍 省 印

官 職 氏 名

軍用電氣通信法摘要

第七條ノ八 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ障碍ヲ及ボス設備ノ施設若ハ機器ノ使用ヲ爲ス者アリト認ムルトキ又ハ第七條ノ四、第七條ノ五若ハ前條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ係ル事項ニ關シ必要アルトキハ當該設備ノ施設者又ハ當該機器ノ使用者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ軍事官憲ヲシテ必要ナル場所ニ立入り検査セシムルコトヲ得

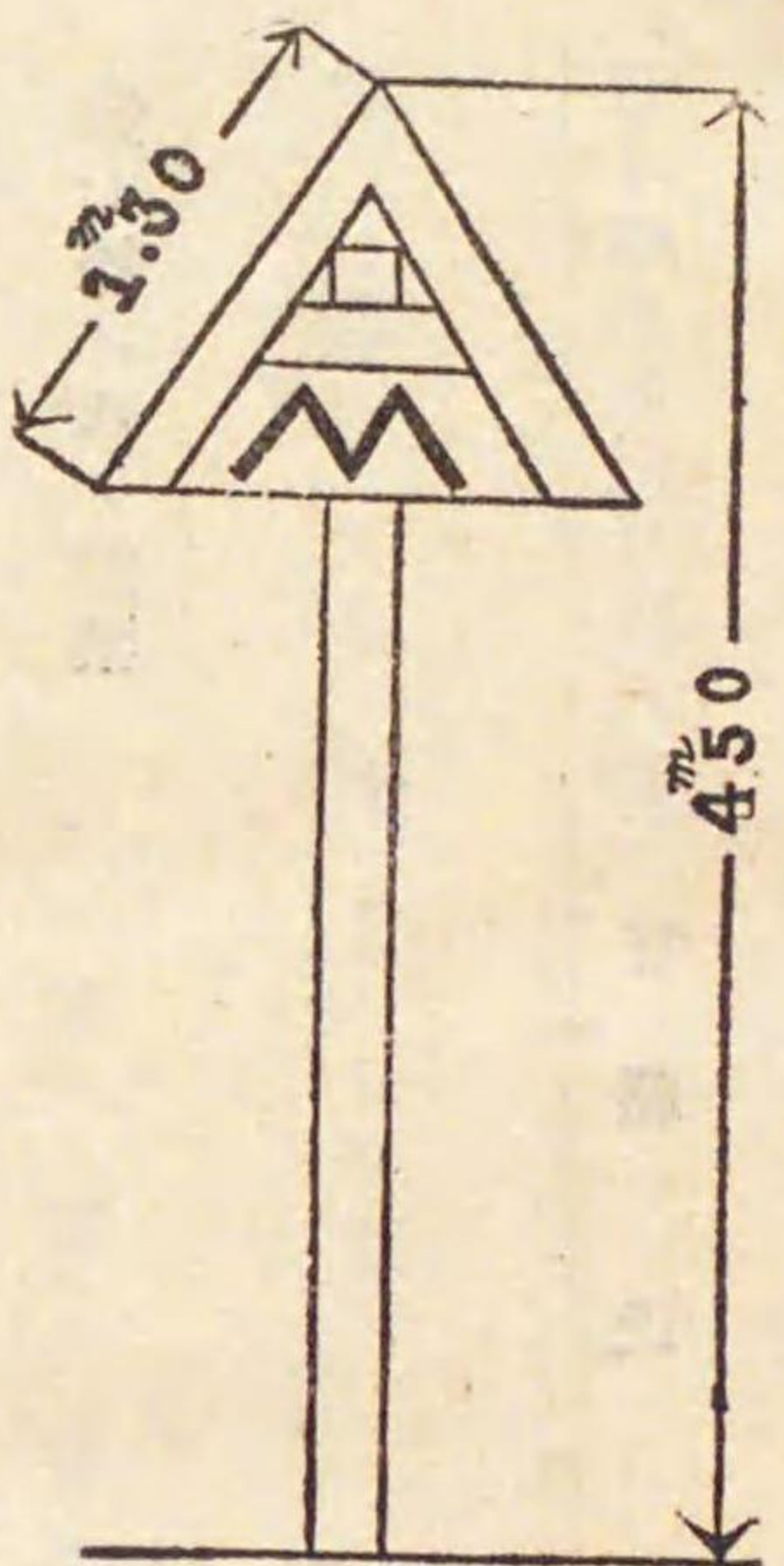
軍事官憲ハ前項ノ検査ノ場合ニ於テ必要アルトキハ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ検査ニ付協力ヲ爲サシムルコトヲ得


第十五條ノ三第一項 第七條ノ六若ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル軍事官憲ノ處分又ハ第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨グ又ハ忌避シ、同條第二項ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ同項ノ規定ニ依ル協力ヲ爲サザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍用電氣通信法施行規則摘要

第二條 陸軍又ハ海軍ノ制服ヲ着用セザル軍事官憲法第五條第一項又ハ法第七條ノ八ノ規定ニ依リ立入、検査又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第一又ハ附圖第二ニ定ムル證票ヲ携帯スベシ

附圖第三



(海軍大臣指定ノ場合ハ、ノ符號ヲ附ス)
 ノ幅約五十糎・高約二十五糎・字徑約四
 糎トシ黑色トス
 ノ幅約二十糎・高約二十五糎トシ黑色ト
 ス

別表

- 一 高周波加熱器
- 高周波炉
- ホンバータ
- 等
- 二 高周波熔接機
- 機械的整流器ヲ使用スル「エックス」線装置
- 三 高周波ヲ發生スル電氣醫療裝置

高周波電氣醫療機

- デアテルミ
- ラジオテルミ
- ダルトンワール裝置(ラヂオレーヤ等)
- 電氣メス
- 等
- オゾン發生器
- 感傳電氣醫療機
- 平流電氣醫療機

五 左ニ掲グル裝置ニシテ整流子附電動機ヲ使用ス
 ルモノ

- 齒科エンジン
- 電氣錐
- 毛髮乾燥器
- 電器バリカン
- 眞空掃除器
- 電氣揚水ポンプ
- 電氣冷蔵庫
- 電氣洗濯機

●船舶法

明治三十二年三月八日
 法律第四十六號

改正 明治三十八年第六八號、昭和十四年第六八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル船舶法ヲ裁可シ茲ニ之
 ヲ公布セシム(總理、遞信大臣副署)

船舶法

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
- 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
 - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
 - 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式會社及ヒ有限會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
 - 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ

第六 其ノ他 船舶法

- 電氣サイレン
- 扇風器
- エレベーター
- 特殊同期電動機
- 等
- 六 左ニ掲グル裝置ニシテ斷續器ヲ使用スルモノ
- 徐動式恒溫器ヲ使用スル裝置
- 電氣炬燵
- 電氣孵卵器
- 等
- 點滅式電氣サイン
- 振動式充電裝置
- 等
- 七 電氣收塵裝置(コットレル式)
- 八 電氣漂白裝置
- 九 水銀整流器
- 十 タンガ―充電器
- 十一 架空送電線路、架空配電線路及架空饋電線路
- 十二 發電所、變電所及之ニ準ズル場所
- 十三 電氣鐵道

ノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ

登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ

船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到著シタル地

ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解散セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一个月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ

得

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ

掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法

【數人共犯】ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法【第七十八條乃至第八十條】ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス
第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法【未遂犯罪】ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附 則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第四編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船

船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船假免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有效期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿假免狀ノ有效期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ

條ノ規定ハ之ヲ樺太ニ施行ス但シ同法第三條ニ規定スル主務大臣ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

大正十三年四月十九日
勅令第九十三號

朕船舶法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣副署)

船舶法第一條乃至第三條、第二十二條及第二十三

◎航空法

大正十年四月九日
法律第五十四號

改正 昭和二年第三四號、一四年第六八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル航空法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍、大藏、陸軍、内務、遞信大臣副署)

航空法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル飛行機、航空船、氣球、滑空機其ノ他航空ノ用ニ供スル機器ヲ謂フ

本法ニ於テ航空ニハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸ニハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

- 一 日本國又ハ日本ノ公共團體
- 二 日本臣民
- 三 日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株

式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全
員、株式會社及有限會社ニ在リテハ取締役
ノ全員カ日本臣民タルモノ

四 前號ニ掲クル法人以外ノ法人ニシテ日本法
令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣
民タルモノ

第三條 本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條
ノ規定ヲ除クノ外軍用航空機ニ之ヲ適用セス
國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、
第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十
四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ
規定ヲ爲スコトヲ得

勅令ヲ以テ指定スル航空機ニ付テハ第二章乃至
第四章ニ規定スル事項ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ
規定ヲ爲スコトヲ得

第四條 航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ
別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 航空機ノ検査及登録
第五條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、

長スルコトヲ得

第七條 第五條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有
者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登録ヲ申請スルコ
トヲ得

航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名
稱、登録記號其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ト
ス

登録シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ
所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官
廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

登録シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ
依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ
他ノ登録事項ヲ記載シタル登録證明書ヲ交付
ス

第八條 航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ
於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起
算シ十四日以内ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付
スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

第六 其ノ他 航空法

部分品、技功及製品ニ付行政官廳ノ検査ヲ受ク
ヘシ

堪航證明書ナキ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ
付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ
前二項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪
航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
行政官廳ノ許可ヲ受ケタル航空機ニ之ヲ適用セ
ス

第六條 堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場
合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

一 堪航證明書ニ記載シタル有効期間ヲ經過シ
タルトキ

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用
ノ禁止ヲ命シタルトキ

前項第一號ノ有効期間ハ前條ノ検査ニ合格シタ
ル日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ定
ム有効期間ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ依リ検査
ノ日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ延

二 解撤セラレタルトキ

三 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルト
キ

登録シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場
合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨ
リ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ登録證明書ヲ
返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解撤セラレタルトキ

三 日本國籍ヲ喪失シタルトキ

四 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルト
キ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹
消登録ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消登録ノ申請ナキトキ又ハ
第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ
以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第九條 登録シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ
依リ其ノ國籍記號、登録記號並所有者ノ氏名名

稱及住所ヲ表示スヘシ

第十條 航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且
堪航證明書及登録證明書ヲ備付クルニ非サレハ
之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ檢
査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ
航空機ノ試験ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル
場所ニ於テ航空スル航空機ニ關シテハ之ヲ適用
セス

第十三條 第五條、第七條、第八條及第十一條ニ
規定スルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關ス
ル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基
キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航
空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコト
ヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルト
キハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シ

從事セサルトキ、第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ
必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ
制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルト
キハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタ
ルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乗員ハ
其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空
免狀ヲ返付スヘシ

第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十一條 飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區
域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛
行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受
クヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供
セサル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セサル
飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムト
スル者亦同シ

第二十二條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ
命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲

タルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章 乗員

第十五條 航空機ノ乗員ニ非サレハ航空機ニ搭乘
シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス
乗員ハ技倆證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要
ス

第十六條 技倆證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行
政官廳ノ行フ考査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス
技倆證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第十七條 乗員ハ航空免狀ヲ携帯スルニ非サレハ
運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乗員ニ對シ定期又ハ臨時ニ
検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命
令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乘シテ運
航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乗員ト同乗シ共
同シテ運航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セス

第二十條 行政官廳ハ乗員引續キ六月以上運航ニ

スヘシ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ
行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場
ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得
ス

第二十三條ノ二 行政官廳ハ航空ノ安全保持ノ爲
公共ノ用ニ供スル飛行場又ハ公示セラレタル飛
行場豫定地ノ境界ヨリ外方千「メートル」ノ區域
内ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ特別地域内ニ於テ工作物、船舶、竹木其
ノ他ノ物件ヲ設置、定繋又ハ植栽セムトスル者
ハ該物件カ其ノ存スル地點ヨリ最短距離ニ在ル
飛行場ノ境界地點ヲ基準トスル水平面上左ノ各
號ノ高サヲ超ユル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可
ヲ受クヘシ但シ「メートル」ヲ超エサル農作物
ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區
域内ニ在リテハ物件ノ存スル地點ト其ノ地
點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點ト

ノ水平距離ノ三十分ノ一ノ高サ

二 前號ノ區域ノ外方ノ特別地域内ニ在リテハ

物件ノ存スル地點ト其ノ地點ヨリ最短距離

ニ在ル前號ノ區域ノ外方境界地點トノ水平

距離ノ二十分ノ一ニ十七「メートル」ヲ加ヘ

タル高サ

第二十三條ノ三 行政官廳ハ前條ノ規定ニ違反シ

テ設置、定繋又ハ植栽シタル工作物、船舶、竹

木其ノ他ノ物件ニ付其ノ所有者又ハ之ニ代リ其

ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニ對シ期限ヲ定メ

前條第二項ニ規定スル高サヲ超ユル部分ノ除去

其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得竹木ニシ

テ前條第二項ニ規定スル高サヲ超ユルニ至リタ

ルモノニ付亦同シ

前條第一項ノ規定ニ依ル特別地域指定ノ場合ニ

於テ現ニ存スル物件カ前條第二項ニ規定スル高

サヲ超ユルトキハ行政官廳ハ其ノ所有者又ハ之

ニ代リ其ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニ對シ期

限ヲ定メ其ノ高サヲ超ユル部分ノ除去其ノ他必

第二十五條 第二十三條ノ三第二項ノ規定ニ依ル

行政官廳ノ命令ニ基ク措置又ハ前條ノ規定ニ依

ル立入、除去若ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛

行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ第二十三條ノ二第

一項ノ規定ニ依ル特別地域ノ指定アリタルカ爲

既ニ著手シタル工作物其ノ他ノ設備ヲ廢止シ又

ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生シタ

ル損害ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル補償ノ金額ニ關シ協議調ハサ

ルトキハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受

ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出

訴スルコトヲ得

第二十六條 第二十三條ノ二、第二十三條ノ三、

前條及第五十九條第一號ノ規定ハ軍用ニ供スル

飛行場又ハ公示セラレタル飛行場豫定地ニ付特

別地域ヲ指定スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又

ハ届出ニ關スル規定ヲ除ク外軍用ニ供スル飛行

要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五

百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ル

ヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要

ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維

持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日

出後日没前ニ限り他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙

ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ

物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營

者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通

知スヘシ

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲

緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人

ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去

シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ

得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ遲滞ナク其ノ旨行

政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ

通知スヘシ

場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於

テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル

航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用

ス

第二十七條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ

他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛

行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ

得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ

限ニ在ラス

前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ

請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官

廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條 公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者

ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ運

航スル他人ニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ

於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス

第五章 航空及運送

第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛

行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ

禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得
ス但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サ
ル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル
トキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ
神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」
以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス
前項ニ掲クル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁
止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

第三十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ
行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得
第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官
廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供
スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至
リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航
空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著陸スルコトナク
シテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行

收用法ヲ適用ス

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付
テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス
但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモ
ノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條ノ二 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ航空ノ安全ヲ害スルノ虞アル航空標識類似ノ
燈火ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十九條 關稅法中船舶、船長、船用品及海路
運送並之ニ關スル犯則事件ノ調査、處分及處罰
ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ
機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送並之ニ關
スル犯則事件ノ調査、處分及處罰ニ付之ヲ準用
ス但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行
場トス

第四十條 第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ
爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四
條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキ
ハ稅關官吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官

政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ
第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至
リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航
空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ
外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離
陸スヘシ

第三十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有
償ニテ日本各地ノ間又ハ日本國外ト日本國內ト
ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得
ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限
ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ
日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章 雜則

第三十七條 航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供ス
ル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使
用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外
ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地

吏ニ、稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ
警察官吏ニ遲滯ナク届出ツヘシ

前項ニ規定スル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ク
ルニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス
第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至
ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行
ス
前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定
ム

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互
間ニ付之ヲ準用ス
前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付
テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令
ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類
及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項
- 二 保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載

- スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類、寫眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項
- 三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項
- 四 航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト航空機又ハ船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項
- 五 航空標識及其ノ設置ニ關スル事項
- 六 飛行場ノ設備ニ關スル事項
- 第四十五條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得
- 第四十六條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ヲ要スル帳簿書類及物件ニ關シ檢査ヲ爲スコトヲ得
- 第四十七條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

- 二 第七章 罰則
- 第四十八條 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效タラシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十九條 詐僞ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
- 第五十條 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
- 前條ノ罪ヲ犯シ因テ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ
- 第五十一條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
- 第五十二條 過失ニ因リ航空ノ危險ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

者

- 其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十三條 詐術ヲ用キ第五條若ハ第十一條ノ檢査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登錄セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第五條又ハ第十一條ノ檢査ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者
 - 三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛僞ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル

- 第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス
- 第三十條第二項ノ規定ニ依リ制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依リ禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第二十三條ノ三又ハ第二十四條第一項ノ規

定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者
 二 故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨
 ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス
 若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以
 下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏
 名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空
 ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ氏名名稱若ハ
 住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シ
 タル者

二 第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登
 録證明書ヲ備附ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ
 供シタル者

三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者
 第六十一條 第二十一條、第二十二條、第二十七
 條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十
 六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者
 ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓
 以下ノ罰金ニ處ス
 一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケ
 スシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者

第六十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓
 以下ノ過料ニ處ス

一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタ
 ル者
 二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依
 ル登録ノ申請ヲ怠リタル者

三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル堪航
 證明書又ハ登録證明書ノ返付ヲ怠リタル
 者

四 第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返
 付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタ
 ル者
 前項ニ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取

締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ
 適用ス

第六十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二
 百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年
 勅令第四百號ヲ以テ昭和二年六月一日ヨリ施行）

附則（昭和十一年法律第三十四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十二
 年勅令第二百三十六號ヲ以テ昭和十二年六月一日
 ヨリ施行）

○航空法施行令

昭和十二年五月三十一日
 勅令第二百三十七號

朕航空法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞
 信、海軍、内務、拓務、陸軍大臣副署）

航空法施行令

第一條 航空法第三條第三項ノ規定ニ依リ左ノ航空機ヲ
 指定ス

滑空機

第二條 航空法第二十三條ノ二第一項又ハ第二十六條第
 一項ノ飛行場豫定地ハ現地ニ於テ表示スルノ外官報
 （朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府官報、臺灣ニ在リテハ臺灣
 總督府報、樺太ニ在リテハ樺太廳公報）ヲ以テ之ヲ告示
 ス但シ命令ヲ以テ別段ノ公示方法ヲ定ムルコトヲ得

第三條 遞信大臣航空法第二十三條ノ二第一項ノ規定ニ
 依リ特別地域ヲ指定セントスル場合ニ於テ該指定ガ都
 市計畫又ハ港灣若ハ其ノ修築計畫ニ影響スルコトアル
 ベシト認メラルトキハ内務大臣ニ協議スベシ
 内務大臣航空法第二十三條ノ二第一項ニ規定スル區域
 内ニ於テ都市計畫法第十條第一項ノ規定ニ依ル地域ノ
 指定又ハ港灣修築計畫ノ決定ヲ爲サントスルトキハ遞

信大臣ニ協議スベシ

第四條 航空法中行政官廳トアルハ陸軍ノ用ニ供スル飛行場又ハ其ノ豫定地ニ關シテハ陸軍大臣、海軍ノ用ニ供スル飛行場又ハ其ノ豫定地ニ關シテハ海軍大臣トス

附則

本令ハ昭和十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年陸軍省令第十三號(航空法施行ニ關スル件)

昭和十二年六月一日
陸軍省令第十三號

航空法施行ニ關スル件左ノ通定ム

- 第一條 航空法第二十六條第一項ノ陸軍ノ軍用ニ供スル飛行場豫定地ヲ設定シタルトキハ左ノ事項ヲ告示ス
示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
- 一 飛行場名及其ノ所在地名
- 二 經營者
- 第二條 航空法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ陸軍ノ軍用ニ供スル飛行場又ハ公示セラレタル飛行場豫定地ニ

付特別地域ヲ指定シタルトキハ左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

- 一 飛行場名及其ノ所在地名
- 二 經營者
- 三 特別地域ノ區域
- 四 飛行場豫定地ニ在リテハ特別地域ノ設定上必要ナル境界ノ豫定ノ高サ
- 特別地域ノ指定ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス
- 第三條 軍用上必要アルトキハ前二條ニ規定スル告示ニ代ヘ飛行場豫定地又ハ特別地域ハ實地ニ標識ヲ設ケ之ヲ表示ス但シ此ノ場合ニ於テハ當該飛行場又ハ飛行場豫定地ノ經營者ヨリ關係市町村長其ノ他關係アル官公署ニ前二條ニ規定スル事項中必要ナル事項ヲ告知ス
- 第四條 航空法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ同法第二十三條ノ二第二項ニ規定スル許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書ニ左ノ事項ヲ具シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該飛行場又ハ飛行場豫定地ノ經營者ヲ經由シ之ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ但シ官廳及本令第五條ノ場合ニ於テハ地方長官ノ證明ヲ要セズ
- 一 行爲ノ種類及目的

二 物件ノ豫定ノ高サヲ示スベキ設計又ハ計畫ノ概要

(工事ニ附帶スル臨時ノ工作物ヲ含ム)

三 行爲地ノ位置及面積ヲ示スベキ要圖

四 設置、定案又ハ植栽ノ期間

第五條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ先ヅ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第六條 本令第四條ノ許可申請ニ對シ許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

許可證ハ行爲ヲ爲ス者必ズ携帯シ何時ニテモ憲兵及警察官吏ノ閱覽ニ供スベシ

第七條 航空法第二十六條第二項ノ規定ニ依リ同法第二十五條第二項ニ規定スル補償金額ノ決定ヲ求メントスル者ハ相手方トノ交渉願末ヲ記載シタル申請書ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ

陸軍大臣前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ寫ヲ相手方ニ交付シ期限ヲ定メ答辯書ヲ提出セシム

第八條 前條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル期限内ニ答辯書ノ提出ナキトキ又ハ申請書寫ノ交付ヲ爲スコト能

第六 其ノ他 航空法施行ニ關スル件(陸軍、海軍)

ハザルトキハ陸軍大臣ハ申請書ノミニ依リ補償金額ヲ決定ス

第九條 陸軍大臣補償金額ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定書ニ理由ヲ附シ之ヲ申請者及相手方ニ交付ス

第十條 航空法第二十六條ノ規定ニ依リ同法ヲ準用スル場合ニ於テハ經營者ハ陸軍ノ用ニ供スル飛行場又ハ飛行場豫定地ニ關シテハ當該飛行場又ハ飛行場豫定地ヲ管理スル師團ノ經理部長トス本令中ノ經營者ニ付亦同シ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年海軍省令第十二號(航空法施行ニ關スル件)

昭和十二年六月一日
海軍省令第十二號

航空法施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 海軍大臣海軍ノ用ニ供スル飛行場豫定地ヲ設定シタルトキハ左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

- 一 飛行場ノ名稱
- 二 飛行場豫定地ノ所在
- 三 飛行場豫定地ノ境界
- 四 飛行場豫定地ヲ管理スル鎮守府又ハ要港部
- 第二條 海軍大臣海軍ノ用ニ供スル飛行場(飛行場豫定地)ニ付航空法第二十六條第一項及同法第二十三條ノ第二項ノ規定ニ依リ特別地域ヲ指定シタルトキハ左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一 飛行場ノ名稱

- 二 飛行場(飛行場豫定地)ノ所在
- 三 飛行場(飛行場豫定地)ノ境界
- 四 特別地域ノ區域
- 五 飛行場(飛行場豫定地)ヲ管理スル鎮守府又ハ要港部

第三條 軍事上必要アルトキハ前二條ニ規定スル告示ニ代ヘ現地ニ於テ之ヲ標示スルト共ニ必要ノ向ニ告知ス
前項ノ場合ニ於テ前二條ニ規定スル告示事項ニ關シ其ノ詳細ヲ知ラントスル者ハ海軍省又ハ飛行場(飛行場

豫定地)ヲ管理スル鎮守府若ハ要港部ニ願出ツベシ

第四條 海軍ノ用ニ供スル飛行場(飛行場豫定地)ニ付指定シタル特別地域内ニ於テ航空法第二十三條ノ第二項及同法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該飛行場(飛行場豫定地)ヲ管理スル鎮守府司令長官又ハ要港部司令長官ヲ經由シ海軍大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地
- 二 申請事項及目的
- 三 工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ヲ設置、定繋又ハ植栽セントスル期間、位置及面積ヲ示ス圖面並ニ物件(臨時ノ物件ヲ含ム)ノ高サヲ示スベキ設計又ハ計畫ノ概要

第五條 鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ハ其ノ管理スル飛行場(飛行場豫定地)ノ特別地域内ニ於テ航空法第二十六條第一項及同法第二十三條ノ三ノ規定ニ依リ物件ノ除去其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルノ要アリト認めタルトキハ事由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ經テ之ヲ行フベシ

◎外國人ノ入國、滞在及退去

ニ關スル件 昭和十四年三月一日 內務省令第六號

改正 昭和十四年第二號

外國人ノ入國、滞在及退去ニ關スル件左ノ通定ム (外務大臣連署)

外國人ノ入國、滞在及退去ニ關スル件

第一條 本令ニ於テ入國トハ外國人十五日以上滞邦スル場合ヲ謂ヒ通過トハ十五日未滿滞邦スル場合ヲ謂フ

第二條 本邦ニ渡來スル外國人ニシテ左ノ各號ノ

- 一 該當スル者ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ニ於テ其ノ入國又ハ通過ヲ禁止スベシ
- 一 旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ所持セザル者
- 二 帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲シ又ハ敵國ノ利便ヲ圖ル虞アル者
- 三 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ル虞アル者

第六條 航空法第二十五條第一項及同法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ求メントスル者ハ事由ヲ具シ之ヲ飛行場(飛行場豫定地)ヲ管理スル鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ申請スベシ

第七條 鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ハ前條ノ規定ニ依ル補償金額ニ關シ申請者ト協議調ハザルトキハ交渉頭末ニ所見ヲ附シ海軍大臣ニ具申スベシ

第八條 海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキハ補償金額ヲ決定シ決定書ニ理由ヲ附シ鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ヲ經テ之ヲ申請者ニ交付ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六 其ノ他 外國人ノ入國、滞在及退去ニ關スル件

四 各種傳染病患者其ノ他公衆衛生上危險ナル疾患アル者

五 心神喪失者、心神耗弱者、貧困者其ノ他救助ヲ要スベキ虞アル者

六 第五條第二項ニ違反シタル者

前項第一號ノ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ハ本人ノ寫眞ヲ貼附シタルモノニシテ所屬國官憲又ハ國際慣例ニ依ル特定國官憲ノ發給ニ係リ且本邦上陸前一年以内ニ在外帝國大公使若ハ領事官ノ査證ヲ經タルモノ又ハ其ノ發給ニ係ル渡航證明書ニ限ル

査證ハ入國査證又ハ通過査證トス通過査證ハ通過一回限り有效トス

第三條 航空機ニ依リ本邦ニ渡來スル外國人ニシテ前條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ地方長官ニ於テ之ヲ降機セシメ最近出航ノ船舶又ハ航空機ニ依リ本法ヲ退去セシムベシ

第四條 帝國臣民ノ入國ニ關シ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ノ提示ヲ必要トセザ

實ナル監護人又ハ身元引受人ノ保證アリ地方長官ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ其ノ入國又ハ通過ヲ特許スルコトヲ得
通過特許又ハ入國特許ヲ受ケントスル外國人ハ別記第二號様式ニ依リ上陸地地方長官ニ特許ヲ願出ヅベシ

地方長官外國人ニ對シ第一項又ハ第二項ノ特許ヲ與フル場合ハ別記第三號様式ニ依リ入國特許證又ハ通過特許證ヲ發給スベシ但シ旅券其ノ他ノ證明書ヲ所持スル場合ニ於テハ之ニ別記第四號様式ニ依リ入國特許又ハ通過特許ノ證印ヲ押捺スベシ

本邦ヲ通過スル外國人ニシテ入國セントスル者ハ地方長官ニ於テ第一項又ハ第二項ニ準ジ其ノ入國ヲ特許スルコトヲ得

第七條 本邦ヲ通過スル外國人ハ十五日以上滯邦スルコトヲ得ズ

本邦ニ入國スル外國人ニシテ三十日以上滯邦セントスル者ハ上陸ノ日ヨリ十日以内ニ別記第五

第六 其ノ他 外國人ノ入國、滯在及退去ニ關スル件

ル國ノ國民ニ付テハ第二條第一項第一號ノ規定ヲ、其ノ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ニ當該國官憲ノ査證ヲ必要トセザル國ノ國民ニ付テハ同條第二項中査證ニ關スル規定ヲ適用セザルコトヲ得

第五條 本邦ニ渡來スル外國人ハ各寄港地（飛行場ヲ含ム）ニ於テ警察官吏ノ査閱ヲ經タル後ニ非ザレバ入國又ハ通過スルコトヲ得ズ

前項ノ査閱ニ際シ外國人ハ別記第一號様式ニ依リ申告書ニ事實ヲ記入署名シ、當該警察官吏ノ請求ニ應ジ旅券其ノ他ノ證明書ヲ提示シ、必要ナル事項ノ質問ニ對シ眞實ナル陳述ヲ爲スベシ

第六條 有效ナル旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ所持セザル外國人ニシテ之ヲ所持セザルコトニ付相當ノ事由アリト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ入國又ハ通過ヲ特許スルコトヲ得

第二條第一項第五號ニ該當スル外國人ニシテ確

號様式ニ依リ上陸地又ハ其ノ現ニ滯在スル地ノ地方長官ニ滯邦許可ヲ願出ヅベシ

滯邦期間滿了後引續キ滯邦セントスル外國人ハ期間滿了十日前迄ニ別記第六號様式ニ依リ居住地又ハ滯在地地方長官ニ滯邦期間延長ノ許可ヲ願出ヅベシ

滯邦許可又ハ滯邦期間延長許可ノ期間ハ一年以内トス

第八條 營業ニ依リ外國人ヲ宿泊セシムル者ハ宿泊ノ時ヨリ十二時間以内ニ左ノ事項ヲ所轄警察署長ニ届出ヅベシ

- 一 氏名
- 二 國籍
- 三 住所
- 四 年齢
- 五 職業
- 六 本邦ニ於ケル上陸地
- 七 前夜宿泊地
- 八 行先地

九 投宿日時

前項ノ届出ハ所轄ノ派出所若ハ駐在所又ハ巡回ノ警察官吏ニ之ヲ爲スコトヲ得
宿泊外國人ハ營業主若ハ管理人又ハ之ニ代ルベキ者ノ請求アルトキハ第一項ニ掲ゲタル事項ヲ告ゲ又ハ用紙ニ記載スベシ

第九條 六十日以上滯邦スル外國人ハ上陸ノ日ヨリ五十日以内ニ別記第七號様式ニ依リ所轄警察署長ニ居住届出ヲ爲スベシ但シ十五歳未満ノ者ハ此ノ限ニ在ラズ
居住届出事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察署長ニ届出ツベシ

第一項ノ外國人其ノ居住所ヲ移轉シタルトキハ移轉ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ旨移轉先所轄警察署長ニ届出ツベシ

第十條 警察署長ハ外國人居住登録簿ヲ作製シ前條ノ規定ニ依リ届出ヲ受ケタル事項ヲ登録スベシ
外國人居住登録簿ノ閲覽ヲ請求セントスル者ハ

手数料トシテ二十錢ヲ納付スベシ

第十一條 居住届出ヲ爲シタル外國人ハ最近六月内ニ撮影シタル寫眞(正面、脱帽、半身像、Portrait × Gen形ニシテ臺紙ニ貼附セザルモノ)一葉ヲ轄警察署長ニ提出シ居住證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ居住證明書ノ交付ヲ請求セントスル者ハ手数料トシテ一枚ニ付五十錢ヲ納付スベシ

第十二條 第九條ノ届出ヲ爲シタル外國人ニシテ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ取得シ得ザル者滿洲國又ハ支那ニ旅行セントスルトキハ別記第八號様式ニ依リ居住地所轄警察署長ニ旅行證明書ノ下付ヲ願出ツベシ

旅行證明書ハ發給ノ日ヨリ六月間有效トス
旅行證明書ノ下付ヲ受ケタル者ハ手数料トシテ一部ニ付二十圓ヲ納付スベシ
旅行證明書ヲ所持スル外國人ニシテ滿洲國又ハ支那ニ駐在スル帝國大使若ハ領事官ノ査證ヲ經前項ノ有効期間内ニ本邦ニ歸來スル者ニ對シ

テハ第二條第一項第一號ノ規定ヲ適用セズ

第十三條 外國人船員ニシテ搭乘船舶ノ本邦港灣ニ碇泊中當該港ノ所屬スル市町村域ニ限り一時上陸シ歸船スル者ニ對シテハ第二條第一項第一號ノ規定ヲ適用セズ

第十四條 外國人第八條第一項各號ニ掲グル事項又ハ第九條ノ届出事項其ノ他必要ナル事項ニ關シ警察官吏ノ質問ヲ受ケタルトキハ眞實ナル陳述ヲ爲スベシ
旅券、國籍證明書、船員手帳又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ携帯スル外國人ハ警察官吏ノ請求ニ應ジ之ヲ提出スベシ

第十五條 入國特許ヲ受ケタル者ハ二十圓通過特許ヲ受ケタル者ハ十圓ノ手数料ヲ納付スベシ
滯邦許可又ハ滯邦期間延長許可ヲ受ケタル者ハ十圓ノ手数料ヲ納付スベシ但シ帝國臣民ニ對シ此ノ種ノ手数料ヲ徵收セザル國ノ國民ニ對シテハ之ヲ免除ス
左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ前二項ノ

手数料ハ之ヲ免除ス

一 十五歳未満ノ者
二 天災其ノ他不可抗力ニ因リ入國又ハ通過ヲ特許セラレタル者

三 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ於テ此ノ種ノ手数料ヲ徵收セラレタル者ニシテ外國ニ出國スルコトナク引續キ内地ニ渡來シタル者

四 前三號ニ掲グル者ノ外内務大臣ニ於テ特ニ其ノ必要アリト認メタル者
第十六條 第十條乃至第十二條及前條ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スベシ

第十七條 六十日以上滯邦スル外國人本邦ヲ出國セントスルトキハ豫メ居住地所轄警察署長ニ其ノ旨届出ツベシ
地方長官ハ前項ノ規定ニ違反シタル外國人ノ入國又ハ通過ヲ禁止スルコトヲ得

第十八條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ帝國領土外ニ退去ヲ命ズルコトヲ得

- 一 第二條第一項各號ノ一ニ該當スル者
- 二 他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券若ハ國籍證明書又ハ旅行證明書其ノ他之ニ代ルベキ證明書ヲ行使シタル者
- 三 虚偽ノ方法ニ依リ旅券若ハ國籍證明書又ハ旅行證明書其ノ他之ニ代ルベキ證明書ノ查證ヲ經タル者
- 四 第五條第一項ノ規定ニ違反シタル者
- 五 第七條第二項又ハ第三項ノ許可ヲ受ケズシテ滯邦スル者
- 第十九條 第五條第二項、第七條第一項乃至第三項、第八條、第九條又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
- 第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 地方長官ノ退去命令ニ違反シタル者
 - 二 第十八條第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル者

附則

本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ帝國領土内ニ居住スル外國人ニ關シテハ第七條及第九條ニ定ムル願出又ハ届出ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス
 大正七年一月内務省令第一號外國人入國ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

防諜關係法令集 終

法令索引

法令索引

宇品港域軍事取締法第八條ニ關スル件(昭和十二年陸軍省令第二十九號)……………二八五

カ

●海軍刑法……………八一
海軍刑法施行法……………九五
海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件(明治四十一年勅令第二百十九號)……………一〇〇
○外國人ノ入國、滞在及退去ニ關スル件……………三五五
外國爲替管理法……………三三
外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル件(明治三十八年法律第六十六號)……………二六
關東州ニ於ケル軍機保護ニ關スル件(昭和十二年陸軍省令第四十四號)……………三九
關東州ニ於ケル軍機保護ニ關スル件(昭和十二年海軍省令第二十九號)……………四九
關東州防禦營造物地帶令……………二四〇

法令索引

關東州防禦營造物地帶令施行細則(陸軍)……………二四二
關東州防禦營造物地帶令第二條ニ依ル地帶區域(大正八年陸軍省告示第十五號)……………二四五
關稅法……………三六
官廳ノ所管ニ屬スル軍用資源祕密ノ指定及保護ニ關スル件(昭和十五年臺灣總督府令第二百二十五號)……………一九五

ク

吳軍港ノ境域ニ關スル件(昭和八年勅令百十一號)……………二五七
吳要塞地ニ於ケル禁止制限解除ノ事項及其ノ區域(大正十五年海軍省告示第八號)……………二三三
○軍用資源祕密保護法……………一五一
○軍用資源祕密保護法施行令……………一五六
○軍用資源祕密保護法施行規則……………一六一
〔參照〕軍用資源祕密保護法施行規則(改正前抄錄)……………一七五
軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件(昭和十四年司法省令第二十六號)……………一七七
軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件(昭和十四年臺灣總督府令第三百二十四號)……………一九七
○軍用電氣通信法……………三九九

軍用電氣通信法施行令……………三六
 軍用電氣通信法施行規則……………三七
 ○軍港要港ニ關スル件(明治二十三年法律第二號)……………四六
 ○軍港要港規則……………四七
 ○軍港要港規則違反者處分ノ件(明治二十三年法律第八十三號)……………四五
 ○軍機保護法……………一〇一
 ○軍機保護法施行規則(陸軍)……………一〇六
 [參照] 軍機保護法施行規則(改正前抄録)(陸軍)……………一〇五
 ○軍機保護法施行規則(海軍)……………一三〇
 [參照] 軍機保護法施行規則(改正前抄録)(海軍)……………一四四
 刑 法(抄録)……………二
 ○國防保安法……………一
 ○國防保安法施行令……………九
 ○國境取締法……………二九
 國境取締法施行令……………二九九

國境取締法施行規則(朝鮮)……………二九九
 國境取締法施行規則(樺太)……………三〇一
 國有鐵道軍用資源祕密保護規則……………一八七
 國家總動員法……………五〇
 ○航空法……………三三九
 航空法施行令……………三五二
 航空法施行ニ關スル件(昭和十二年陸軍省令第十三號)……………三五二
 航空法施行ニ關スル件(昭和十二年海軍省令第十二號)……………三五三
 ○佐世保軍港ノ境域ニ關スル件(昭和五年勅令第七十七號)……………三五八
 ○昭和五年勅令第七十七號(佐世保軍港ノ境域ニ關スル件)……………三五八
 ○昭和七年勅令第三百五十一號(橫須賀軍港ノ境域ニ關スル件)……………三五六
 ○昭和八年勅令第一百一十一號(吳軍港ノ境域ニ關スル件)……………三五七

昭和十二年法律第九十二號(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律)……………四
 昭和十二年陸軍省令第十三號(航空法施行ニ關スル件)……………三五三
 昭和十二年海軍省令第十二號(航空法施行ニ關スル件)……………三五三
 昭和十二年陸軍省令第二十九號(宇品港域軍事取締法第八條ニ關スル件)……………二八五
 昭和十二年陸軍省令第四十四號(關東州ニ於ケル軍機保護ニ關スル件)……………二九
 昭和十二年海軍省令第二十九號(關東州ニ於ケル軍機保護ニ關スル件)……………二四九
 昭和十三年勅令第三百三十三號(山口縣德山ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)……………二六五
 昭和十四年司法省令第二十六號(軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件)……………一七七
 昭和十四年臺灣總督府令第三百三十四號(軍用資源祕密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件)……………一七
 昭和十五年朝鮮總督府令第二百十七號(朝鮮總督ノ所管ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關スル件)……………一九三

昭和十五年臺灣總督府令第二百五號(官廳ノ所管ニ屬スル軍用資源祕密ノ指定及保護ニ關スル件)……………一九五
 昭和十六年陸軍省告示第七號乃至第十號及第十二號(要塞地帶法第十六條ニ依ル東京灣要塞地帶ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ノ件)……………二三三
 昭和十六年陸軍省告示第十一號(要塞地帶法第十六條ニ依ル高雄要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ノ件)……………二二六
 ○船舶法……………三三三
 政治ニ關スル犯罪處罰ニ關スル件(大正八年制令第七號)……………三三
 ○大正八年制令第七號(政治ニ關スル犯罪處罰ニ關スル件)……………三三
 ○大正八年陸軍省告示第十五號(關東州防禦營造物地帶令第二條ニ依ル地帶區域)……………三四五

大正十二年勅令第五十八號(朝鮮慶尙南道昌原郡
鎮海ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)……………二六〇
大正十五年法律第六十號(暴力行爲等處罰ニ關ス
ル件)……………二六〇
大正十五年海軍省告示第八號(吳要塞地ニ於ケル
禁止制限解除ノ事項及其ノ區域)……………二六三
臺灣陸、海軍防禦營造物地帶(陸、海軍省告示)……………二六三
臺灣國防用防禦營造物區域ニ關スル地圖取締規程……………二六六

チ

○治安維持法……………二六七
治安警察法……………二六八
朝鮮刑事令(抄錄)……………二七〇
朝鮮陸、海軍防禦營造物地帶(陸、海軍省告示)……………二七四
朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ
定ムルノ件(大正十二年勅令第五十八號)……………二七六
朝鮮總督ノ所管ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關ス
ル件(昭和十五年朝鮮總督府令第二百十七號)……………二八三

ツ

通貨及證券模造取締法……………二八四
通貨及證券模造取締規則……………二八五

律)……………二八六
明治三十八年勅令第二百六十三號(陸奥國下北郡
大湊ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)……………二八二
明治三十九年勅令第二百五十七號(旅順港ノ境域
ヲ定ムル件)……………二八九
明治三十九年勅令第二百六十三號(旅順港規則制
定及該規則違反者罰則ノ件)……………二九四
明治四十一年勅令第二百十八號(陸軍刑法施行前
ニ公布シタル命令ニ關スル件)……………二八〇
明治四十一年勅令第二百十九號(海軍刑法施行前
ニ公布シタル命令ニ關スル件)……………二八〇
明治四十三年勅令第三百四號(旅順港ニ關スル件)……………二八四

七

文部大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關ス
ル件……………二九一
ハ
爆發物取締罰則……………二九二
ヒ
匪徒刑罰令……………三〇三

フ
法令索引……………三〇三

テ

遞信大臣ノ指定ニ係ル軍用資源祕密ノ保護ニ關ス
ル件……………一八三

○電信法……………三〇五

マ

舞鶴軍港境域令……………二五九

ム

○無線電信法……………三二二

陸奥國下北郡大湊ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムル
ノ件(明治三十八年勅令第二百六十三號)……………二六二

メ

○明治二十三年法律第二號(軍港要港ニ關スル件)……………二六六
○明治二十三年法律第八十三號(軍港要港規則違反
者處分ノ件)……………二五五

明治三十二年勅令第三百五十八號(要塞地帶法ニ
規定スル要塞司令官ノ職務ニ關スル件)……………三三二
明治三十四年勅令第四百十號(澎湖島馬公ヲ要港
ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件)……………二六一
明治三十八年法律第六十六號(外國ニ於テ流通ス
ル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法

不穩文書臨時取締法……………二四四

ホ

暴力行爲等處罰ニ關スル件(大正十五年法律第六
十號)……………二九〇

澎湖島馬公ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件
(明治三十四年勅令第四百十號)……………二六一

ヤ

山口縣徳山ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件
(昭和十三年勅令第三百二十三號)……………二六三

ユ

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和
十二年法律第九十二號)……………二八八

エ

○要塞地帶法……………一九九
要塞地帶法施行規則(陸軍)……………二〇五
要塞地帶法施行規則(海軍)……………二二三
要塞地帶法第三條及第六條ニ依ル陸、海軍防禦營
造物地帶(陸、海軍省告示)……………二三四
要塞地帶法ニ規定スル要塞司令官ノ職務ニ關スル
件(明治三十二年勅令第三百五十八號)……………三三二

要塞地帶法第十六條ニ依ル東京灣要塞地帶ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ノ件其ノ他(昭和十六年陸軍省告示第七號乃至第十號及第十二號)……二二三

要塞地帶法第十六條ニ依ル鎮海灣要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ノ件(昭和十六年陸軍省告示第十三號)……二二六

要塞地帶法第十六條ニ依ル高雄要塞地ニ於ケル制限解除ノ事項及其ノ區域ノ件(昭和十六年陸軍省告示第十一號)……二二六

橫須賀軍港ノ境域ニ關スル件(昭和七年勅令第三百五十一號)……二五六

○陸軍刑法………六一

陸軍刑法施行法………七五

陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件(明治四十一年勅令第二百十八號)………八〇

○陸軍輸送港域軍事取締法………二七〇

○陸軍輸送港域軍事取締法施行規則………二七四

陸軍防禦營造物出入規則………三三三

旅順港規則制定及該規則違反者罰則ノ件(明治三

十九年勅令第二百六十三號)………二六四

旅順港ニ關スル件(明治四十三年勅令第三百四號)………二六四

旅順港規則………二六四

旅順港ノ境域ヲ定ムル件(明治三十九年勅令第二百五十七號)………二六九

法令索引終

防諜關係法令集

定價金貳圓八拾錢

司法省刑事局編纂

編輯責任者

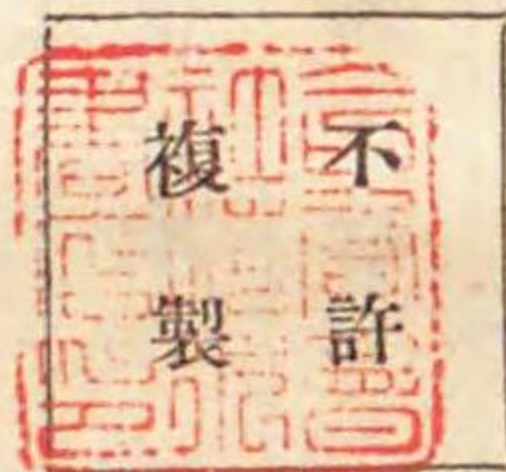
岩間利明

發行者

代表社員 葉多野 太兵衛
合資會社清水書店
東京市神田區神保町三丁目十三番地

印刷者

菊池新吾
東京市神田區西神田二丁目三番地



昭和十六年七月一日印刷
昭和十六年七月五日發行

發行所

電話九段五七八番
振替東京七八六二七番

東京市神田區神保町三丁目十三番地
合資會社 清水書店

配給元

東京市神田區淡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社

清水書店刊行書目抄

横田秀雄	法學論集	定價 四十五錢 送料 十錢
前原光雄	パウン ド氏原著 法律と道德	定價 十金 送料 五錢
土井寛申	テリ ー氏 原著 法律原論	定價 金七圓五十錢 送料 三十三錢
清水澄	法制教科書	定價 金七十九錢 送料 九錢
河津暹	經濟教科書	定價 金四十九錢 送料 六錢
清水澄	帝國公法大意(合本)	定價 金六圓五十錢 送料 三十三錢
清水澄	帝國公法大意 第一分册 憲法	定價 金三圓二十錢 送料 十錢
清水澄	帝國公法大意 第二分册 行政法	定價 金二圓六十錢 送料 十錢
清水澄	增訂 帝國憲法大意	定價 金二圓三十錢 送料 十錢
清水澄	增訂 日本行政法大意	定價 金二圓三十錢 送料 十錢
宇賀田順三	行政法研究其一 地方自治の基本問題	定價 金五圓三十錢 送料 三十三錢
宇賀田順三	行政法研究其二 自治制度改革と特別市制問題	定價 金五圓六十錢 送料 三十三錢
宇賀田順三	立憲自治の本義(選舉改正の考へ方)	定價 金二十二錢 送料 十一錢

